

基本計画書

基本計画											
事項		記入欄							備考		
計画の区分		学部の学科の設置									
フリガナ設置者		コリツダ'イ'カクジン カ'ダ'イ'ク 国立大学法人 佐賀大学									
フリガナ大学の名称		カ'ダ'イ'ク 佐賀大学(Saga University)									
大学本部の位置		佐賀県佐賀市本庄町1番地									
大学の目的		国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、社会、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的		経済・経営・法理論を基礎学力として、社会科学の思考プロセス及びデータサイエンスの基礎力を着実に習得することにより、デジタル社会に対応する以下の人材を養成する。 ① 社会課題の解決に向け、データサイエンスを駆使し、戦略・政策を立案・実行できる能力を持ったプロジェクトマネジメント人材 ② 社会科学の思考プロセスを基にデータサイエンス基礎力を兼ね備えたプロジェクトマネジメント能力により、社会課題に解像度高く複眼的に対応できる人材 この能力に加え、個人ではなくチームとして行動する計画をたて、協力して課題解決をやり遂げる力を養い、個人と組織、また、異なる組織間をつなぐコミュニケーション能力に優れた「ブリッジ能力」を持つ人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地		
	経済学部 経済学科	年	人	年次人	人			年 月 第 年次			
	計	4	230	—	920	学士(経済学)	経済学関係	令和9年4月 第1年次	佐賀県佐賀市本庄町1番地		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計						
	経済学部経済学科	318科目	21科目	2科目	341科目	124単位					
学部等の名称				基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
				教授	准教授	講師	助教	計			
新設	経済学部経済学科			人	人	人	人	人	人	人	
				13 (15)	10 (11)	0 (0)	0 (0)	23 (26)	1 (1)	279 (276)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの			13 (15)	10 (11)	0 (0)	0 (0)	23 (26)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）			13 (15)	10 (11)	0 (0)	0 (0)	23 (26)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）			13 (15)	10 (11)	0 (0)	0 (0)	23 (26)				
分	計			13 (15)	10 (11)	0 (0)	0 (0)	23 (26)	1 (1)	— (—)	

既 設 分	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		<0> 【1】 (1)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【1】 (1)					
	計（a～d）		<0> 【9】 (10)	<2> 【3】 (5)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<2> 【12】 (15)					
	計		<0> 【9】 125 (177)	<2> 【3】 119 (131)	<0> 【0】 15 (15)	<0> 【0】 115 (117)	<2> 【12】 374 (440)	<0> 【0】 2 (2)	－ (－)			
合 計		<0> 【9】 138 (192)	<2> 【3】 129 (142)	<0> 【0】 15 (15)	<0> 【0】 115 (117)	<2> 【12】 397 (466)	<0> 【0】 3 (3)	－ (－)				
職 種			専 属		その他			計				
事 務 職 員			273 人 (273)		382 人 (382)			655 人 (655)				
技 術 職 員			67 (67)		98 (98)			165 (165)				
図 書 館 職 員			12 (12)		13 (13)			25 (25)				
そ の 他 の 職 員			841 (841)		228 (228)			1,069 (1,069)				
指 導 補 助 者			5 (5)		15 (15)			20 (20)				
計			1,198 (1,198)		736 (736)			1,934 (1,934)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計	大学全体		
	校 舎 敷 地		408,617 m ²		0 m ²		0 m ²		408,617 m ²			
	そ の 他		422,234 m ²		0 m ²		0 m ²		422,234 m ²			
	合 計		830,851 m ²		0 m ²		0 m ²		830,851 m ²			
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計	大学全体		
			149,697 m ² (149,697 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		149,697 m ² (149,697 m ²)			
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		739 室		教 員 研 究 室		468 室	大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での 特定不能なため、 大学全体の 数
	経済学部経済学科		693,000 [215,000] (668,037 [207,316])		20,300 [17,300] (22,413 [18,657])		20,500 [11,100] (21,770 [12,339])		8,700 [7,170] (9,964 [8,279])	9,000 (8,000)	50 (50)	
	計		693,000 [215,000] (668,037 [207,316])		20,300 [17,300] (22,413 [18,657])		20,500 [11,100] (21,770 [12,339])		8,700 [7,170] (9,964 [8,279])	9,000 (8,000)	50 (50)	
スポーツ施設等			スポーツ施設			講堂			厚生補導施設			
			1,910 m ²			0 m ²			6,648 m ²			
経費 の見 積り 及び 維持 方法 の概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による		
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—			
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—			
		図 書 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—			
		設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—			
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
				— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要												

	大 学 等 の 名 称	佐賀大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	【学部】 教育学部 共同教員養成課程	4	120	—	120	学士(教育学)	1.09 ≪1.07≫	令和8	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	令和8年度より学生募集停止
	学校教育課程	4	—	—	—	学士(学校教育)	—	平成28	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	
	芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科	4	110	3年次 5	450	学士(芸術) 学士(地域デザイン)	1.09 ≪1.05≫	平成28	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	令和9年度より学生募集停止 令和8年度入学定員減(△10人) 令和8年度入学定員減(△10人) 令和8年度入学定員減(△10人)
	経済学部								佐賀県佐賀市本庄町 1番地	
	経済学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	平成25		
	経営学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	平成25		
	経済法学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	平成25		
	医学部 医学科	6	101	—	614	学士(医学)	1.03 ≪1.02≫	平成16	佐賀県佐賀市鍋島5- 1-1	令和8年度入学定員増(3人)
	看護学科	4	60	—	240	学士(看護学)	1.00	平成16	佐賀県佐賀市鍋島5- 1-1	
	理工学部 理工学科	4	500	3年次 15	2,030	学士(理学) 学士(工学)	1.08 ≪1.02≫	平成31	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	令和6年度入学定員増(30人) 入学定員10人、収容定員10人はコスメティックサイエンス学環
	農学部 生物資源科学科	4	155	—	590	学士(農学)	1.05 ≪1.04≫	平成31	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	令和8年度入学定員増(30人) 入学定員20人、収容定員20人はコスメティックサイエンス学環
	コスメティックサイエンス学環	4	30	—	30	学士(学術)	1.00	令和8	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	
	【大学院】 学校教育学研究科 教育実践探究専攻 (専門職学位課程)	2	20	—	40	教職修士(専門職)	0.95	平成28	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	
	地域デザイン研究科 地域デザイン専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(地域デザイン)	1.05	平成28	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	
	医学系研究科 医科学専攻 (博士課程)	4	25	—	100	博士(医学)	1.07	平成20	佐賀県佐賀市鍋島5- 1-1	
	先進健康科学研究科 先進健康科学専攻 (修士課程)	2	52	—	104	修士(医科学) 修士(看護学) 修士(理学) 修士(工学) 修士(農学)	1.20	平成31	佐賀県佐賀市鍋島5- 1-1	
	理工学研究科 理工学専攻 (博士前期課程)	2	167	—	334	修士(理学) 修士(工学)	1.18	平成31	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	
	理工学研究科 理工学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士(理学) 博士(工学)	1.20	令和3	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	
	農学研究科 生物資源科学専攻 (修士課程)	2	32	—	64	修士(農学)	1.29	平成31	佐賀県佐賀市本庄町 1番地	

附属施設の概要	名称：アドミッションセンター 目的：入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、本学の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成19年10月 規模等：土地　－　㎡　建物　76　㎡	
	名称：ウェルビーイング創造センター 目的：学生及び地域に住む人々に対し、包括的な切れ目ない学修支援、キャリア形成支援及びリカレント教育支援を実施することにより、学修者のウェルビーイングを深化させることを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：令和6年4月 規模等：土地　－　㎡　建物　206　㎡	
	名称：国際交流推進センター 目的：部局及び地域社会と連携し一体となって、海外の教育研究機関との国際交流の進展に寄与することを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成23年10月 規模等：土地　－　㎡　建物　318　㎡	
	名称：ダイバーシティ推進室 目的：本法人のダイバーシティの推進を目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成29年5月 規模等：土地　－　㎡　建物　25　　㎡	
	名称：リージョナル・イノベーションセンター 目的：本法人の学術を振興し、知的財産の創出及び活用を図ることにより、産学地域連携を推進するとともに、イノベーションを創出する中核的拠点として、本学の研究及び社会連携の機能を強化し、地域産業の発展、地域人材の育成及び地域社会に寄与することを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成29年10月 規模等：土地　－　㎡　建物　150　　㎡	
	名称：教育開発推進センター 目的：本学の目的、使命にのっとり、本学の教育ビジョン・教育目標の実現に向けた戦略を策定し、必要な取組の企画・実施をするとともに、学生の入学から卒業までを一貫的に捉えた包括的・体系的取組を主導することを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：令和7年4月 規模等：土地　－　㎡　建物　0　㎡	
	名称：教養教育センター 目的：本学の目的及び使命にのっとり、全学協力体制の下、本学の共通教育、国際教育に関する企画、立案及び実施をすることにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の充実及び発展を図ることを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：令和7年4月 規模等：土地　－　㎡　建物　9,407　㎡	
	名称：附属図書館 目的：教育、研究及び社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な図書、雑誌等の資料はじめ学術情報を収集し、整理、作成、保存して提供することを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成元年4月 規模等：土地　－　㎡　建物　7,433　㎡	
	名称：美術館 目的：本学の目的、使命にのっとり、本学の教育、研究、社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な芸術資料等を収集、保存、管理及び調査し、並びに展示公開することを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成25年6月 規模等：土地　－　㎡　建物　1,473　㎡	
	名称：保健管理センター 目的：本学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的とする。 所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：昭和45年4月 規模等：土地　－　㎡　建物　673　㎡	

附属施設の概要

名 称	： 海洋エネルギー研究所
目 的	： 共同利用・共同研究拠点として、海洋エネルギーとその複合利用に関する研究を行い、かつ、全国の大学の教員その他の研究機関の研究者で、センターの目的たる研究と同一の分野の研究に従事するものの利用及び研究に供することを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市本庄町 1 番地、佐賀県伊万里市山代町久原字平尾 1 番48号
設 置 年 月	： 平成14年 4 月
規 模 等	： 土地 11,168 m ² 建物 4,698 m ²
名 称	： 総合分析実験センター
目 的	： 生物資源開発・機器分析・放射性同位元素利用・環境安全管理に関する体制を一元化し、各部門が有機的な連携を保ちつつ、教育・研究を効率的に推進するための拠点施設として、学際的・複合的な領域研究にも対応できる教育・研究支援体制の実現を目指すことを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市本庄町 1 番地
設 置 年 月	： 平成14年 4 月
規 模 等	： 土地 - m ² 建物 6,332
名 称	： 総合情報基盤センター
目 的	： 本学の学術情報を支える基幹情報システムを統括するとともに、本学の共通的情報基盤の整備推進及び電子図書館機能の充実並びに事務情報化の推進を図ることを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市本庄町 1 番地
設 置 年 月	： 平成18年 2 月
規 模 等	： 土地 - m ² 建物 1,028 m ²
名 称	： シンクロトロン光応用研究センター
目 的	： 本学の共同利用研究施設として、シンクロトロン光を応用して行う研究を推進し、その成果を公表することにより、本学の研究教育活動及び学術交流の活性化を図るとともに、地域社会における先端科学技術開発及び産学連携の振興に資することを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市本庄町 1 番地
設 置 年 月	： 平成13年 6 月
規 模 等	： 土地 - m ² 建物 443 m ²
名 称	： 地域学歴史文化研究センター
目 的	： 地域（佐賀）の歴史文化の固有性と普遍性を探求することにより、本学の文系基礎学の発展・充実を図り、もって新たな学問体系としての地域学を創造するとともに、広く地域社会に対し研究成果を提供することを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市本庄町 1 番地
設 置 年 月	： 平成18年 4 月
規 模 等	： 土地 - m ² 建物 177 m ²
名 称	： 生物資源教育研究センター
目 的	： 本学内外の関係機関との連携のもとに、アグリ創生及び農水産業振興に関する教育及び研究を行い、農業、医療及び環境修復等の地域社会ニーズに対応した学際的な国際化戦略の向上に資することを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市久保泉町下和泉1841番地、佐賀県唐津市松南町152番 1 号
設 置 年 月	： 令和 7 年 4 月
規 模 等	： 土地 180,840 m ² 建物 4,203m ²
名 称	： 教育学部附属幼稚園
目 的	： 本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市水ヶ江 1 丁目 4 番45号
設 置 年 月	： 昭和45年 4 月
規 模 等	： 土地 3,431m ² 建物 744 m ²
名 称	： 教育学部附属小学校
目 的	： 本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市城内 2 丁目17番 3 号
設 置 年 月	： 昭和24年 5 月
規 模 等	： 土地 18,008 m ² 建物 5,624 m ²
名 称	： 教育学部附属中学校
目 的	： 本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。
所 在 地	： 佐賀県佐賀市城内 1 丁目14番 4 号
設 置 年 月	： 昭和24年 5 月
規 模 等	： 土地 22,394 m ² 建物 6,379 m ²

附属施設の概要	名 称 : 教育学部附属特別支援学校
	目 的 : 本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。
	所 在 地 : 佐賀県佐賀市本庄町正里46番2号
	設 置 年 月 : 昭和53年4月
	規 模 等 : 土地 19,915 m ² 建物 3,677 m ²
	名 称 : 医学部附属病院
	目 的 : 医学の教育及び研究に係る診療の場として機能するとともに、医療を通して医学の水準及び地域医療の向上に寄与することを目的とする。
	所 在 地 : 佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号
	設 置 年 月 : 昭和56年4月
	規 模 等 : 土地 105,610 m ² 建物 80,360 m ²
	名 称 : 神集島合宿研修所
	目 的 : 本学学生の集団行動における訓練の場として、学生相互あるいは教職員との共同生活を通じて、学生の人間形成に資することを目的とする。
	所 在 地 : 佐賀県唐津市神集島コウソ辻1430番地
	設 置 年 月 : 昭和48年3月
	規 模 等 : 土地 9,940 m ² 建物 205 m ²

国立大学法人佐賀大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
佐賀大学			
教育学部			
共同教員養成課程	120	－	480
芸術地域デザイン学部			
芸術地域デザイン学科	110	3年次 5	450
経済学部			
経済学科	100	－	400
経営学科	70	－	280
経済法学科	60	－	240
医学部			
医学科	101	－	591
看護学科	60	－	240
理工学部			
理工学科	510	3年次 15	2,070 (うち入学定員10名、収容定員40名は コスメティックサイエンス学環)
農学部			
生物資源学科	175	－	700 (うち入学定員20名、収容定員80名は コスメティックサイエンス学環)
コスメティックサイエンス学環			
(理工学部、農学部の内数)	30	－	120
計	1,306	20	5,451
佐賀大学大学院			
学校教育学研究科			
教育実践探究専攻（P）	20	－	40
地域デザイン研究科			
地域デザイン専攻（M）	20	－	40
医学系研究科			
医科学専攻（D）	25	－	100
先進健康科学研究科			
先進健康科学専攻（M）	52	－	104
理工学研究科			
理工学専攻（M）	167	－	334
理工学専攻（D）	20	－	60
農学研究科			
生物資源科学専攻（M）	32	－	64
計	336	－	742

令和9年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
佐賀大学				
教育学部				
共同教員養成課程	120	－	480	
芸術地域デザイン学部				
芸術地域デザイン学科	110	3年次 5	450	
経済学部				
経済学科	230	－	920	学科の設置 （設置報告）
	0	－	0	令和9年4月学生募集停止
	0	－	0	令和9年4月学生募集停止
	0	－	0	令和9年4月学生募集停止
医学部				
医学科	98	－	588	
看護学科	60	－	240	
理工学部				
理工学科	510	3年次 15	2,070 (うち入学定員10名、収容定員40名はコ スメティックサイエンス学環)	
農学部				
生物資源学科	175	－	700 (うち入学定員20名、収容定員80名はコ スメティックサイエンス学環)	
コスメティックサイエンス学環				
(理工学部、農学部の内数)	30	－	120	
計	1,303	20	5,448	
佐賀大学大学院				
学校教育学研究科				
教育実践探究専攻（P）	20	－	40	
地域デザイン研究科				
地域デザイン専攻（M）	20	－	40	
医学系研究科				
医科学専攻（D）	25	－	100	
先進健康科学研究科				
先進健康科学専攻（M）	52	－	104	
理工学研究科				
理工学専攻（M）	167	－	334	
理工学専攻（D）	20	－	60	
農学研究科				
生物資源科学専攻（M）	40	－	80	定員変更（8）
計	344	－	758	

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(経済学部経済学科)																			
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 (助手を除く) 教員以外の教員		
	大学入門科目		大学入門科目Ⅰ	1前		2			○			10	5				1		
			小計（1科目）	—	—	2	0	0	—			10	5	0	0	0	1		
共通基礎科目	外国語科目		英語A	1前		1				○							7		
			英語B	1後		1				○							8		
			英語C	2前・後		1				○							11		
			英語D	2前・後		1				○							1		
			実践日本語C	1後			1			○							1		
			実践日本語D	1前			1			○							1		
			実践日本語E	2後			1			○							1		
			実践日本語F	2前			1			○							1		
	小計（8科目）		—	—	4	4	0	—			0	0	0	0	0	20			
	情報リテラシー科目		情報基礎概論	1前		2			○								1		
小計（1科目）			—	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	1			
教養教育科目	基本教養科目	自然科学	Introduction to Science	1・2後			2		○								11	オムニバス	
			物理の世界Ⅰ	1・2前			2		○								1		
			物理の世界Ⅱ	1・2後			2		○								1		
			化学の世界A	1・2後			2		○								2		
			化学の世界B	1・2前			2		○								2		
			実験化学A	1・2前			2		○								5		
			実験化学B	1・2後			2		○								5		
			地学の世界	1・2後			2		○								1		
			数理の世界	1・2後			2		○								1		
			原子の発見	1・2後			2		○								1		
		自然科学・技術の 現代的諸相	情報科学の世界A	1・2前			2		○									2	オムニバス オムニバス オムニバス 隔年 標準外 オムニバス・共同（一部）
			情報科学の世界B	1・2前・後			2		○									2	
			機械工学の世界A	1・2後			2		○									2	
			機械工学の世界B	1・2前			2		○									2	
			電気電子工学の世界A	1・2前			2		○									1	
			電気電子工学の世界B	1・2後			2		○									1	
			都市と生活	1・2前			2		○									1	
			インタラクティブコンテンツ入門	1・2後			2		○									1	
			環境をはかる	1・2後			2		○									1	
			肥前セラミック学	1・2前			2		○									14	
			AI・数理・データサイエンスⅠ	1・2前			2		○									2	
			AI・数理・データサイエンスⅡ	1・2後			2		○									2	
			農学の世界A	1・2前			2		○									1	
			農学の世界B	1・2後			2		○									1	
		STEAM学習基礎	1・2後			2		○									1		
		Introduction to Renewable Energy	1・2前			2		○									1		
		生物科学・ 生命科学	生物科学の世界A	1・2前			2		○									2	オムニバス 標準外・メディア 標準外・メディア オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
			生物科学の世界B	1・2前			2		○									1	
			栄養科学A	1・2前			2		○									1	
			栄養科学B	1・2後			2		○									1	
			栄養科学C	1・2後			2		○									2	
			生命科学の基礎A	1・2後			2		○									4	
			生命科学の基礎B	1・2前			2		○									2	
			生命科学の基礎C	1・2前			2		○									1	
		生命科学の基礎F	1・2後			2		○									3		
		自然科学と 技術の分野 特別講義	九州・沖縄学Ⅱ	1・2後			2		○									1	標準外・メディア
	やさしい電子回路		1・2後			2		○									1		
小計（37科目）	—		—	0	74	0	—			0	0	0	0	0	71				
文化の 分野	言語と 文化	ドイツの言語と文化Ⅰ	1・2前			2		○									1		
		ドイツの言語と文化Ⅱ	1・2後			2		○									1		
		フランスの言語と文化Ⅰ	1・2前			2		○									1		
		フランスの言語と文化Ⅱ	1・2後			2		○									1		
		中国の言語と文化Ⅰ	1・2前			2		○									1		
		中国の言語と文化Ⅱ	1・2後			2		○									1		
		韓国の言語と文化Ⅰ	1・2前			2		○									1		
		韓国の言語と文化Ⅱ	1・2後			2		○									1		

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Western Culture	1・2前			2		○								1	隔年
				Intensive English I	1・2前			2		○								2	
				Intensive English II	1・2後			2		○								2	
				Academic English	1・2前			2		○								1	
				Business English	1・2前			2		○								1	
				アカデミック独語	1・2前・後			1		○								1	
				ドイツ文化論A	1・2前			2		○								1	
				ドイツ文化論B	1・2後			2		○								1	
				ドイツ文化論C	1・2前			2		○								1	
				ドイツ文化論D	1・2後			2		○								1	
			文学と芸術	日本古典文学A	1・2前			2		○								1	隔年
				日本古典文学B	1・2後			2		○								1	
				欧米の文化・文学	1・2前・後			2		○								1	
				ドイツ文学A	1・2前			1		○								1	
				ドイツ文学B	1・2後			1		○								1	
			言語と表現	芸術論	1・2前			2		○								1	共同・標準外・メディア
				音楽史・音楽論	1・2前			2		○								1	
				日本語学	1・2前			2		○								1	
				コミュニケーション論	1・2前・後			2		○								2	
			歴史と文化	Critical Thinking for the Modern Age	1・2前			2		○								1	オムニバス
				Cultural Metaphors	1・2後			2		○								1	
				哲学・倫理学	1・2後			2		○								1	
				考古学	1・2前			2		○								1	
				日本史	1・2前・後			2		○								1	
				東洋史	1・2前・後			2		○								1	
				西洋史	1・2前・後			2		○								1	
				人類学	1・2前			2		○								3	
				スポーツウェルネスの世界	1・2前・後			2		○								1	
				近代サッカーの成立と進歩	1・2後			2		○								1	
				サッカーの歴史と技法	1・2前			2		○								1	
				柔道の歴史と技法	1・2後			2		○								1	
				哲学の世界	1・2後			2		○								1	
				地域史	1・2後			2		○								1	
				宗教学	1・2後			2		○								1	
				水中文化遺産学	1・2前			2		○								1	
				運動科学の世界	1・2後			2		○								1	
			文化の分野 特別講義	九州・沖縄学 I	1・2前			2		○								1	標準外・メディア
				小計（45科目）	—	—	0	87	0	—			0	0	0	0	0	33	オムニバス
		現代社会の分野	基礎社会科学	経済学	1・2後			2		○								1	
				会計学	1・2後			2		○				1				0	
				経営学	1・2前			2		○				1				0	
				法律学	1・2前			2		○			2	1				5	
				政治学	1・2後			2		○								1	
				日本国憲法	1・2前・後			2		○								1	
				現代社会の法と政治	1・2前			2		○								1	
				地理学	1・2前			2		○								1	
				Introduction to Sociology	1・2後			2		○								1	
			教育と人間	教育と人生	1・2後			2		○								1	
				心理学A	1・2後			2		○				1				1	
				心理学B	1・2前・後			2		○								1	
				健康科学A	1・2後			2		○								1	
				健康科学B	1・2後			2		○								2	
				スポーツと健康	1・2前			2		○								1	
				Citizenship Education	1・2後			2		○								1	
				Life in the Global World	1・2前			2		○								1	
				情報メディアと倫理	1・2前			2		○								1	
				心の病と癒しのプロセス	1・2後			2		○								1	
				心身の発達過程	1・2前			2		○								1	
				情報メディアコミュニケーション	1・2前・後			2		○								2	
				Aspects of Modern Society	1・2後			2		○								1	オムニバス・共同（一部）
				プレゼンテーション・デザイン	1・2前・後			2		○								1	
				現代教育学	1・2後			2		○								7	
				教育学A	1・2後			2		○								1	

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学B	1・2前			2		○								1	オムニバス オムニバス オムニバス
				教育学C	1・2後			2		○								1	
				ウェルビーイング概論	1・2後			2		○								3	
				心理学入門	1・2前			2		○								2	
				心理学実験入門	1・2後			2		○								2	
				体育実技Ⅰ	1・2前・後			1			○							3	
				体育実技Ⅱ	1・2前・後			1			○							4	
			現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在	1・2後			2		○				1				0	標準外・メディア オムニバス・標準外・メディア オムニバス・標準外・メディア 共同・標準外・メディア
				アジアコミュニティ論	1・2後			2		○								1	
				知的財産学	1・2後			2		○								1	
				環境科学Ⅰ	1・2前			2		○								2	
				環境科学Ⅲ	1・2後			2		○								2	
				インストラクショナル・デザイン	1・2前・後			2		○								2	
				現代日本の経済社会問題	1・2前			2		○			1					0	
			現代社会の分野 特別講義	九州地域の社会と経済Ⅰ	1・2前			2		○								1	標準外
				九州地域の社会と経済Ⅱ	1・2後			2		○								1	
				グローバル化と証券投資	1・2前			2		○								1	
				経営工学からみたマネジメント	1・2前			2		○								1	
				金融リテラシーと生命保険	1・2後			2		○								1	
				現代のニュースポーツの発展	1・2前			2		○								1	標準外 標準外 標準外 標準外 標準外・メディア 標準外 共同・標準外・メディア 共同・標準外・メディア
				小計（45科目）	—	—	0	88	0	—			3	5	0	0	0	47	
		総合科目		海外交流実習	1・2前・後			2				○						2	
				キャリアデザイン	1・2後			2		○								1	
				グループワークの技法と実践	1・2後			2			○							1	
				チャレンジ・インターンシップA	1・2前・後			2			○							2	
				チャレンジ・インターンシップB	2通			2			○							1	
				ライフデザインとセルフ・リーダーシップ	1・2前			2		○								1	
				Online Immersion Program	1・2後			2		○								1	
				Overseas Practicum	1・2前			2			○							1	
				データサイエンスBasicⅠ	1・2後			1		○								3	
				データサイエンスBasicⅡ	1・2後			1		○								3	
				小計（10科目）	—	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	8	
		外国人留学生用科目		日本事情－自然科学と技術	1後			2		○								1	隔年 隔年 隔年
				日本事情－文化	1前			2		○								1	
				日本事情－現代社会	1後			2		○								1	
				小計（3科目）	—	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	3	
	インターフェース科目	環境コース		機械工学と環境A－Ⅰ	2・3前			2		○								3	オムニバス オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス オムニバス 共同・標準外 オムニバス オムニバス・共同（一部）
				機械工学と環境A－Ⅱ	2・3後			2		○								3	
				機械工学と環境B－Ⅰ	2・3前			2		○								6	
				機械工学と環境B－Ⅱ	2・3後			2		○								3	
				エレクトロニクスと環境A－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
				エレクトロニクスと環境A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
				エレクトロニクスと環境B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
				エレクトロニクスと環境B－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
				佐賀の環境A－Ⅰ	2・3前			2		○								3	
				佐賀の環境A－Ⅱ	2・3後			2		○								4	
				佐賀の環境B－Ⅰ	2・3前			2		○								4	
				佐賀の環境B－Ⅱ	2・3後			2		○								5	
				小計（12科目）	—	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	27	
		文化と共生コース		異文化交流1－Ⅰ	2前			2		○								1	標準外 共同・標準外 共同
				異文化交流1－Ⅱ	2後			2		○								1	
				異文化交流2－Ⅰ	3前			2		○								1	
				異文化交流2－Ⅱ	3後			2		○								1	
				Intercultural Communication1－Ⅰ	2前			2		○								2	
				Intercultural Communication1－Ⅱ	2後			2		○								1	
				Intercultural Communication2－Ⅰ	3前			2		○								2	
				Intercultural Communication2－Ⅱ	3後			2		○								2	
				肥前陶磁器産業体験A－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
				肥前陶磁器産業体験A－Ⅱ	2・3後			2		○								2	
				肥前陶磁器産業体験B－Ⅰ	2・3前			2		○								4	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生 コース	肥前陶磁器産業体験Ｂ－Ⅱ	２・３後			2		○								4	共同
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅰ	２前			2		○								1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化１－Ⅱ	２後			2		○								1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化２－Ⅰ	３前			2		○								1	
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化２－Ⅱ	３後			2		○								1	
			芸術と社会Ａ－Ⅰ	２・３前			2		○								5	オムニバス
			芸術と社会Ａ－Ⅱ	２・３後			2		○								3	オムニバス・標準外
			芸術と社会Ｂ－Ⅰ	２・３前			2		○								4	オムニバス
			芸術と社会Ｂ－Ⅱ	２・３後			2		○								4	オムニバス
			歴史文化１－Ⅰ	２前			2		○								1	
			歴史文化１－Ⅱ	２後			2		○								1	
			歴史文化２－Ⅰ	３前			2		○								1	
			歴史文化２－Ⅱ	３後			2		○								1	
			英語コミュニケーションＡ－Ⅰ	２・３前			2		○								1	
			英語コミュニケーションＡ－Ⅱ	２・３後			2		○								1	
			英語コミュニケーションＢ－Ⅰ	２・３前			2		○								1	
			英語コミュニケーションＢ－Ⅱ	２・３後			2		○								1	
			韓国語・韓国の社会と文化１－Ⅰ	２前			2		○								1	
			韓国語・韓国の社会と文化１－Ⅱ	２後			2		○								1	
			韓国語・韓国の社会と文化２－Ⅰ	３前			2		○								1	
			韓国語・韓国の社会と文化２－Ⅱ	３後			2		○								1	
			小計（32科目）	－	－	0	64	0	－			0	0	0	0	0	35	
		生活と科学 コース	未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅰ	２・３前			2		○								4	オムニバス
			未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅱ	２・３後			2		○								2	オムニバス
			未来を拓く材料の科学Ｂ－Ⅰ	２・３前			2		○								5	オムニバス
			未来を拓く材料の科学Ｂ－Ⅱ	２・３後			2		○								6	オムニバス・共同（一部）
			情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅰ	２・３前			2		○								2	共同
			情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅱ	２・３後			2		○								1	
			情報技術者キャリアデザインＢ－Ⅰ	２・３前			2		○								3	オムニバス
			情報技術者キャリアデザインＢ－Ⅱ	２・３後			2		○								1	
			２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅰ	２・３前			2		○								1	
			２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ａ－Ⅱ	２・３後			2		○								1	
			２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ｂ－Ⅰ	２・３前			2		○								1	
			２年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ｂ－Ⅱ	２・３後			2		○								1	
			食糧生産の科学Ａ－Ⅰ	２・３前			2		○								4	オムニバス
			食糧生産の科学Ａ－Ⅱ	２・３後			2		○								5	オムニバス
			食糧生産の科学Ｂ－Ⅰ	２・３前			2		○								1	
			食糧生産の科学Ｂ－Ⅱ	２・３後			2		○								4	オムニバス
			ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅰ	２・３前			2		○								5	オムニバス
			ライフサイエンス・フードサイエンスＡ－Ⅱ	２・３後			2		○								4	オムニバス
			ライフサイエンス・フードサイエンスＢ－Ⅰ	２・３前			2		○								5	オムニバス
			ライフサイエンス・フードサイエンスＢ－Ⅱ	２・３後			2		○								5	オムニバス
			小計（20科目）	－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	56	
		人間と社会 コース	チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅰ	２前			2		○								3	共同
			チームビルディングとリーダーシップ１－Ⅱ	２後			2		○								2	共同
			チームビルディングとリーダーシップ２－Ⅰ	３前			2		○								3	共同
			チームビルディングとリーダーシップ２－Ⅱ	３後			2		○								3	共同
			リサーチ・リテラシー１－Ⅰ	２前			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー１－Ⅱ	２後			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー２－Ⅰ	３前			2		○								1	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除外の教員）	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会 コース	リサーチ・リテラシー2－Ⅱ	3後			2		○								3	オムニバス
			スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅰ	2前			2		○								1	共同
			スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅱ	2後			2		○								2	
			スポーツイベントとボランティアリーダー2－Ⅰ	3前			2		○								2	共同
			スポーツイベントとボランティアリーダー2－Ⅱ	3後			2		○								2	共同
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅰ	2・3前			2		○								1	オムニバス
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅰ	2・3前			2		○								12	オムニバス
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅱ	2・3後			2		○								12	オムニバス
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅰ	2・3前			2		○								1	オムニバス
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			小計（18科目）	－	－	0	36	0	－			0	0	0	0	0	31	
		医療・福祉と 社会コース	現代社会と医療－Ⅰ	1前			2		○								1	オムニバス
			現代社会と医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			食と健康－Ⅰ	1前			2		○								7	オムニバス
			食と健康－Ⅱ	1前			2		○								1	
			ライフサイクルからみた医療－Ⅰ	1前			2		○								4	オムニバス
			ライフサイクルからみた医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			患者に寄り添う医療－Ⅰ	1後			2		○								2	共同
			患者に寄り添う医療－Ⅱ	1後			2		○								1	
			小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	16	
		地域・佐賀学 コース	佐賀の歴史文化A－Ⅰ	2・3前			2		○								1	オムニバス
			佐賀の歴史文化A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			佐賀の歴史文化B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化B－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			地域経済と社会A－Ⅰ	2・3前			2		○			1					0	
			地域経済と社会A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			地域経済と社会B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			地域経済と社会B－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			佐賀SDGsグローバルアクション1－Ⅰ	2前			2		○			1					3	オムニバス
			佐賀SDGsグローバルアクション1－Ⅱ	2後			2		○								3	共同
			佐賀SDGsグローバルアクション2－Ⅰ	3前			2		○								4	オムニバス
			佐賀SDGsグローバルアクション2－Ⅱ	3後			2		○								4	共同
			小計（12科目）	－	－	0	24	0	－			2	0	0	0	0	13	
		共通	インターフェース演習	3前			2			○								標準外
			小計（1科目）	－	－	0	2	0	－									
専門教育科目		基本科目	基本ミクロ経済学	1前	○	2			○			1	1					※演習
			基本マクロ経済学	1前	○	2			○			1						
			基本統計学	1前	○	2			○			1	1					
			基本簿記会計	1前	○	2			○				1					
			基本経営学	1前	○	2			○			1						※演習
			基本法学	1前	○	2			○			1						
			基本経済数学	1後	○	2			○				1					
			小計（7科目）	－	－	14	－	－	－			5	3	0	0	0	0	
		基礎科目	ミクロ経済学	1後	○	2			○			1						※オムニバス
			マクロ経済学	1後	○	2			○				1					
			プロジェクトマネジメント	1後	○	2			○			3						
			マーケティング戦略	1後	○	2			○				1					
			日本経済論	1後		2			○			1						
			経済学史	1後		2			○				1					
			社会情報論	1後		2			○			1						
			民法総則	1後		2			○				1					
			小計（8科目）	－	－	8	8	－	－			5	4	0	0	0	0	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹（助 手を除く） 教員以外の 教員	
専 門 教 育 科 目	データサイエンス科目	データサイエンス入門	1後	○	2			○								1	※オムニバス
		社会調査論	1後	○	2			○				1					
		経済データ分析実践	1後	○	2			○			3	2					
		経済・統計数学	2前			2		○								1	
		数理統計学	2前			2		○								1	
		会計学	2前			2		○				1					
		統計学演習	2後			2		○								1	
		計量経済学	2後			2		○								1	
		小計（8科目）	—	—	6	10	—	—			3	4	0	0	0	3	
	社会課題演習	社会課題演習	1後	○	2			○			13	9				3	※演習
		小計（1科目）	—	—	2	—	—	—			13	9				3	
	データドリブン科目	空間情報システム	2後			2		○				1					※演習
		マーケティングリサーチ	2後			2		○			1						
		管理会計論	3前			2		○			1						
		財務会計論	2後			2		○				1					
		行動経済学	3前			2		○				1					
		労働経済学	3前			2		○								1	
		国際貿易論	3前			2		○					1				
		地域経済分析	3前			2		○					1				
		ファイナンス論	3前			2		○					1				
		ロジスティクスマネジメント	3前			2		○								1	
		原価計算論	2後			2		○			1						
		公益事業論	3後			2		○				1					
		政策シミュレーション	3後			2		○			1						
		政策評価分析	3後			2		○			1						
		経営財務論	3後			2		○			1						
		オペレーションズリサーチ	3後			2		○				1					
		自治体行財政分析	3後			2		○				1					
		小計（17科目）	—	—	—	34	—	—			5	6	0	0	0	2	
	プロジェクト デザイン科目	金融論	2・3・4前			2		○								1	
		財政学	2・3・4前			2		○			1						
		公共経済学	2・3・4後			2		○			1						
		産業組織論	2・3・4前			2		○			1						
		都市経済学	2・3・4前			2		○			1						
		環境経済学	2・3・4前			2		○				1					
		開発経済学	2・3・4前			2		○			1						
		農政経済論	2・3・4前			2		○			1						
		日本農業論	2・3・4後			2		○			1						
		Asian Economics	2・3・4後			2		○			1						
		日本経済史	2・3・4後			2		○			1						
		アジア経済史	2・3・4前			2		○			1						
		企業論	2・3・4後			2		○				1					
		経営情報論	2・3・4前			2		○			1						
		経営戦略論	2・3・4後			2		○								1	
		経営管理論	2・3・4後			2		○								1	
		経営組織論	2・3・4前			2		○								1	
		経営労務論	2・3・4前			2		○								1	
		マーケティングコミュニケーション	2・3・4後			2		○			1						
		ブランド戦略論	2・3・4前			2		○				1					
		知的財産法	2・3・4前			2		○				1					
		物権法	2・3・4前			2		○								1	
		債権法	2・3・4後			2		○								1	
		刑法総論	2・3・4後			2		○			1						
		刑法各論	2・3・4前			2		○			1						
		労働法Ⅰ	2・3・4後			2		○								1	
		労働法Ⅱ	2・3・4前			2		○								1	
		社会保障法Ⅰ	2・3・4後			2		○			1						
		社会保障法Ⅱ	2・3・4前			2		○			1						

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員			
専門教育科目		政治学	2・3・4後			2		○									1	各学期2単位 各学期2単位 各学期2単位 各学期1単位、計4単位まで ※演習 ※隔年 ※集中講義	
		憲法	2・3・4前			2		○									1		
		行政法総論	2・3・4前			2		○											1
		行政救済法	2・3・4後			2		○									1		
		会社法	2・3・4前			2		○									1		
		小計（34科目）	－	－	－	68	－	－			10	4	0	0	0	10			
	演習	プロジェクトマネジメント演習2年	2前・後	○	4				○			13	9						3
		プロジェクトマネジメント演習3年	3前・後	○	4				○			13	9						3
		プロジェクトマネジメント演習4年	4前・後	○	4				○			13	9						3
		フィールド演習	2・3・4前・後			4			○			13	9						3
		小計（4科目）	－	－	12	4	－	－			13	9	0	0	0	3			
	実践科目	証券市場分析	2・3・4後			2		○					1						
		現代の労働	2・3・4後			2		○				1							
		現代の経営	2・3・4前			2		○				1							
		PRデザイン	2前			2		○				1							
		実践会計	3・4前			2		○					1						
		市民と法	1後			2		○				1							
		小計（6科目）	－	－	－	12	－	－			4	2	0	0	0	0			
	外国語科目	ビジネス基礎英語	2・3・4前			2			○										1
		ビジネス・コミュニケーション英語	2・3・4前			2			○										1
		小計（2科目）	－	－	－	4	－	－			0	0	0	0	0	1			
	特殊講義	特殊講義	2・3・4後			2				○		1	2						
		小計（1科目）	－	－	－	2	－	－			1	2	0	0	0	0			
合計（341科目）			－	－	50	625	－	－			13	10	0	0	0	279			
学位又は称号		学士（経済学）			学位又は学科の分野					経済学関係									
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等										
教養教育科目30単位以上、専門教育科目（必修科目42単位を含む）94単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））									1学年の学期区分				2期						
									1学期の授業期間				15週						
									1時限の授業の標準時間				90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																					
(【既設】経済学部経済学科)																					
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く)					
共通基礎科目	大学入門科目		大学入門科目Ⅰ	1前		2			○			10	6								
	小計（1科目）		—	—	2	0	0	—			10	6	0	0	0	0					
	外国語科目	英語A	1前		1					○							7				
		英語B	1後		1					○							8				
		英語C	2前・後		1					○							11				
		英語D	2前・後		1					○							1				
		実践日本語C	1後			1				○							1				
		実践日本語D	1前			1				○							1				
		実践日本語E	2後			1				○							1				
		実践日本語F	2前			1				○							1				
		小計（8科目）		—	—	4	4	0	—			0	0	0	0	0	20				
	情報リテラシー科目	情報基礎概論	1前		2			○					1								
		小計（1科目）		—	—	2	0	0	—			0	1	0	0	0	0				
	教養教育科目	基本教養科目	基礎自然科学	Introduction to Science	1・2後		2			○									11	オムニバス	
				物理の世界Ⅰ	1・2前		2			○									1		
				物理の世界Ⅱ	1・2後		2			○									1		
				化学の世界A	1・2後		2			○									2	オムニバス	
				化学の世界B	1・2前		2			○									2	オムニバス	
				実験化学A	1・2前		2			○									5	オムニバス	
				実験化学B	1・2後		2			○									5	オムニバス	
				地学の世界	1・2後		2			○									1	隔年	
				数理の世界	1・2後		2			○									1		
				原子の発見	1・2後		2			○									1		
				自然科学・技術の現代的諸相	情報科学の世界A	1・2前		2			○									2	
					情報科学の世界B	1・2前・後		2			○									2	
			機械工学の世界A		1・2後		2			○									2	オムニバス	
			機械工学の世界B		1・2前		2			○									2	オムニバス	
			電気電子工学の世界A		1・2前		2			○									1		
			電気電子工学の世界B		1・2後		2			○									1		
			都市と生活		1・2前		2			○									1	隔年	
			インタラクティブコンテンツ入門		1・2後		2			○									1	標準外	
			環境をはかる		1・2後		2			○									1		
			肥前セラミック学		1・2前		2			○				1					13	オムニバス・共同（一部）	
			AI・数理・データサイエンスⅠ		1・2前		2			○									2		
			AI・数理・データサイエンスⅡ		1・2後		2			○									2		
			農学の世界A	1・2前		2			○								1				
			農学の世界B	1・2後		2			○								1				
STEAM学習基礎			1・2後		2			○								1					
Introduction to Renewable Energy			1・2前		2			○								1					
生物科学・生命科学			生物科学の世界A	1・2前		2			○								2	オムニバス			
			生物科学の世界B	1・2前		2			○								1				
			栄養科学A	1・2前		2			○								1	標準外・メディア			
			栄養科学B	1・2後		2			○								1	標準外・メディア			
			栄養科学C	1・2後		2			○								2	オムニバス			
			生命科学の基礎A	1・2後		2			○								4	オムニバス			
			生命科学の基礎B	1・2前		2			○								2	オムニバス			
		生命科学の基礎C	1・2前		2			○								1	オムニバス・共同（一部）				
		生命科学の基礎F	1・2後		2			○								3	オムニバス				
自然科学と技術の分野特別講義		九州・沖縄学Ⅱ	1・2後		2			○								1	オムニバス・標準外・メディア				
		やさしい電子回路	1・2後		2			○								1					
	小計（37科目）		—	—	0	74	0	—			1	0	0	0	0	70					
文化の分野	言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅰ	1・2前		2			○								1					
		ドイツの言語と文化Ⅱ	1・2後		2			○								1					
		フランスの言語と文化Ⅰ	1・2前		2			○								1					
		フランスの言語と文化Ⅱ	1・2後		2			○								1					
		中国の言語と文化Ⅰ	1・2前		2			○								1					
		中国の言語と文化Ⅱ	1・2後		2			○								1					
		韓国の言語と文化Ⅰ	1・2前		2			○								1					
		小計（8科目）		—	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	8				

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 を 除 く） の 教 員	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	韓国の言語と文化Ⅱ	1・2後			2		○								1	隔年
				Western Culture	1・2前			2		○								1	
				Intensive English I	1・2前			2		○								2	
				Intensive English II	1・2後			2		○								2	
				Academic English	1・2前			2		○								1	
				Business English	1・2前			2		○								1	
				アカデミック独語	1・2前・後			1		○								1	
				ドイツ文化論A	1・2前			2		○								1	
				ドイツ文化論B	1・2後			2		○								1	
				ドイツ文化論C	1・2前			2		○								1	
				ドイツ文化論D	1・2後			2		○								1	
			文学と芸術	日本古典文学A	1・2前			2		○								1	隔年
				日本古典文学B	1・2後			2		○								1	
				欧米の文化・文学	1・2前・後			2		○								1	
				ドイツ文学A	1・2前			1		○								1	
				ドイツ文学B	1・2後			1		○								1	
				芸術論	1・2前			2		○								1	
				音楽史・音楽論	1・2前			2		○								1	
			言語と表現	日本語学	1・2前			2		○								1	共同・標準外・メディア
				コミュニケーション論	1・2前・後			2		○								2	
				Critical Thinking for the Modern Age	1・2前			2		○								1	
				Cultural Metaphors	1・2後			2		○								1	
			歴史と文化	哲学・倫理学	1・2後			2		○								1	隔年
				考古学	1・2前			2		○								1	
				日本史	1・2前・後			2		○								1	オムニバス
				東洋史	1・2前・後			2		○								1	
				西洋史	1・2前・後			2		○								1	
				人類学	1・2前			2		○								3	
				スポーツウェルネスの世界	1・2前・後			2		○								1	標準外・メディア 隔年
				近代サッカーの成立と進歩	1・2後			2		○								1	
				サッカーの歴史と技法	1・2前			2		○								1	
				柔道の歴史と技法	1・2後			2		○								1	
				哲学の世界	1・2後			2		○								1	
				地域史	1・2後			2		○								1	
				宗教学	1・2後			2		○								1	
				水中文化遺産学	1・2前			2		○								1	
				運動科学の世界	1・2後			2		○								1	
			文化の分野 特別講義	九州・沖縄学Ⅰ	1・2前			2		○								1	オムニバス・標準外・メディア
				小計（45科目）	—	—	0	87	0	—			0	0	0	0	0	34	
		現代社会の分野	基礎 社会科学	経済学	1・2後			2		○								1	オムニバス
				会計学	1・2後			2		○									
				経営学	1・2前			2		○									
				法律学	1・2前			2		○			3	2				3	
				政治学	1・2後			2		○								1	
				日本国憲法	1・2前・後			2		○								1	
				現代社会の法と政治	1・2前			2		○								1	
				地理学	1・2前			2		○								1	
				Introduction to Sociology	1・2後			2		○								1	
			教育と人間	教育と人生	1・2後			2		○								1	オムニバス
				心理学A	1・2後			2		○				1				1	
				心理学B	1・2前・後			2		○								1	
				健康科学A	1・2後			2		○								1	
				健康科学B	1・2後			2		○								2	
				スポーツと健康	1・2前			2		○								1	
				Citizenship Education	1・2後			2		○								1	
				Life in the Global World	1・2前			2		○								1	
				情報メディアと倫理	1・2前			2		○								1	
				心の病と癒しのプロセス	1・2後			2		○								1	
				心身の発達過程	1・2前			2		○								1	
				情報メディアコミュニケーション	1・2前・後			2		○								2	共同・メディア
				Aspects of Modern Society	1・2後			2		○								1	
				プレゼンテーション・デザイン	1・2前・後			2		○								1	

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
							必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 以 外 の 教 員		
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	現代教育学	1・2後			2		○							7	オムニバス・共同（一部）		
				教育学A	1・2後			2		○							1			
				教育学B	1・2前			2		○							1			
				教育学C	1・2後			2		○				1						
				ウェルビーイング概論	1・2後			2		○							3			
				心理学入門	1・2前			2		○							2			
				心理学実験入門	1・2後			2		○							2			
				体育実技Ⅰ	1・2前・後			1			○						3			
				体育実技Ⅱ	1・2前・後			1			○						4			
			現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在	1・2後			2		○									1	標準外・メディア オムニバス・標準外・メディア オムニバス・標準外・メディア オムニバス・標準外・メディア 共同・標準外・メディア
				アジアコミュニティ論	1・2後			2		○					1					
				知的財産学	1・2後			2		○									1	
				環境科学Ⅰ	1・2前			2		○									2	
				環境科学Ⅲ	1・2後			2		○									2	
				インストラクショナル・デザイン	1・2前・後			2		○									2	
				現代日本の経済社会問題	1・2前			2		○				1						
				九州地域の社会と経済Ⅰ	1・2前			2		○									1	
				九州地域の社会と経済Ⅱ	1・2後			2		○									1	
		現代社会の分野 特別講義	グローバル化と証券投資	1・2前			2		○				1						標準外	
			経営工学からみたマネジメント	1・2前			2		○					1						1
			金融リテラシーと生命保険	1・2後			2		○											
			現代のニュースポーツの発展	1・2前			2		○											1
		小計（45科目）				—	—	0	88	0	—			5	7	0	0	0	43	標準外 標準外 標準外 標準外 標準外・メディア 標準外 共同・標準外・メディア 共同・標準外・メディア
	総合科目		海外交流実習	1・2前・後			2				○							2		
			キャリアデザイン	1・2後			2			○				1						
			グループワークの技法と実践	1・2後			2				○			1						
			チャレンジ・インターンシップA	1・2前・後			2				○							2		
			チャレンジ・インターンシップB	2通			2				○							1		
			ライフデザインとセルフ・リーダーシップ	1・2前			2			○				1						
			Online Immersion Program	1・2後			2			○								1		
			Overseas Practicum	1・2前			2				○							1		
			データサイエンスBasicⅠ	1・2後			1			○								3		
			データサイエンスBasicⅡ	1・2後			1			○								3		
			小計（10科目）				—	—	0	18	0	—			0	1	0	0	0	
	外国人 留学生用科目		日本事情－自然科学と技術	1後			2		○									1	隔年	
			日本事情－文化	1前			2		○									1	隔年	
			日本事情－現代社会	1後			2		○									1	隔年	
			小計（3科目）				—	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	3
	インターフェース科目	環境コース		機械工学と環境A－Ⅰ	2・3前			2		○								3	オムニバス	
				機械工学と環境A－Ⅱ	2・3後			2			○								3	オムニバス
				機械工学と環境B－Ⅰ	2・3前			2			○								6	オムニバス
				機械工学と環境B－Ⅱ	2・3後			2			○								3	オムニバス・共同（一部）
				エレクトロニクスと環境A－Ⅰ	2・3前			2			○								1	
				エレクトロニクスと環境A－Ⅱ	2・3後			2			○								1	
				エレクトロニクスと環境B－Ⅰ	2・3前			2			○								1	
				エレクトロニクスと環境B－Ⅱ	2・3後			2			○								1	
				佐賀の環境A－Ⅰ	2・3前			2			○								3	オムニバス
				佐賀の環境A－Ⅱ	2・3後			2			○								4	共同・標準外
				佐賀の環境B－Ⅰ	2・3前			2			○								4	オムニバス
				佐賀の環境B－Ⅱ	2・3後			2			○								5	オムニバス
		小計（12科目）				—	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	27	
		文化と共生 コース		異文化交流1－Ⅰ	2前			2		○									1	標準外
				異文化交流1－Ⅱ	2後			2			○								1	
				異文化交流2－Ⅰ	3前			2			○								1	
				異文化交流2－Ⅱ	3後			2			○								1	
				Intercultural Communication1－Ⅰ	2前			2			○								2	
				Intercultural Communication1－Ⅱ	2後			2			○								1	
				Intercultural Communication2－Ⅰ	3前			2			○								2	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 （助手を除く） 教員以外の教員			
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生 コース	Intercultural Communication 2－II	3後		2		○								2	共同・標準外 共同 共同			
			肥前陶磁器産業体験 A－I	2・3前		2		○								1				
			肥前陶磁器産業体験 A－II	2・3後		2		○								2				
			肥前陶磁器産業体験 B－I	2・3前		2		○								4				
			肥前陶磁器産業体験 B－II	2・3後		2		○								4				
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 1－I	2前		2		○								1				
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 1－II	2後		2		○								1				
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 2－I	3前		2		○								1				
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 2－II	3後		2		○								1				
			芸術と社会 A－I	2・3前		2		○								5				
			芸術と社会 A－II	2・3後		2		○								3				
			芸術と社会 B－I	2・3前		2		○								4				
			芸術と社会 B－II	2・3後		2		○								4				
			歴史文化 1－I	2前		2		○								1				
			歴史文化 1－II	2後		2		○								1				
			歴史文化 2－I	3前		2		○								1				
			歴史文化 2－II	3後		2		○								1				
			英語コミュニケーション A－I	2・3前		2		○								1				
			英語コミュニケーション A－II	2・3後		2		○								1				
			英語コミュニケーション B－I	2・3前		2		○								1				
			英語コミュニケーション B－II	2・3後		2		○								1				
			韓国語・韓国の社会と文化 1－I	2前		2		○								1				
			韓国語・韓国の社会と文化 1－II	2後		2		○								1				
			韓国語・韓国の社会と文化 2－I	3前		2		○								1				
			韓国語・韓国の社会と文化 2－II	3後		2		○								1				
			小計（32科目）			－	－	0	64	0	－			0	0	0		0	0	35
			生活と科学 コース	未来を拓く材料の科学 A－I	2・3前		2		○										4	オムニバス
				未来を拓く材料の科学 A－II	2・3後		2		○										2	オムニバス
				未来を拓く材料の科学 B－I	2・3前		2		○										5	オムニバス
				未来を拓く材料の科学 B－II	2・3後		2		○										6	オムニバス・共同（一部）
				情報技術者キャリアデザイン A－I	2・3前		2		○										2	共同
				情報技術者キャリアデザイン A－II	2・3後		2		○										1	
				情報技術者キャリアデザイン B－I	2・3前		2		○										3	
	情報技術者キャリアデザイン B－II	2・3後			2		○									1				
	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 A－I	2・3前			2		○									1				
	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 A－II	2・3後			2		○									1				
	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 B－I	2・3前			2		○									1				
	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 B－II	2・3後			2		○									1				
	食糧生産の科学 A－I	2・3前			2		○									4	オムニバス			
	食糧生産の科学 A－II	2・3後			2		○									5	オムニバス			
	食糧生産の科学 B－I	2・3前			2		○									1				
	食糧生産の科学 B－II	2・3後			2		○									4	オムニバス			
	ライフサイエンス・フードサイエンス A－I	2・3前			2		○									5	オムニバス			
	ライフサイエンス・フードサイエンス A－II	2・3後			2		○									4	オムニバス・共同（一部）			
	ライフサイエンス・フードサイエンス B－I	2・3前			2		○									5	オムニバス			
	ライフサイエンス・フードサイエンス B－II	2・3後			2		○									5	オムニバス			
	小計（20科目）			－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	56			

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会 コース	チームビルディングとリーダーシップ1－Ⅰ	2前			2		○				1				2	共同
			チームビルディングとリーダーシップ1－Ⅱ	2後			2		○				1				1	共同
			チームビルディングとリーダーシップ2－Ⅰ	3前			2		○				1				2	共同
			チームビルディングとリーダーシップ2－Ⅱ	3後			2		○				1				2	共同
			リサーチ・リテラシー1－Ⅰ	2前			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー1－Ⅱ	2後			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー2－Ⅰ	3前			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー2－Ⅱ	3後			2		○			1					2	共同
			スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅰ	2前			2		○								1	
			スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅱ	2後			2		○				1				1	
			スポーツイベントとボランティアリーダー2－Ⅰ	3前			2		○								2	共同
			スポーツイベントとボランティアリーダー2－Ⅱ	3後			2		○								2	共同
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅰ	2・3前			2		○								12	オムニバス
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅱ	2・3後			2		○								12	オムニバス
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			小計（18科目）	－	－	0	36	0	－			1	1	0	0	0	29	
		医療・福祉と 社会コース	現代社会と医療－Ⅰ	1前			2		○								1	
			現代社会と医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			食と健康－Ⅰ	1前			2		○								7	オムニバス
			食と健康－Ⅱ	1前			2		○								1	
			ライフサイクルからみた医療－Ⅰ	1前			2		○								4	オムニバス
			ライフサイクルからみた医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			患者に寄り添う医療－Ⅰ	1後			2		○								2	
			患者に寄り添う医療－Ⅱ	1後			2		○								1	
			小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	16	
		地域・佐賀学 コース	佐賀の歴史文化A－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			佐賀の歴史文化B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化B－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			地域経済と社会A－Ⅰ	2・3前			2		○			1					1	
			地域経済と社会A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			地域経済と社会B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			地域経済と社会B－Ⅱ	2・3後			2		○			1						
			佐賀SDGsグローバルアクション1－Ⅰ	2前			2		○			1					3	オムニバス
			佐賀SDGsグローバルアクション1－Ⅱ	2後			2		○								3	共同
			佐賀SDGsグローバルアクション2－Ⅰ	3前			2		○								4	オムニバス
			佐賀SDGsグローバルアクション2－Ⅱ	3後			2		○								4	共同
			小計（12科目）	－	－	0	24	0	－			3	0	0	0	0	12	
		共通	インターフェース演習	3前			2			○								標準外
			小計（1科目）	－	－	0	2	0	－									
	基本科目		基本統計学	1前	○	2			○			1	1					※演習
			基本ミクロ経済学	1前	○	2			○			1	1					
			基本マクロ経済学	1前	○	2			○			1	1					
			基本経営学	1前	○	2			○			2						
			基本簿記会計	1前	○	2			○								1	
			基本法学	1前	○	2			○								1	
			小計（6科目）	－	－	12	－	－	－			5	3	0	0	0	2	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 を 除 く） 教 員	
専 門 教 育 科 目	基 幹 科 目	基幹科目A	統計学	1後	○		2		○			1						※実習
			日本経済論	1後	○		2		○			1						
			情報処理	1後	○		2		○				1					
			マーケティングマネジメント	1後	○		2		○				1					
			社会情報論	1後	○		2		○			1						
			民法総則	1後	○		2		○				1					
			人権論	1後	○		2		○								1	
			小計（7科目）	—	—	—	14	—	—	—	—	3	3	0	0	0	1	※実習
		基幹科目B	経済学史	1後	○		2		○				1					
			地域経済論	1後	○		2		○									
			経済数学	2前	○		2		○			1						
			財政学	2前	○		2		○			1						
			金融論	2前	○		2		○									
			経営管理論	1後	○		2		○			1						
			企業論	1後	○		2		○				1					
			市民と法	1後	○		2		○			1						
			刑法総論	1後	○		2		○			1						
			原価計算論	2前	○		2		○			1						
			経営組織論	2前	○		2		○									
			プログラミング	2前	○		2		○				1					
			経営労務論	2前	○		2		○									
			現代政治論	2前	○		2		○									
			物権法	2前	○		2		○				1					
			統治機構論	2前	○		2		○									
			刑法各論	2前	○		2		○			1						
			小計（17科目）	—	—	—	34	—	—	—	—	6	4	0	0	0	6	※演習
	融 合 科 目		統計学演習	2・3・4後	○		2		○			1						
			計量経済学	3・4前	○		2		○				1					
			ミクロ経済学	2・3・4後	○		2		○			1						
			ファイナンス論	3・4前	○		2		○				1					
			都市経済学	3・4前	○		2		○			1						
			経営財務論	3・4後	○		2		○			1						
			財務会計論	3・4後	○		2		○				1					
			経済法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○									
			労働経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			産業組織論	3・4前	○		2		○			1						
			マクロ経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			社会保障法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○			1						
			政策評価分析	2・3・4後	○		2		○			1						
			自治体行財政分析	3・4後	○		2		○									
			経済学演習	3・4前	○		2		○				1					
			労働法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○			1						
			国際経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			公共経済学	3・4後	○		2		○			1						
			文化経済学	3・4前	○		2		○									隔年
			流通経済論	2・3・4後	○		2		○			1						
			ロジスティクスマネジメント	3・4後	○		2		○									
			マーケティングリサーチ	2・3・4後	○		2		○			1						
			管理会計論	2・3・4後	○		2		○			1						
			経営情報論	3・4前	○		2		○			1						
			会社法	2・3・4後	○		2		○									
			経営戦略論	2・3・4後	○		2		○									
			ブランド戦略論	3・4前	○		2		○				1					

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手を除く） 教員以外の教員			
	融合科目	知的財産法	3・4前	○		2		○					1					※演習・オムニバス	
		債権法	2・3・4後	○		2		○					1						
		商法	3・4前	○		2		○								1			
		行政救済法	3・4前	○		2		○								1			
		行政法総論	2・3・4後	○		2		○								1			
		環境法	2・3・4後	○		2		○								1			
		小計（33科目）	－	－	－	66	－	－	－	11	9	0	0	0	0	8			
	社会課題演習	社会課題演習	1後	○	2			○			11	6							
		小計（1科目）	－	－	2	－	－	－	11	6	0	0	0	0	0				
	演習	演習 2 年	2前・後	○	4				○		17	11						各学期 2 単位	
		演習 3 年	3前・後	○	4				○		17	11						各学期 2 単位	
		演習 4 年	4前・後	○	4				○		17	11						各学期 2 単位	
		小計（3科目）	－	－	12	－	－	－	17	11	0	0	0	0	0				
	展開科目	証券市場分析	2・3・4後	○		2		○			1							集中講義	
		現代の労働	2・3・4後	○		2		○			1								
		現代の経営	2・3・4前	○		2		○			1								
		日本農業論	3・4後	○		2		○			1								
		農政経済論	3・4前	○		2		○			1								
		経済地理学	3・4前	○		2		○				1						※演習	
		開発経済学	3・4前	○		2		○			1								
		Asian Economics	3・4後	○		2		○			1								
		アジア経済史	3・4前	○		2		○			1								
		日本経済史	3・4後	○		2		○			1								
		国際金融論	3・4後	○		2		○									1	隔年	
		流通産業論	3・4前	○		2		○			1								
		経営史	3・4前	○		2		○			1								
		実践会計	3・4前	○		2		○				1							
		経済法Ⅱ	3・4前	○		2		○					1				1		
		労働法Ⅱ	3・4前	○		2		○			1								集中講義
		社会保障法Ⅱ	3・4前	○		2		○			1								
		民事手続法	3・4前	○		2		○									1		
		刑事訴訟法	3・4前	○		2		○									1		
		不法行為法	3・4後	○		2		○									1		
		国際環境法	3・4後	○		2		○									1	隔年	
		国際政治学	3・4後	○		2		○									1	隔年	
		小計（22科目）	－	－	－	44	－	－	－	10	2	0	0	0	0	7			
外国語科目	ビジネス基礎英語	2・3・4前	○		2			○								1	集中講義		
	ビジネス・コミュニケーション英語	2・3・4前	○		2			○								1			
	小計（2科目）	－	－	－	4	－	－	0	0	0	0	0	0	1					
特殊講義	特殊講義	2・3・4後	○		2				○	1	4					0			
	小計（1科目）	－	－	－	2	－	－	1	4	0	0	0	0	0					
合計（345科目）			－	－	34	647	0	－	17	13	0	0	0	280					
学位又は称号		学士（経済学）			学位又は学科の分野					経済学関係									
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等										
教養教育科目30単位以上、専門教育科目（必修科目26単位を含む）94単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））									1 学年の学期区分				2 期						
									1 学期の授業期間				1 5 週						
									1 時限の授業の標準時間				9 0 分						

教 育 課 程 等 の 概 要																					
(【既設】経済学部経営学科)																					
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考				
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く) の教員					
大学入門科目	大学入門科目 I		1前		2			○			10	6									
	小計 (1科目)		—	—	2	0	0	—			10	6	0	0	0	0					
	共通基礎科目	外国語科目	英語A	1前		1				○								7			
			英語B	1後		1				○								8			
			英語C	2前・後		1				○								11			
			英語D	2前・後		1				○								1			
			実践日本語C	1後			1			○								1			
			実践日本語D	1前			1			○								1			
			実践日本語E	2後			1			○								1			
			実践日本語F	2前			1			○								1			
		小計 (8科目)		—	—	4	4	0	—			0	0	0	0	0		20			
	情報リテラシー科目	情報基礎概論	1前		2			○				1									
		小計 (1科目)		—	—	2	0	0	—			0	1	0	0	0		0			
	教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	Introduction to Science	1・2後			2		○								11	オムニバス	
					物理の世界Ⅰ	1・2前			2		○								1		
					物理の世界Ⅱ	1・2後			2		○								1		
					化学の世界A	1・2後			2		○								2		オムニバス
					化学の世界B	1・2前			2		○								2		オムニバス
					実験化学A	1・2前			2		○								5		オムニバス
					実験化学B	1・2後			2		○								5		オムニバス
地学の世界					1・2後			2		○							1	隔年			
数理の世界					1・2後			2		○							1				
原子の発見					1・2後			2		○							1				
自然科学・技術の現代的諸相					情報科学の世界A	1・2前			2		○								2		オムニバス
					情報科学の世界B	1・2前・後			2		○								2		
				機械工学の世界A	1・2後			2		○							2	オムニバス			
				機械工学の世界B	1・2前			2		○							2	オムニバス			
				電気電子工学の世界A	1・2前			2		○							1				
				電気電子工学の世界B	1・2後			2		○							1				
				都市と生活	1・2前			2		○							1	隔年			
				インタラクティブコンテンツ入門	1・2後			2		○							1	標準外			
環境をはかる				1・2後			2		○							1	オムニバス・共同 (一部)				
肥前セラミック学				1・2前			2		○				1			13					
AI・数理・データサイエンスⅠ			1・2前			2		○							2						
AI・数理・データサイエンスⅡ			1・2後			2		○							2						
農学の世界A			1・2前			2		○							1						
農学の世界B			1・2後			2		○							1						
STEAM学習基礎			1・2後			2		○							1						
Introduction to Renewable Energy			1・2前			2		○							1						
生物科学・生命科学			生物科学の世界A	1・2前			2		○									2	オムニバス		
			生物科学の世界B	1・2前			2		○									1			
			栄養科学A	1・2前			2		○								1	標準外・メディア			
			栄養科学B	1・2後			2		○								1	標準外・メディア			
			栄養科学C	1・2後			2		○								2	オムニバス			
			生命科学の基礎A	1・2後			2		○								4	オムニバス			
			生命科学の基礎B	1・2前			2		○								2	オムニバス			
			生命科学の基礎C	1・2前			2		○								1	オムニバス・共同 (一部)			
生命科学の基礎F			1・2後			2		○								3	オムニバス				
自然科学と技術の分野 特別講義			九州・沖縄学Ⅱ	1・2後			2		○									1	オムニバス・標準外・メディア		
			やさしい電子回路	1・2後			2		○									1			
			小計 (37科目)		—	—	0	74	0	—			1	0	0	0	0	70			
文化の分野			言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅰ	1・2前			2		○									1		
				ドイツの言語と文化Ⅱ	1・2後			2		○								1			
	フランスの言語と文化Ⅰ	1・2前				2		○								1					
	フランスの言語と文化Ⅱ	1・2後				2		○								1					
	中国の言語と文化Ⅰ	1・2前				2		○								1					
	中国の言語と文化Ⅱ	1・2後				2		○								1					
	韓国の言語と文化Ⅰ	1・2前				2		○								1					

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 を 除 く） の 教 員	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	韓国の言語と文化Ⅱ	1・2後			2		○								1	隔年
				Western Culture	1・2前			2		○								1	
				Intensive English I	1・2前			2		○								2	
				Intensive English II	1・2後			2		○								2	
				Academic English	1・2前			2		○								1	
				Business English	1・2前			2		○								1	
				アカデミック独語	1・2前・後			1		○								1	
				ドイツ文化論A	1・2前			2		○								1	
				ドイツ文化論B	1・2後			2		○								1	
				ドイツ文化論C	1・2前			2		○								1	
				ドイツ文化論D	1・2後			2		○								1	
			文学と芸術	日本古典文学A	1・2前			2		○								1	隔年
				日本古典文学B	1・2後			2		○								1	
				欧米の文化・文学	1・2前・後			2		○								1	
				ドイツ文学A	1・2前			1		○								1	
				ドイツ文学B	1・2後			1		○								1	
				芸術論	1・2前			2		○								1	
				音楽史・音楽論	1・2前			2		○								1	
			言語と表現	日本語学	1・2前			2		○								1	共同・標準外・メディア
				コミュニケーション論	1・2前・後			2		○								2	
				Critical Thinking for the Modern Age	1・2前			2		○								1	
				Cultural Metaphors	1・2後			2		○								1	
			歴史と文化	哲学・倫理学	1・2後			2		○								1	隔年
				考古学	1・2前			2		○								1	
				日本史	1・2前・後			2		○								1	オムニバス
				東洋史	1・2前・後			2		○								1	
				西洋史	1・2前・後			2		○								1	
				人類学	1・2前			2		○								3	
				スポーツウェルネスの世界	1・2前・後			2		○								1	標準外・メディア 隔年
				近代サッカーの成立と進歩	1・2後			2		○								1	
				サッカーの歴史と技法	1・2前			2		○								1	
				柔道の歴史と技法	1・2後			2		○								1	
				哲学の世界	1・2後			2		○								1	
				地域史	1・2後			2		○								1	
				宗教学	1・2後			2		○								1	
				水中文化遺産学	1・2前			2		○								1	
				運動科学の世界	1・2後			2		○								1	
			文化の分野 特別講義	九州・沖縄学Ⅰ	1・2前			2		○								1	オムニバス・標準外・メディア
				小計（45科目）	—	—	0	87	0	—			0	0	0	0	0	34	
		現代社会の分野	基礎 社会科学	経済学	1・2後			2		○								1	オムニバス
				会計学	1・2後			2		○									
				経営学	1・2前			2		○									
				法律学	1・2前			2		○			3	2				3	
				政治学	1・2後			2		○								1	
				日本国憲法	1・2前・後			2		○								1	
				現代社会の法と政治	1・2前			2		○								1	
				地理学	1・2前			2		○								1	
				Introduction to Sociology	1・2後			2		○								1	
			教育と人間	教育と人生	1・2後			2		○								1	オムニバス
				心理学A	1・2後			2		○				1				1	
				心理学B	1・2前・後			2		○								1	
				健康科学A	1・2後			2		○								1	
				健康科学B	1・2後			2		○								2	
				スポーツと健康	1・2前			2		○								1	隔年
				Citizenship Education	1・2後			2		○								1	
				Life in the Global World	1・2前			2		○								1	
				情報メディアと倫理	1・2前			2		○								1	
				心の病と癒しのプロセス	1・2後			2		○								1	
				心身の発達過程	1・2前			2		○								1	共同・メディア
				情報メディアコミュニケーション	1・2前・後			2		○								2	
				Aspects of Modern Society	1・2後			2		○								1	
				プレゼンテーション・デザイン	1・2前・後			2		○								1	
				現代教育学	1・2後			2		○								7	オムニバス・共同（一部）

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 以 外 の 教 員	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学A	1・2後		2		○								1	共同（一部） 共同（一部）	
				教育学B	1・2前		2		○							1			
				教育学C	1・2後		2		○			1					3		
				ウェルビーイング概論	1・2後		2		○								2		
				心理学入門	1・2前		2		○								2		
				心理学実験入門	1・2後		2		○								3		
				体育実技Ⅰ	1・2前・後		1			○							4		
				体育実技Ⅱ	1・2前・後		1			○									
				現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在	1・2後		2		○					1				
		アジアコミュニティ論	1・2後			2		○										1	
		知的財産学	1・2後			2		○										2	
		環境科学Ⅰ	1・2前			2		○										2	
		環境科学Ⅲ	1・2後			2		○										2	
		インストラクショナル・デザイン	1・2前・後			2		○										1	
		現代日本の経済社会問題	1・2前			2		○			1							1	
		九州地域の社会と経済Ⅰ	1・2前			2		○										1	
		九州地域の社会と経済Ⅱ	1・2後			2		○											
		現代社会の分野 特別講義	グローバル化と証券投資	1・2前		2		○			1							1	標準外
			経営工学からみたマネジメント	1・2前		2		○				1						1	
			金融リテラシーと生命保険	1・2後		2		○											
			現代のニュースポーツの発展	1・2前		2		○											
		小計（45科目）				－	－	0	88	0	－			5	7	0	0	0	43
	総合科目	海外交流実習	1・2前・後		2				○					1				2	
		キャリアデザイン	1・2後		2		○						1						
		グループワークの技法と実践	1・2後		2					○			1						
		チャレンジ・インターンシップA	1・2前・後		2					○								2	
		チャレンジ・インターンシップB	2通		2					○								1	
		ライフデザインとセルフ・リーダーシップ	1・2前		2		○					1							
		Online Immersion Program	1・2後		2		○										1		
		Overseas Practicum	1・2前		2					○							1		
		データサイエンスBasicⅠ	1・2後		1		○										3		
		データサイエンスBasicⅡ	1・2後		1		○										3		
		小計（10科目）				－	－	0	18	0	－			0	1	0	0	0	7
	外国人 留学生用科目	日本事情－自然科学と技術	1後		2		○										1	隔年	
		日本事情－文化	1前		2		○										1	隔年	
		日本事情－現代社会	1後		2		○										1	隔年	
		小計（3科目）				－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	3
	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境A－Ⅰ	2・3前		2		○										3	オムニバス
			機械工学と環境A－Ⅱ	2・3後		2		○										3	オムニバス
			機械工学と環境B－Ⅰ	2・3前		2		○										6	オムニバス
			機械工学と環境B－Ⅱ	2・3後		2		○										3	オムニバス・共同（一部）
			エレクトロニクスと環境A－Ⅰ	2・3前		2		○										1	オムニバス 共同・標準外 オムニバス オムニバス
			エレクトロニクスと環境A－Ⅱ	2・3後		2		○										1	
			エレクトロニクスと環境B－Ⅰ	2・3前		2		○										1	
			エレクトロニクスと環境B－Ⅱ	2・3後		2		○										1	
			佐賀の環境A－Ⅰ	2・3前		2		○										3	
			佐賀の環境A－Ⅱ	2・3後		2		○										4	
			佐賀の環境B－Ⅰ	2・3前		2		○										4	
			佐賀の環境B－Ⅱ	2・3後		2		○										5	
			小計（12科目）				－	－	0	24	0	－			0	0	0	0	0
		文化と共生 コース	異文化交流1－Ⅰ	2前		2		○										1	標準外
			異文化交流1－Ⅱ	2後		2		○										1	
			異文化交流2－Ⅰ	3前		2		○										1	
			異文化交流2－Ⅱ	3後		2		○										1	
			Intercultural Communication1－Ⅰ	2前		2		○										2	
			Intercultural Communication1－Ⅱ	2後		2		○										1	
			Intercultural Communication2－Ⅰ	3前		2		○										2	
			Intercultural Communication2－Ⅱ	3後		2		○										2	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 （助 手 を 除 く） の 教 員	
教養教育科目	インター フェース 科目	文化と共生 コース	肥前陶磁器産業体験Ａ－Ⅰ	２・３前		2		○								1	共同・標準外 共同 共同	
			肥前陶磁器産業体験Ａ－Ⅱ	２・３後		2		○								2		
			肥前陶磁器産業体験Ｂ－Ⅰ	２・３前		2		○								4		
			肥前陶磁器産業体験Ｂ－Ⅱ	２・３後		2		○								4		
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 １－Ⅰ	２前		2		○								1		
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 １－Ⅱ	２後		2		○								1		
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 ２－Ⅰ	３前		2		○								1		
			ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化 ２－Ⅱ	３後		2		○								1		
			芸術と社会Ａ－Ⅰ	２・３前		2		○								5		
			芸術と社会Ａ－Ⅱ	２・３後		2		○								3		
			芸術と社会Ｂ－Ⅰ	２・３前		2		○								4		
			芸術と社会Ｂ－Ⅱ	２・３後		2		○								4		
			歴史文化１－Ⅰ	２前		2		○								1		
			歴史文化１－Ⅱ	２後		2		○								1		
			歴史文化２－Ⅰ	３前		2		○								1		
			歴史文化２－Ⅱ	３後		2		○								1		
			英語コミュニケーションＡ－Ⅰ	２・３前		2		○								1		
			英語コミュニケーションＡ－Ⅱ	２・３後		2		○								1		
			英語コミュニケーションＢ－Ⅰ	２・３前		2		○								1		
			英語コミュニケーションＢ－Ⅱ	２・３後		2		○								1		
			韓国語・韓国の社会と文化１－Ⅰ	２前		2		○								1		
			韓国語・韓国の社会と文化１－Ⅱ	２後		2		○								1		
			韓国語・韓国の社会と文化２－Ⅰ	３前		2		○								1		
			韓国語・韓国の社会と文化２－Ⅱ	３後		2		○								1		
			小計（32科目）			－	－	0	64	0	－			0	0	0		0
	生活と科学 コース	未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅰ	２・３前			2		○								4	オムニバス	
		未来を拓く材料の科学Ａ－Ⅱ	２・３後			2		○								2	オムニバス	
		未来を拓く材料の科学Ｂ－Ⅰ	２・３前			2		○								5	オムニバス	
		未来を拓く材料の科学Ｂ－Ⅱ	２・３後			2		○								6	オムニバス・共同（一部）	
		情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅰ	２・３前			2		○								2	共同	
		情報技術者キャリアデザインＡ－Ⅱ	２・３後			2		○								1		
		情報技術者キャリアデザインＢ－Ⅰ	２・３前			2		○								3		
		情報技術者キャリアデザインＢ－Ⅱ	２・３後			2		○								1		
		２年間でできる「がばいベン チャー」の作り方Ａ－Ⅰ	２・３前			2		○								1		
		２年間でできる「がばいベン チャー」の作り方Ａ－Ⅱ	２・３後			2		○								1		
		２年間でできる「がばいベン チャー」の作り方Ｂ－Ⅰ	２・３前			2		○								1		
		２年間でできる「がばいベン チャー」の作り方Ｂ－Ⅱ	２・３後			2		○								1		
		食糧生産の科学Ａ－Ⅰ	２・３前			2		○								4	オムニバス	
		食糧生産の科学Ａ－Ⅱ	２・３後			2		○								5	オムニバス	
		食糧生産の科学Ｂ－Ⅰ	２・３前			2		○								1		
		食糧生産の科学Ｂ－Ⅱ	２・３後			2		○								4	オムニバス	
		ライフサイエンス・フードサイエン スＡ－Ⅰ	２・３前			2		○								5	オムニバス	
		ライフサイエンス・フードサイエン スＡ－Ⅱ	２・３後			2		○								4	オムニバス・共同（一部）	
		ライフサイエンス・フードサイエン スＢ－Ⅰ	２・３前			2		○								5	オムニバス	
		ライフサイエンス・フードサイエン スＢ－Ⅱ	２・３後			2		○								5	オムニバス	
		小計（20科目）			－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	56
		人間と社会 コース	チームビルディングとリーダーシッ プ１－Ⅰ	２前			2		○					1			2	共同
			チームビルディングとリーダーシッ プ１－Ⅱ	２後			2		○					1			1	共同

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会 コース	チームビルディングとリーダーシップ2－Ⅰ	3前			2		○				1				2	共同
			チームビルディングとリーダーシップ2－Ⅱ	3後			2		○				1				2	共同
			リサーチ・リテラシー1－Ⅰ	2前			2		○								1	共同
			リサーチ・リテラシー1－Ⅱ	2後			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー2－Ⅰ	3前			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー2－Ⅱ	3後			2		○			1					2	
			スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅰ	2前			2		○								1	共同
			スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅱ	2後			2		○				1				1	
			スポーツイベントとボランティアリーダー2－Ⅰ	3前			2		○								2	
			スポーツイベントとボランティアリーダー2－Ⅱ	3後			2		○								2	
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅰ	2・3前			2		○								1	オムニバス
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅰ	2・3前			2		○								12	
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅱ	2・3後			2		○								12	
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅰ	2・3前			2		○								1	オムニバス
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			小計（18科目）	－	－	0	36	0	－			1	1	0	0	0	29	
		医療・福祉と 社会コース	現代社会と医療－Ⅰ	1前			2		○								1	オムニバス
			現代社会と医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			食と健康－Ⅰ	1前			2		○								7	
			食と健康－Ⅱ	1前			2		○								1	
			ライフサイクルからみた医療－Ⅰ	1前			2		○								4	オムニバス
			ライフサイクルからみた医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			患者に寄り添う医療－Ⅰ	1後			2		○								2	
			患者に寄り添う医療－Ⅱ	1後			2		○								1	
			小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	16	オムニバス
		地域・佐賀学 コース	佐賀の歴史文化A－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			佐賀の歴史文化B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化B－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			地域経済と社会A－Ⅰ	2・3前			2		○			1					0	
			地域経済と社会A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			地域経済と社会B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			地域経済と社会B－Ⅱ	2・3後			2		○			1					1	
			佐賀SDGsグローバルアクション1－Ⅰ	2前			2		○			1					3	
			佐賀SDGsグローバルアクション1－Ⅱ	2後			2		○								3	
			佐賀SDGsグローバルアクション2－Ⅰ	3前			2		○								4	
			佐賀SDGsグローバルアクション2－Ⅱ	3後			2		○								4	
			小計（12科目）	－	－	0	24	0	－			3	0	0	0	0	12	標準外
		共通	インターフェース演習	3前			2			○								
			小計（1科目）	－	－	0	2	0	－									
		基本科目	基本経営学	1前	○	2			○			2						※演習
			基本簿記会計	1前	○	2			○								1	
			基本統計学	1前	○	2			○			1	1					
			基本ミクロ経済学	1前	○	2			○			1	1					
			基本マクロ経済学	1前	○	2			○			1	1					
			基本法学	1前	○	2			○								1	
			小計（6科目）	－	－	12	－	－	－			5	3	0	0	0	2	
		基幹科目A	マーケティングマネジメント	1後	○		2		○				1					※実習
			社会情報論	1後	○		2		○			1						
			情報処理	1後	○		2		○				1					

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手を 除く） 教員	
専 門 教 育 科 目	基 幹 科 目	基幹科目A	統計学	1後	○		2		○			1						※実習
			日本経済論	1後	○		2		○			1						
			民法総則	1後	○		2		○				1					
			人権論	1後	○		2		○								1	
			小計（7科目）	—	—	—	14	—	—	—	—	3	3	0	0	0	1	
		基幹科目B	経営管理論	1後	○		2		○			1						
			企業論	1後	○		2		○				1					
			原価計算論	2前	○		2		○			1						
			経営組織論	2前	○		2		○								1	
			プログラミング	2前	○		2		○				1					
			経営労務論	2前	○		2		○								1	
			経済学史	1後	○		2		○				1					
			地域経済論	1後	○		2		○								1	
			市民と法	1後	○		2		○			1						
			刑法総論	1後	○		2		○			1						
			経済数学	2前	○		2		○			1						
			財政学	2前	○		2		○			1						
			金融論	2前	○		2		○								1	
			現代政治論	2前	○		2		○								1	
			物権法	2前	○		2		○				1					
			統治機構論	2前	○		2		○								1	
			刑法各論	2前	○		2		○			1						
			小計（17科目）	—	—	—	34	—	—	—	—	6	4	0	0	0	6	
	融 合 科 目		マーケティングリサーチ	2・3・4後	○		2		○			1						※演習
			経営戦略論	2・3・4後	○		2		○								1	
			ブランド戦略論	3・4前	○		2		○				1					
			労働経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			流通経済論	2・3・4後	○		2		○			1						
			経営情報論	3・4前	○		2		○			1						
			経済学演習	3・4前	○		2		○				1					
			会社法	2・3・4後	○		2		○								1	
			管理会計論	2・3・4後	○		2		○			1						
			財務会計論	3・4後	○		2		○				1					
			経営財務論	3・4後	○		2		○			1						
			ファイナンス論	3・4前	○		2		○				1					
			ミクロ経済学	2・3・4後	○		2		○			1						
			商法	3・4前	○		2		○								1	
			ロジスティクスマネジメント	3・4後	○		2		○								1	
			国際経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			マクロ経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			政策評価分析	2・3・4後	○		2		○			1						
			統計学演習	2・3・4後	○		2		○			1						
			計量経済学	3・4前	○		2		○				1					
			公共経済学	3・4後	○		2		○			1						
			都市経済学	3・4前	○		2		○			1						
			文化経済学	3・4前	○		2		○								1	
			産業組織論	3・4前	○		2		○			1						隔年
			債権法	2・3・4後	○		2		○				1					
			経済法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○								1	
			労働法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○			1						
			社会保障法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○			1						
			行政法総論	2・3・4後	○		2		○								1	
			環境法	2・3・4後	○		2		○								1	

基本計画書－33

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 を 除 く） の 教 員	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	韓国の言語と文化Ⅱ	1・2後			2		○								1	隔年
				Western Culture	1・2前			2		○								1	
				Intensive English I	1・2前			2		○								2	
				Intensive English II	1・2後			2		○								2	
				Academic English	1・2前			2		○								1	
				Business English	1・2前			2		○								1	
				アカデミック独語	1・2前・後			1		○								1	
				ドイツ文化論A	1・2前			2		○								1	
				ドイツ文化論B	1・2後			2		○								1	
				ドイツ文化論C	1・2前			2		○								1	
				ドイツ文化論D	1・2後			2		○								1	
			文学と芸術	日本古典文学A	1・2前			2		○								1	隔年
				日本古典文学B	1・2後			2		○								1	
				欧米の文化・文学	1・2前・後			2		○								1	
				ドイツ文学A	1・2前			1		○								1	
				ドイツ文学B	1・2後			1		○								1	
				芸術論	1・2前			2		○								1	
				音楽史・音楽論	1・2前			2		○								1	
			言語と表現	日本語学	1・2前			2		○								1	共同・標準外・メディア
				コミュニケーション論	1・2前・後			2		○								2	
				Critical Thinking for the Modern Age	1・2前			2		○								1	
				Cultural Metaphors	1・2後			2		○								1	
			歴史と文化	哲学・倫理学	1・2後			2		○								1	隔年
				考古学	1・2前			2		○								1	
				日本史	1・2前・後			2		○								1	オムニバス
				東洋史	1・2前・後			2		○								1	
				西洋史	1・2前・後			2		○								1	
				人類学	1・2前			2		○								3	
				スポーツウェルネスの世界	1・2前・後			2		○								1	標準外・メディア 隔年
				近代サッカーの成立と進歩	1・2後			2		○								1	
				サッカーの歴史と技法	1・2前			2		○								1	
				柔道の歴史と技法	1・2後			2		○								1	
				哲学の世界	1・2後			2		○								1	
				地域史	1・2後			2		○								1	
				宗教学	1・2後			2		○								1	
				水中文化遺産学	1・2前			2		○								1	
				運動科学の世界	1・2後			2		○								1	
			文化の分野 特別講義	九州・沖縄学Ⅰ	1・2前			2		○								1	オムニバス・標準外・メディア
				小計（45科目）	—	—	0	87	0	—			0	0	0	0	0	34	
		現代社会の分野	基礎 社会科学	経済学	1・2後			2		○								1	オムニバス
				会計学	1・2後			2		○									
				経営学	1・2前			2		○									
				法律学	1・2前			2		○			3	2				3	
				政治学	1・2後			2		○								1	
				日本国憲法	1・2前・後			2		○								1	
				現代社会の法と政治	1・2前			2		○								1	
				地理学	1・2前			2		○								1	
				Introduction to Sociology	1・2後			2		○								1	
			教育と人間	教育と人生	1・2後			2		○								1	オムニバス
				心理学A	1・2後			2		○				1				1	
				心理学B	1・2前・後			2		○								1	
				健康科学A	1・2後			2		○								1	
				健康科学B	1・2後			2		○								2	
				スポーツと健康	1・2前			2		○								1	共同・メディア
				Citizenship Education	1・2後			2		○								1	
				Life in the Global World	1・2前			2		○								1	
				情報メディアと倫理	1・2前			2		○								1	
				心の病と癒しのプロセス	1・2後			2		○								1	
				心身の発達過程	1・2前			2		○								1	
				情報メディアコミュニケーション	1・2前・後			2		○								2	
				Aspects of Modern Society	1・2後			2		○								1	オムニバス・共同（一部）
				プレゼンテーション・デザイン	1・2前・後			2		○								1	
				現代教育学	1・2後			2		○								7	

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学A	1・2後				2		○								1	共同（一部） 共同（一部）
			教育学B	1・2前				2		○								1	
			教育学C	1・2後				2		○				1					
			ウェルビーイング概論	1・2後				2		○								3	
			心理学入門	1・2前				2		○								2	
			心理学実験入門	1・2後				2		○								2	
			体育実技Ⅰ	1・2前・後				1			○							3	
			体育実技Ⅱ	1・2前・後				1			○							4	
		現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在	1・2後				2		○					1				標準外・メディア オムニバス・標準外・メディア オムニバス・標準外・メディア 共同・標準外・メディア
			アジアコミュニティ論	1・2後				2		○								1	
			知的財産学	1・2後				2		○								1	
			環境科学Ⅰ	1・2前				2		○								2	
			環境科学Ⅲ	1・2後				2		○								2	
			インストラクショナル・デザイン	1・2前・後				2		○								2	
			現代日本の経済社会問題	1・2前				2		○			1						
			九州地域の社会と経済Ⅰ	1・2前				2		○								1	
			九州地域の社会と経済Ⅱ	1・2後				2		○								1	
		現代社会の分野 特別講義	グローバル化と証券投資	1・2前				2		○			1						標準外 1 1
			経営工学からみたマネジメント	1・2前				2		○				1					
			金融リテラシーと生命保険	1・2後				2		○									
			現代のニュースポーツの発展	1・2前				2		○									
		小計（45科目）			—	—	0	88	0	—			5	7	0	0	0	43	標準外 標準外 標準外 標準外・メディア 標準外 共同・標準外・メディア 共同・標準外・メディア
	総合科目		海外交流実習	1・2前・後				2				○						2	
			キャリアデザイン	1・2後				2		○				1					
			グループワークの技法と実践	1・2後				2			○			1					
			チャレンジ・インターンシップA	1・2前・後				2			○							2	
			チャレンジ・インターンシップB	2通				2			○							1	
			ライフデザインとセルフ・リーダーシップ	1・2前				2		○				1					
			Online Immersion Program	1・2後				2		○								1	
			Overseas Practicum	1・2前				2			○							1	
			データサイエンスBasicⅠ	1・2後				1		○								3	
			データサイエンスBasicⅡ	1・2後				1		○								3	
		小計（10科目）			—	—	0	18	0	—			0	1	0	0	0	7	
	外国人留学生用科目		日本事情－自然科学と技術	1後				2		○								1	隔年
			日本事情－文化	1前				2		○								1	隔年
			日本事情－現代社会	1後				2		○								1	隔年
		小計（3科目）			—	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	3	
インターフェース科目	環境コース		機械工学と環境A－Ⅰ	2・3前				2		○								3	オムニバス
			機械工学と環境A－Ⅱ	2・3後				2		○								3	オムニバス
			機械工学と環境B－Ⅰ	2・3前				2		○								6	オムニバス
			機械工学と環境B－Ⅱ	2・3後				2		○								3	オムニバス・共同（一部）
			エレクトロニクスと環境A－Ⅰ	2・3前				2		○								1	
			エレクトロニクスと環境A－Ⅱ	2・3後				2		○								1	
			エレクトロニクスと環境B－Ⅰ	2・3前				2		○								1	
			エレクトロニクスと環境B－Ⅱ	2・3後				2		○								1	
			佐賀の環境A－Ⅰ	2・3前				2		○								3	オムニバス
			佐賀の環境A－Ⅱ	2・3後				2		○								4	共同・標準外
			佐賀の環境B－Ⅰ	2・3前				2		○								4	オムニバス
			佐賀の環境B－Ⅱ	2・3後				2		○								5	オムニバス
		小計（12科目）			—	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	27	
	文化と共生コース		異文化交流1－Ⅰ	2前				2		○								1	標準外
			異文化交流1－Ⅱ	2後				2		○								1	
			異文化交流2－Ⅰ	3前				2		○								1	
			異文化交流2－Ⅱ	3後				2		○								1	
			Intercultural Communication1－Ⅰ	2前				2		○								2	
			Intercultural Communication1－Ⅱ	2後				2		○								1	
			Intercultural Communication2－Ⅰ	3前				2		○								2	
			Intercultural Communication2－Ⅱ	3後				2		○								2	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会 コース	チームビルディングとリーダーシップ2－Ⅰ	3前			2		○				1				2	共同
			チームビルディングとリーダーシップ2－Ⅱ	3後			2		○				1				2	共同
			リサーチ・リテラシー1－Ⅰ	2前			2		○								1	共同
			リサーチ・リテラシー1－Ⅱ	2後			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー2－Ⅰ	3前			2		○								1	
			リサーチ・リテラシー2－Ⅱ	3後			2		○			1					2	
			スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅰ	2前			2		○								1	共同
			スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅱ	2後			2		○				1				1	
			スポーツイベントとボランティアリーダー2－Ⅰ	3前			2		○								2	
			スポーツイベントとボランティアリーダー2－Ⅱ	3後			2		○								2	
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅰ	2・3前			2		○								1	オムニバス
			課題解決のためのプロジェクトデザイン－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅰ	2・3前			2		○								12	
			教育から学ぶインターフェース論－Ⅱ	2・3後			2		○								12	
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅰ	2・3前			2		○								1	オムニバス
			教育レクリエーション支援の探究－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			小計（18科目）	－	－	0	36	0	－			1	1	0	0	0	29	
		医療・福祉と 社会コース	現代社会と医療－Ⅰ	1前			2		○								1	オムニバス
			現代社会と医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			食と健康－Ⅰ	1前			2		○								7	
			食と健康－Ⅱ	1前			2		○								1	
			ライフサイクルからみた医療－Ⅰ	1前			2		○								4	オムニバス
			ライフサイクルからみた医療－Ⅱ	1前			2		○								1	
			患者に寄り添う医療－Ⅰ	1後			2		○								2	
			患者に寄り添う医療－Ⅱ	1後			2		○								1	
			小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	16	オムニバス
		地域・佐賀学 コース	佐賀の歴史文化A－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			佐賀の歴史文化B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			佐賀の歴史文化B－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			地域経済と社会A－Ⅰ	2・3前			2		○			1						
			地域経済と社会A－Ⅱ	2・3後			2		○								1	
			地域経済と社会B－Ⅰ	2・3前			2		○								1	
			地域経済と社会B－Ⅱ	2・3後			2		○			1						
			佐賀SDGsグローバルアクション1－Ⅰ	2前			2		○			1					3	
			佐賀SDGsグローバルアクション1－Ⅱ	2後			2		○								3	
			佐賀SDGsグローバルアクション2－Ⅰ	3前			2		○								4	
			佐賀SDGsグローバルアクション2－Ⅱ	3後			2		○								4	
			小計（12科目）	－	－	0	24	0	－			3	0	0	0	0	12	標準外
		共通	インターフェース演習	3前			2			○								
			小計（1科目）	－	－	0	2	0	－									
		基本科目	基本統計学	1前	○	2			○			1	1					※演習
			基本ミクロ経済学	1前	○	2			○			1	1					
			基本マクロ経済学	1前	○	2			○			1	1					
			基本経営学	1前	○	2			○			2						
			基本簿記会計	1前	○	2			○								1	
			基本法学	1前	○	2			○								1	
			小計（6科目）	－	－	12	－	－	－			5	3	0	0	0	2	
		基幹科目A	民法総則	1後	○		2		○				1					※実習
			人権論	1後	○		2		○								1	
			情報処理	1後	○		2		○				1					

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手を 除く） 教員	
専 門 教 育 科 目	基 幹 科 目	基幹科目A	統計学	1後	○		2		○			1						※実習
			日本経済論	1後	○		2		○			1						
			マーケティングマネジメント	1後	○		2		○				1					
			社会情報論	1後	○		2		○			1						
			小計（7科目）	－	－	－	14	－	－			3	3	0	0	0	1	
		基幹科目B	市民と法	1後	○		2		○			1						
			刑法総論	1後	○		2		○			1						
			現代政治論	2前	○		2		○								1	
			物権法	2前	○		2		○				1					
			統治機構論	2前	○		2		○								1	
			刑法各論	2前	○		2		○			1						
			経済学史	1後	○		2		○				1					
			地域経済論	1後	○		2		○								1	
			経営管理論	1後	○		2		○			1						
			企業論	1後	○		2		○				1					
			経済数学	2前	○		2		○			1						
			財政学	2前	○		2		○			1						
			金融論	2前	○		2		○								1	
			原価計算論	2前	○		2		○			1						
			経営組織論	2前	○		2		○								1	
			プログラミング	2前	○		2		○				1					
			経営労務論	2前	○		2		○								1	
			小計（17科目）	－	－	－	34	－	－			6	4	0	0	0	6	
	融 合 科 目		会社法	2・3・4後	○		2		○								1	※演習
			債権法	2・3・4後	○		2		○				1					
			労働法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○			1						
			経営戦略論	2・3・4後	○		2		○								1	
			知的財産法	3・4前	○		2		○				1					
			経済法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○								1	
			マーケティングリサーチ	2・3・4後	○		2		○			1						
			経営財務論	3・4後	○		2		○			1						
			自治体行財政分析	3・4後	○		2		○								1	
			社会保障法Ⅰ	2・3・4後	○		2		○			1						
			行政法総論	2・3・4後	○		2		○								1	
			政策評価分析	2・3・4後	○		2		○			1						
			行政救済法	3・4前	○		2		○								1	
			環境法	2・3・4後	○		2		○								1	
			公共経済学	3・4後	○		2		○			1						
			都市経済学	3・4前	○		2		○			1						
			商法	3・4前	○		2		○								1	
			ミクロ経済学	2・3・4後	○		2		○			1						
			マクロ経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			国際経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			労働経済学	2・3・4後	○		2		○				1					
			統計学演習	2・3・4後	○		2		○			1						
			計量経済学	3・4前	○		2		○				1					
			管理会計論	2・3・4後	○		2		○			1						
			ファイナンス論	3・4前	○		2		○				1					
			経営情報論	3・4前	○		2		○			1						
			財務会計論	3・4後	○		2		○				1					
			ロジスティクスマネジメント	3・4後	○		2		○								1	隔年
			文化経済学	3・4前	○		2		○								1	
			産業組織論	3・4前	○		2		○			1						

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
	融合科目	経済学演習	3・4前	○		2		○				1					※演習・オムニバス
		流通経済論	2・3・4後	○		2		○									
		ブランド戦略論	3・4前	○		2		○				1					
		小計（33科目）	－	－	－	66	－	－			11	9	0	0	0	8	
	社会課題演習	社会課題演習	1後	○	2			○				11	6				
		小計（1科目）	－	－	2	－	－	－			11	6	0	0	0	0	
	演習	演習 2 年	2前・後	○	4				○			17	11				各学期 2 単位
		演習 3 年	3前・後	○	4				○			17	11				各学期 2 単位
		演習 4 年	4前・後	○	4				○			17	11				各学期 2 単位
		小計（3科目）	－	－	12	－	－	－			17	11	0	0	0	0	
	展開科目	証券市場分析	2・3・4後	○		2		○				1					集中講義
		現代の労働	2・3・4後	○		2		○				1					
		現代の経営	2・3・4前	○		2		○				1					
		経済法Ⅱ	3・4前	○		2		○								1	
		労働法Ⅱ	3・4前	○		2		○				1					
		社会保障法Ⅱ	3・4前	○		2		○				1					
		民事手続法	3・4前	○		2		○								1	
		刑事訴訟法	3・4前	○		2		○								1	
		不法行為法	3・4後	○		2		○								1	
		国際環境法	3・4後	○		2		○								1	
		国際政治学	3・4後	○		2		○								1	
		日本農業論	3・4後	○		2		○				1					
		農政経済論	3・4前	○		2		○				1					
		経済地理学	3・4前	○		2		○					1				
		開発経済学	3・4前	○		2		○				1					
		Asian Economics	3・4後	○		2		○				1					
		アジア経済史	3・4前	○		2		○				1					
		日本経済史	3・4後	○		2		○				1					
		国際金融論	3・4後	○		2		○								1	
		流通産業論	3・4前	○		2		○				1					
		経営史	3・4前	○		2		○				1					
		実践会計	3・4前	○		2		○					1				
		小計（22科目）	－	－	－	44	－	－			10	2	0	0	0	7	
	外国語科目	ビジネス基礎英語	2・3・4前	○		2			○							1	
		ビジネス・コミュニケーション英語	2・3・4前	○		2			○							1	
		小計（2科目）	－	－	－	4	－	－			0	0	0	0	0	1	
	特殊講義	特殊講義	2・3・4後	○		2				○		1	4				集中講義
		小計（1科目）	－	－	－	2	－	－			1	4	0	0	0	0	
合計（345科目）			－	－	34	647	0	－			17	13	0	0	0	280	
学位又は称号		学士（経済学）			学位又は学科の分野					経済学関係							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
教養教育科目30単位以上、専門教育科目（必修科目26単位を含む）94単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））									1 学年の学期区分				2 期				
									1 学期の授業期間				1 5 週				
									1 時限の授業の標準時間				9 0 分				

授業科目の概要					
(経済学部経済学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	大学入門科目	大学入門科目Ⅰ		本学に入学した学生に、大学における学習への転換を促し、高校から大学への接続を円滑にし、本学の新入生として必要とされる知識やスキルを身に付けることを目的とします。更に、経済学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力またはデザイン力を養うことを目的とします。1クラス20人程度以下の少人数によるゼミナール方式の授業を行います。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	英語A	中学・高校の6年間で培った基礎学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	英語B	中学・高校の6年間で培った基礎学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	英語C	中学・高校の6年間で培った基礎学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。 少人数クラスの利点を活かして、コミュニケーション志向型の授業を行う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	英語D	中学・高校の6年間で培った基礎学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す。意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	実践日本語C	本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの中級後半の科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造一格表示・後置詞対応と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応を説明し、学生に機会―1）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する―を提供する。読む文章は教科書のEU、雑談力、日本の自殺者数、カラオケボックスの他の利用法の4本である。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	実践日本語D	本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの中級Ⅱの科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応、③関連のある言葉を探す方法を説明し、学生に機会―1）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する―を提供する。読む文章は教科書の外国語の勉強方法、巨大ロボット、主食、アジアとヨーロッパで好まれる色の違いの4本である。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	実践日本語E	本科目は『実践日本語』シリーズA～Fの上級の科目のひとつで、①ひとつひとつの文を理解する方法、②項構造と活用型を含む動詞・形容詞・名詞の項構造と活用型と文の対応、③筆者の意見を見抜く、筆者の立場を見分ける、大切なことを伝えるサインをつかむ、目印を使って内容を整理する方法を説明し、学生に機会―1）文章で表されていることを検証・確認したり、筆者の主張へコメントをしたりして、それらを作文し、それをクラスで発表し、クラスで議論する―を提供する。読む文章は教科書の日本の町のごみ、レジ袋の有料化、ワークシェアリング、優先席の4本である。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目	実践日本語F	この講義では、中・上級レベルの学習者を対象にした授業を行います。読解ストラテジーに焦点を当てながら、日本語の文章が正しく理解できるように様々な読解課題を実施します。また、テキストの情報をテーマにしてグループ・ディスカッションを行い作文にまとめるなど、四技能の伸長にも配慮して進めます。 様々な読解ストラテジーについて知りそれを実践することを通して、より複雑な日本語の文章を効率的に理解できるようになる。また、日本を題材としたテーマについて自分の考えを他者と共有し、深める中で日本語コミュニケーション能力を高める。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	情報リテラシー科目	情報基礎概論	情報技術は、我々の生活を便利にしてくれるものです。同時に、普及にともなって様々な負の側面も現れています。「情報リテラシー」科目は、現代の社会で生きていく上で不可欠な情報技術の基礎について学ぶとともに、情報化された社会とその仕組みについて、利点と課題について学びます。また、大学での専門教育及び卒業後に必要とされる情報に関する基礎技術を習得することを目的とします。 そのため、情報技術に関する基礎知識の習得と、社会で日常的に使われている様々なインターネット媒体の活用に関する利点と課題の把握を目標とします。特に、利用者としてのセキュリティ対策の基本態度の習得を行います。 また、大学での学習を行う上で必要となるAIやその背景となる学問についての知識を、学環の特性に応じて習得することを目標とします。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	Introduction to Science		アカデミックな英語力育成の一環として、理工学の7つの分野（数理学、物理科学、知能情報システム学、化学、機械システム工学、電気電子工学、都市工学）の概要や研究内容、最近の話題などを英語を用いて紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (230 石田賢治／2回) ガイダンス、機械システム工学についての講義 (192 ナルモン／1回) 都市工学分野についての講義 (212 三島悠一郎／1回) 都市工学分野についての講義 (219 山内一宏／1回) 物理科学分野についての講義 (93 高橋智／1回) 物理科学分野についての講義 (222 YEOH WEN LIANG／2回) 知能情報システム学分野についての講義 (139 山田泰教／1回) 化学分野についての講義 (135 森貞真太郎／1回) 化学分野についての講義 (196 橋本時忠／1回) 機械システム工学についての講義 (63 郭其新／2回) 電気電子工学分野についての講義 (296 戸次鵬人／2回) 数理学分野についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	物理の世界Ⅰ		古典物理学（力学、波動、電磁気学）の基本法則を知り、典型的な物理現象を理解する力を身に付けることを目指します。 物理の世界Ⅰの概要、力と運動の表し方、運動の法則、等速円運動、放物運動、雨滴の落下、振動、仕事とエネルギー、運動量、慣性力、回転運動、波動、熱、電場と地場についての講義を行います。 力学を学んだ後、波動、熱力学、電磁気学など、物理的な世界観を構成するために必要な基本的な考え方と意味について説明します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	物理の世界Ⅱ		現代物理学の基本法則を知り、典型的な物理現象を理解する力を身に付けることを目指します。 物理の世界Ⅱの概要、相対性理論、時計の遅れと棒の収縮、質量とエネルギー、原子の構造、光の粒子性、電子の波動性、不確定性原理、水素原子、原子核の構造、核エネルギー、放射能、素粒子、宇宙のビッグバンについての講義を行います。 相対性理論、原子の構造、不確定性原理、原子核、素粒子、宇宙論に関する、現代物理学を理解するために必要な知識について、初歩的な説明をします。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	化学の世界A		化学の世界Ⅰでは現代の生活に関わる、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化、エネルギー問題、飲料水、酸性雨の6つのテーマを扱う。社会および個人として見た各課題の諸側面を提示した後でそれぞれの課題と化学との関わりを示し、次いで、その化学の中身を説明し、最後に、社会および個人の関わりを改めて議論する。 (オムニバス方式／全15回) (110 富永昌人／8回) 大気、オゾン、気候変動に関する化学について講義する (178 坂口幸一／7回) エネルギー、水、酸性雨に関する化学について講義する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	化学の世界B		現代の生活に関わる、電池、高分子化合物、薬、栄養、遺伝子工学の5つのテーマを扱い、実際の生活に関係する様々な場面において、化学がどのように関わっているのか、具体例を紹介しながら講義する。 (オムニバス方式／全15回) (135 森貞真太郎／7回) 電池、高分子に関する化学について講義する (61 長田聡史／8回) 栄養、薬、遺伝に関する化学について講義する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	実験化学A		様々な化学現象を理解するための化学実験を行ない、化学現象の基礎を理解することを目標とし、安全に化学実験するためのポイントを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (302 米田宏／7回) 諸注意と安全教育、色の化学の実験と講義、レポート指導、総括 (267 高椋利幸／2回) 水に溶けるとは？の実験と講義 (110 富永昌人／2回) 電圧と電位の実験と講義 (238 岡島俊哉／2回) バイオディーゼル燃料と気体の性質の実験と講義 (176 兒玉宏樹／2回) 土を化学する実験と講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	実験化学B		化学のおもしろさは、実験をすることである。実験中に、溶液の色が変わったり、何か固まりが出てきたり、びかびか光ったり、そのような変化を見つけることが「化学のおもしろさ」の第一歩である。この講義では、高校や中学で紹介された実験や生活の中で役立つ簡単な化学実験を中心に、「なぜだろう」から「簡単な原理」までを紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (64 川喜田英孝／7回) 実験説明、まるい色つきゲルをつくる、すみに置けない墨流しの実験と講義、レポート (58 大渡啓介／2回) カメレオンエマルションの実験と講義 (94 竹下道範／2回) 秘密のえ？の実験と講義 (135 森貞真太郎／2回) 下から上に色が移動（金属の抽出）の実験と講義 (292 小山田重蔵／2回) ナイロン 66 の合成の実験と講義	オムニバス

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	地学の世界		地球の構造や運動と、地球環境の変遷と生物進化および環境問題について講義を行う。 地球の構造や歴史を知り、その上で現在起こっている地球環境問題について考えていき、我々が住んでいるいる「地球」について理解を深める。 地球の構造、プレートテクニクス、地球の誕生、生命の誕生、先カンブリア紀の環境と生物進化、古生代の環境と生物進化、中生代の環境と生物進化、新生代の環境と生物進化、気候変動、地球環境問題に項目をわけて講義を行う。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	数理の世界		この講義では、主に初等整数論を解説する。 この分野は「数学A」の内容にもあるが、その単元の知識を前提とはしない。 「初等整数論は早期の数学教育にとってもっともよい教材の一つであろう。それは予備知識をほとんど必要としない。その主題は確実で親しみやすく、用いられる推論の過程は単純で、一般的で、また新しい。そして人間の自然な好奇心に訴える点では、数学的な学問のなかでは独自のものがある。整数論を一ヶ月うまく教えると、微積分学を一ヶ月教えたよりは2倍も教育的で2倍も役に立ち、10倍も面白い。(Hardy, 1877-1947)」	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	原子の発見		この世界にあるすべての物質は、原子という小さな粒子が多数集まってできています。これは、現代では常識です。しかし、我々は普段の生活の中で原子の存在を意識することはありません。原子はとても小さいので、その一つ一つを直接目で見ることができないからです。理科の時間に使った光学顕微鏡を使っても見えません。原子を見るには電子顕微鏡が必要です。 原子は今から100年ほど昔の20世紀初頭に、その存在が確立されました。その時代には、電子顕微鏡はありませんでした。電子顕微鏡は、原子の存在が確かめられ、原子がさらに小さな原子核と電子からできていることがわかった後に開発されたからです。虫眼鏡や光学顕微鏡しかない時代に、どのようにして原子の存在を確かめたのでしょうか？この授業では、人類がどのようにして原子の存在を確かめたのかを、じっくりと講義します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	情報科学の世界A		コンピュータの理論的な動作原理を簡易型プログラミング言語（Scratch）での演習を含め、解説する。 具体的には有限状態オートマトン、ブッシュダウンオートマトン、チューリングマシンについて講義する。 それらをプログラミング言語で実際にプログラミングする演習を行い、動作確認を行う。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	情報科学の世界B		情報システムは、現代社会を支える基本的な仕組みとなっている。いまや社会基盤となった情報システムを理解することは、現代社会に生きる者として必須となっている。情報システムを理解するために、情報科学の基礎、情報システムの仕組み、情報システムを支えるインターネットの仕組み、情報システムを活用した様々なサービスの仕組み、そして安心して情報システムが使えるようにするためのセキュリティについて講義する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	機械工学の世界A		機械工学の世界において、安全で、かつ経済的なものづくりを行うには、材料の力学、製図、加工などの知識が欠かせない。この科目は二人の教員で担当する。 （オムニバス方式／全15回） （118 萩原世也／8回） 力学の基礎となる力のつり合い、モーメントのつり合いなど初歩的な内容から説明した後、材料力学の基礎となる応力とひずみなどについて解説する。 （272 服部信祐／7回） 機械材料、製図、および加工などの基礎的な内容について解説を行う。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	機械工学の世界B		機械工学のもっとも基礎的な力学の一つである流体力学（流れの力学）の初歩を理解する。 （オムニバス方式／全15回） （68 木上洋一／7回） 流体力学（流れの力学）の初歩を講義する。具体的には、粘性と圧縮性、圧力と水深の関連性、浮力の働き、渦運動や加速度運動、流体のエネルギーなどについて、具体例を交えて解説する。 （278 松尾繁／8回） 引き続き流体力学（流れの力学）の初歩を講義する。具体的には、ジェット推進、流線曲率の定理、コアンダ効果、はく離、境界層、揚力、マグナス効果などについて、具体例を交えて解説する。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	電気電子工学の世界A		普段の生活の中で使われている様々なセンサ（光を使ったセンサ、電波を使ったセンサ、磁気を使ったセンサ、（超）音波を用いたセンサなど）やセンシング技術、さらには、医療及び産業界で開発されている先端センシング技術を紹介し、それらの原理や開発に至るまでの過程について説明する。普段の生活で利用しているセンサ及びセンシング技術の基本を理解する。また、センサ及びセンシング技術の開発に至る過程での基礎知識と発想や想像力の大切さを理解する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	電気電子工学の世界B		電気電子工学を学ぶにあたり必要となる知識を、中学と高校で学んだ理科・物理の内容を含め、簡単な歴史に触れながら説明する。 続いて、システム制御について概説し、その例として、様々な用途に利用されている機器について紹介する。 電気電子工学の基本となる、発電、モータ、電気回路等について、その基礎を理解する。システム制御と、その実社会での応用例（農作業ロボット、介護ロボットなど）についての知識を得る。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	都市と生活		暑さ寒さを和らげて快適な室内空間を作り出すために、住宅やビルなどの建築には様々な工夫がなされています。特に最近は住宅においても断熱と気密の性能が向上しており、省エネルギー性だけでなく、安全性も高くなりつつあります。この講義では、住宅やオフィスビルなどにおける室内熱・空気環境調節技術について、建築的ならびに設備的な観点から説明します。 また、建築を取り巻く昨今のエネルギー問題や地球環境問題についても紹介します。	隔年

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	インタラクティブコンテンツ入門		主な授業内容は以下の4点 (1) Springin' Classroomを用いて2Dインタラクティブコンテンツ制作の基礎について理解する (2) 3次元空間についての基礎知識を理解する (3) Unityを用いて3Dインタラクティブコンテンツ制作の基礎について理解する (4) VRやMR、メタバースなどの先端的社会状況について論考する。 ----- 講義では、話を聞くだけではなく、グループ等でのディスカッションも取り入れます。 教え合い・学び合いを基本方針とします。 演習では、上記ソフトウェア（アプリ）を使った初歩的なコンテンツの作り方を学んだ後、上記のソフトウェア（アプリ）のどちらかオリジナルのコンテンツを作成してもらいます。 オリジナルのコンテンツはシンプルなもので構いません。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	環境をはかる		本講義では、毎回、身近な環境問題から地球規模的な問題をいくつかを取り上げ、広範な「環境」問題を読み解かせる。 社会生活の高度化とともに多種多様な物質が意図的あるいは非意図的に環境中へ放出され、人間を含めた生態系に大きな影響をもたらしている。また、近年ではこのような環境問題は、多方面にわたり、その被害や影響は地球規模に及んでいる。ここでは、環境問題が意味することを読み解くための基礎的知識の習得を行うことを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	肥前セラミック学		佐賀県の代表的産業であるやきもの・セラミックスに関連する講義を行うとともに、実験や実習やフィールドワーク等の実践的な教育も行う。 (オムニバス方式／全15回) (136 矢田光徳／1回) ガイダンス、やきもの・セラミックスとは (50 一ノ瀬弘道／1回) サイエンスの視点から見たやきもの作り (82 近藤文義／1回) やきもので使う土・泉山陶石 (56 海野雅司／1回) やきもの鑑定 (271 根上武仁／1回) やきもの・セラミック廃材の有効利用 (64 川喜田英孝／1回) 実験 1：セラミックス粒子を導入したゾル (288 磯野健一、211 三沢達也／1回) (共同) 実験 1：セラミックスを用いた電池の作成 (2 山本長次／2回) 有田の磁器生産や販売 (143 湯之原淳、165 甲斐広文／2回) (共同) カップの排泥鋳込み (42 有馬隆文／2回) 有田の街並み・建築 (101 田中右紀／1回) 肥前窯業の歴史や仕組み (210 三木悦子／1回) 鋳込み体験したカップの仕上げ	オムニバス・共同 (一部)
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	AI・数理・データサイエンス I		プログラミングができれば、大量のデータを処理する、あるいは作業を自動化することができます。効率があがるだけでなく、間違いも少なくなります。しかし、プログラミングは難しいのでは？Pythonは、比較的簡単に習得でき、かつ短いプログラムで様々なことができるプログラミング言語です。本講義は、プログラミングを全く知らない人をが、Pythonの初歩を習得させることを目指します。併せてMATLABの最初の一歩も提供します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	AI・数理・データサイエンス II		現代のAI・データサイエンスには機械学習が必要不可欠です。 この講義では「機械学習とは何か？」をテーマとして、機械学習の数理的な背景とそのプログラミングについて講義します。 また、AIやデータサイエンスではどのように機械学習を使っているかを事例を通して説明します。 データさえ入力すれば自動的に結果が出てくるというような、計算機が出力した結果を鵜呑みにするのではなく、その機械学習モデルの背景の知識とそれを実際に計算する能力を身につけます。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	農学の世界 A		本授業では、農業従事者が生活する農村における生活環境及び自然環境と人々の活動との関連について学びます。 本授業では、佐賀県の地形、佐賀県の気象、佐賀県の農業、農村の水環境、農村の土環境、農村の大気環境、農村における開発行為、農村における環境保全についての講義を行います。 講義では、人々の生活や農業に欠かすことのできない水（質・量）や大気に関する佐賀県内での事例を中心に紹介します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	農学の世界 B		農業生産の基盤である農地は、高い土地生産性と労働生産性、および環境に関する保全性を併せ持つ必要がある。本授業は、地域による特殊性を考慮した農地の造成、整備、環境保全に関わる基本的な事項について講義します。国内外の農業と農地環境に関わる基本的知識を習得します。具体的には、農地の造成と整備に係わる農業土木的な計画・設計・維持管理に加えて、農地の果たす環境保全的な役割について理解することを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	STEAM学習基礎		講義前半では、STEAM教育の基本概念や歴史、デザイン思考、社会事例から見るSTEAMの意義、ロジカルシンキング、チームビルディングのスキル等について理解する。また、CADソフト（Fusion）を用いた3次元モデリングの練習を行い、プロダクト設計の基礎的なスキルを身につける。授業後半では、チームごとに身近な課題を解決するためのプロダクトを考案するとともに、Fusionを用いて設計し、更に3Dプリンターを用いて製作する。また、学びの総括として製作した小物を用いたプレゼンテーションコンテストを行う。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	Introduction to Renewable Energy		To achieve carbon neutrality by 2025, it will be necessary to incorporate unused renewable energy in addition to the solar and wind, already utilized a large scale. The Saga University's Institute of Ocean Energy has been conducting research into unused renewable energy, such as ocean thermal power, offshore wind power, tidal power, and wave power. This lecture introduce technologies for utilizing ocean energy and how they can be implemented. 2025年までにカーボンニュートラルを実現するためには、すでに大規模に利用されている太陽光や風力に加え、未利用の再生可能エネルギーを取り入れる必要があります。佐賀大学海洋エネルギー研究所では、海洋熱発電、洋上風力発電、潮力発電、波力発電といった未利用の再生可能エネルギーに関する研究を進めています。本講義では、海洋エネルギーを活用するための技術と、その導入方法について紹介します。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生物科学の世界 A		本講義では「生命の科学」分野の中でも、特に細胞と遺伝子について、それらはどのようなものなのか？ 私達の生活とどのような関わりがあるのかなどを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (88 鈴木章弘／8回) 遺伝物質DNAの発見、情報高分子DNA、遺伝情報の保存、植物の整理と遺伝子、私たちの生活と遺伝子について解説する。 (123 福田伸二／7回) 生命の機能単位としての細胞、植物生理学と野菜の生産等について解説する。	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生物科学の世界 B		多くの生物のゲノム配列が解読された現在、生物に対する分子レベルでの理解が急速に深まりつつある。この新しい生命科学研究の潮流を踏まえつつ、生命科学、特に遺伝学・分子生物学の基礎について学習する。ネット上の教科書であるDNA from the beginning (http://www.dnafb.org/) に沿って、生命科学の基礎について学習する。 生命科学、特に遺伝学・分子生物学の基礎の基本的な知識を得ることができることを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	栄養科学 A		栄養と人体のいくつかの器官系の構造や機能、疾病に関連させて講義する。なお、筋骨格系（運動）については、「ここに関する恒常性（ホメオスタシス）」と関連づけて後期の「栄養科学B」で扱う。また、五大栄養素のうち、ビタミンとミネラルについても「栄養科学B」で扱う。 「健康」を考える上で、人体を「モノ（身体）に関する恒常性（ホメオスタシス）」が成立しているシステムと捉え、健全に維持するための知識と日常生活上の技能を紹介する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	栄養科学 B		生体の恒常性（ホメオスタシス）とその維持について、心身（身心）の構造と働きを視点として講義する。 三大栄養素、人体の機能を保つために必要な有機化合物とミネラル（無機質）、人体の構造と機能、「ヘルス」「ウェルネス」「ウェルビーイング」あるいは「ハビネス」という概念、生体（概目）リズムと睡眠、「メンタルヘルス」、心理療法などについて解説する。 心身（身心）の構造と働きについて意識し、生体の恒常性（ホメオスタシス）と関連事項を理解し、日常生活に役立てられるようになることを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	栄養科学 C		食品、調理、食品衛生、公衆衛生の概論（全体像）について講義する。 食及び食の周辺事項に関する知識を獲得し、知識を基に思考や行動を主体的にでき、知り得た知識を基に食に関する生活場面での必要に応じて、技術を調べて自ら試することができるようになる等、学生自ら食生活の質の向上を図れるようになることを意図する。 (オムニバス方式／全15回) (238 岡島俊哉／11回) 食品、調理、食品衛生について講義する (266 市場正良／4回) 公衆衛生について講義する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生命科学の基礎 A		男女の「性差」についての知見は、遺伝子やDNAの発見によって大きく進展し、性ホルモンや脳の機能にまで研究が及ぶようになったが、日本社会の全般的な認識としては旧来の常識がまだ根強く残っており、影響を及ぼしている。そこで、多分野にわたる講師によるオムニバス形式で、概説や専門的で多様な視点からの分析を通して「性」とは何か、また「性差」について統合的に幅広く学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (90 鈴木智恵子／12回) 脳機能と性差、総括 (45 池田智哉／1回) 男女間の社会的・法的問題 (289 大坪美由紀／1回) 性とは 発達と性差 (144 吉岡剛彦／1回) 生殖とジェンダー	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生命科学の基礎 B		人類が幸福な生活を送るために医学・医療は不可欠なものである。医学・医療の発達には動物実験が不可欠であることは多くのヒトが認めることではあるが、不適切な動物実験に対する反対運動があることも事実である。適切な動物実験を理解し、社会に認知された動物実験を行うことが求められている。本講義では、動物実験に使用される実験動物の種類、適切な維持・管理の方法と動物福祉に基づいた適切な動物実験について講義する。 (オムニバス方式／全15回) (169 北嶋修司／10回) 実験動物概論、規則・法律、実験動物の種類、実験動物の遺伝学的統御、環境統御、飼育管理と取扱い、動物福祉 (299 松久葉一／5回) 実験動物の微生物学的統御、人獣共通感染症、発生工学	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生命科学の基礎 C		医学・看護学研究の最新の話題を、主に基礎医学系、看護系の研究室から紹介する。後半は臨床医学の導入や臨床研究に関して紹介する。模擬研究も行う予定。臨床的な視点に興味は向きがちだが、医学・看護学の基礎研究も重要であることを知ってほしい。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学	生命科学の基礎 F		生命現象の分子的基盤について、いろいろな生体分子の構造・機能・生合成という点から解説する。 酵素学およびタンパク質や糖鎖などの生体高分子の構造と機能が内容の多くを占めるので、このような分野に全く興味がない場合にはかなりの苦痛をとまなう可能性がある。医学に関連した生物化学の知識を深めたい人で、かつ興味を維持出来る人の受講を希望する。また、この講義をきっかけにして、各自興味のある生体分子やそれが関与する生命現象についての理解を深め、各自の専門教育に活かしてもらいたい。	オムニバス
						(オムニバス方式／全15回) (46 池田義孝／5回) 酵素反応のしくみ、活性酸素と酸化ストレスについての講義、総括(156 井原秀之／5回) 糖鎖の機能と生合成、血液型と糖鎖、糖鎖と疾患、糖鎖工学、翻訳後修飾についての講義 (291 岡田貴裕／5回) 免疫系の概要、自然免疫、獲得免疫、ワクチンとアジュバントについての講義	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学と技術の分野 特別講義	九州・沖縄学Ⅱ		本授業は、九州地区の国立大学が連携して実施する「九州学－九州の自然編」の授業である。各大学が提供するトピック科目の中から7つのトピックを受講生が選択し、九州各県・各地域の特色を活かし、それらの魅力について多角的に学修する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学と技術の分野 特別講義	やさしい電子回路		現代の高度情報化社会を支える基盤技術は、スマートフォンを含めたコンピュータなしでは語れない。現在、そこに蓄積される膨大な情報には、想像以上の価値が見出されているものの、それを可能としているのは、トランジスタなどで構成される電子回路である。普段、我々の目には触れないため、概して関心は低いかもしれないが、現状では、このような技術なしで世の中は動いていかないのも事実である。そこで、本講義では、このようなトランジスタを用いた電子回路の働きについて理解する。 まず電気回路の復習から始め、能動素子（ダイオードやトランジスタ）、増幅回路、オペアンプを用いた電子回路という順番で、少しずつ段階的に説明していく。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅰ		本講義はドイツ語の初級文法を学ぶことを目的とする授業です。文法事項は本学オンライン試験システム（＝eラーニング）を使って学んだ項目の課題を毎週提出する形で学習を勧めます。教室での対面授業では発音と聞き取りに重点をおいて学んでいきます。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を連動させた形で進めます。 ドイツ語の習得を通してドイツ語圏の言語と文化への関心を高めるために、毎回教科書に沿って文法項目をひとつずつ学びつつ、eラーニングを使った練習問題でドイツ語の理解の定着を目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅱ		本講義はドイツ語の初級文法を学ぶことを目的とする授業です。文法事項は本学オンライン試験システム（＝eラーニング）を使って学んだ項目の課題を毎週提出する形で学習を勧めます。教室での対面授業では発音と聞き取りに重点をおいて学んでいきます。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を連動させた形で進めます。 ドイツ語の習得を通してドイツ語圏の言語と文化への関心を高めるために、毎回教科書に沿って文法項目をひとつずつ学びつつ、表現演習でドイツ語の理解の定着を目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	フランスの言語と文化Ⅰ		テキスト『なびふらんせ1ーパリをめぐるー』は豊富なパリ情報や文化紹介の写真をしながら、パリにいるイメージで学習が進みます。自然なフランス語を通してフランスでの生活や文化に触れ、「聞く・話す」「読む・書く」ために必要な基礎を固めます。まずフランス語の音に触れ、状況を目で見て想像力を働かせて理解するよう努めます。その流れの中でフランス語の使い方を発見しましょう。文法を理解し語彙を増やしたら、フランス語をコミュニケーション・ツールとして使ってみます。状況に応じてフランス語を使えるよう、知り得た情報から考えながらフランス語で表現できるように実践しましょう。フランス語を学ぶことにより、フランス語を使う人々の文化や習慣を知り、価値観の多様性を認識し、国際社会に対する複眼的視野を育成します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	フランスの言語と文化Ⅱ		テキスト『なびふらんせ1ーパリをめぐるー』は豊富なパリ情報や文化紹介の写真をしながら、パリにいるイメージで学習が進みます。自然なフランス語を通してフランスでの生活や文化に触れ、「聞く・話す」「読む・書く」ために必要な基礎を固めます。まずフランス語の音に触れ、状況を目で見て想像力を働かせて理解するよう努めます。その流れの中でフランス語の使い方を発見しましょう。文法を理解し語彙を増やしたら、フランス語をコミュニケーション・ツールとして使ってみます。状況に応じてフランス語を使えるよう、知り得た情報から考えながらフランス語で表現できるように実践しましょう。フランス語を学ぶことにより、フランス語を使う人々の文化や習慣を知り、価値観の多様性を認識し、国際社会に対する複眼的視野を育成します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	中国の言語と文化Ⅰ		この授業では初級レベルの現代中国語を学びます。発音や文法などの基礎学習のほか、言語の背景にある中国の文化や思考、或いは対照言語学的な視点による日本語との比較など、文化学習も盛り込みながら、中国の言語と文化について学んでゆきます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	中国の言語と文化Ⅱ		この授業では初級レベルの現代中国語を学びます。発音や文法などの基礎学習のほか、言語の背景にある中国の文化や思考、或いは対照言語学的な視点による日本語との比較など、文化学習も盛り込みながら、中国の言語と文化について学んでゆきます。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	韓国の言語と文化Ⅰ		日本語と系統を同じくする韓国・朝鮮語は日本語を母語とする学習者にとって学びやすい言語ですが、発音及び音の構造が日本語とは異なります。言語構造及び音素文字でハングルを学びながら音の構造を学びます。 韓国語の発音の構造を理解し、表音文字であるハングルを正しく読めるようになる、韓国語の構造を理解し、基本的な文法を習得することを目指します。また、韓国語を学ぶことで韓国についての理解を深めます。	
				韓国の言語と文化Ⅱ		韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰを受講した学生もしくはハングルが読める学生が対象です。韓国語の用語の活用を学び、作文及び翻訳ができるようになることを目指します。また、会話練習を行います。 韓国語で作文・翻訳ができるようになり、会話を楽しむことができます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Western Culture		This course explores key aspects of Western culture, focusing on cultural values, traditions, social structures, language, and the arts. It encourages comparative analysis between Western and Japanese cultures, helping students develop a deeper understanding of cultural similarities and differences. Through discussions, research, and the study of English idioms and sayings, students will enhance their cultural awareness and language skills. English Proficiency Requirement: This course is designed for students with a TOEIC score of 500 or higher or at least an intermediate (B1) level of English proficiency. Students should be able to comprehend lectures, participate in discussions, and express their ideas in both written and spoken English. This class will be conducted entirely in English. このコースでは、文化的価値観、伝統、社会構造、言語、芸術に焦点を当て、西洋文化の主要な側面を探索します。西洋文化と日本文化の比較分析を促し、文化の類似点と相違点についての理解を深めます。ディスカッション、リサーチ、英語の慣用句やことわざの学習を通して、文化認識と言語能力を高めます。 英語力の要件 このコースはTOEIC500点以上、または中級（B1）以上の英語力を持つ学生を対象としています。講義を理解し、ディスカッションに参加し、書き言葉と話し言葉の両方で自分の考えを表現できることが望ましい。このクラスはすべて英語で行われます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Intensive EnglishⅠ		This course will guide students to sharpen their skills in reading, listening, speaking, and writing so that they may attend the academic and social events offered in English at the University more confidently. They will be instructed on how to initiate and continue self-learning outside of class hours to expedite the learning process. Since the classes will mainly be conducted as seminars where collaborative learning is encouraged and task-based learning (TBL) is a major approach, students will be given individual, pair, and group work. Those who happen to miss out on any class may be given one or more additional assignments as homework このコースでは、学生がリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングのスキルを磨き、大学で提供される英語の学術的および社会的イベントに自信を持って参加できるようにすることを目的としています。授業外の時間に自己学習を開始し、継続する方法についても指導され、学習プロセスを迅速化します。授業は主にセミナー形式で行われ、協働学習が奨励され、タスク・ベースド・ラーニング（TBL）が主要なアプローチとなります。学生は個人、ペア、グループでの課題が与えられます。授業を欠席した場合、追加の宿題が一つ以上与えられることがあります。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Intensive EnglishⅡ		This course will guide students to enhance their knowledge of and skills in all areas of English so that they may continue self-learning taking classes offered in English more confidently. How to develop skills in critical thinking and converting such thinking to argumentative writing also will be a focus in this class. Since the classes will mainly be conducted as seminars where collaborative learning is encouraged and task-based learning (TBL) is a major approach, students will be given individual, pair, and group work. このコースでは、英語のあらゆる分野の知識とスキルを高め、英語で行われる授業をより自信をもって受けられるよう、自己学習を継続できるよう指導します。また、クリティカル・シンキング（批判的思考）をいかに身につけ、それを論述につなげるかという点にも重点を置く。 授業は主にゼミ形式で行われ、共同学習が奨励され、タスク・ベースド・ラーニング（TBL）が主要なアプローチとなるため、学生には個人ワーク、ペアワーク、グループワークが与えられる。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Academic English		In academic settings, it is extremely important to convey information in a logical, orderly, and easy-to-understand manner, and to deepen understanding of through questions and answers. In this course, students will develop presentation skills along with the English expressions needed to do so, and then have the opportunity to put what they have learned into practice. The course will include presentations and practice of English expressions that can be used for introductions, sign-posting, chunking and intonation, emphasizing important content, summarizing a presentation, and responding to questions and answers, and will finally put these into practice in a presentation on education-related content. アカデミックな場では、情報を論理的・整然とわかりやすく伝え、質疑応答を通して理解を深めることが非常に重要です。本講座では、プレゼンテーション能力とそれに必要な英語表現を身につけ、実践の場で活用できるようにします。 イントロダクション、サインポスト、チャンクとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンテーションの要約、質疑応答などに使える英語表現の発表と練習を行い、最終的には教育関連の内容のプレゼンテーションで実践します。	隔年

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	Business English		This course will focus on improving English listening and reading skills through study efforts for TOEIC® and other English language exams. Due to the compressed format of the class, some units will not be covered in full. This course aims to provide students with strategies to improve their vocabulary, listening, and reading skills in each of the areas covered by the TOEIC. TOEIC®をはじめとする英語検定試験の学習を通して、英語のリスニング力とリーディング力の向上を目指します。圧縮された授業形式のため、一部の単元は完全にカバーされません。 このコースでは、TOEICでカバーされる各分野の語彙力、リスニング力、リーディング力を向上させるためのストラテジーの習得を目指します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	アカデミック独語		本講義は中級レベルのドイツ語力の定着を目的とする授業です。ドイツ語検定3級、2級の過去問や同レベルの類似の問題を用い、文法の総復習を行うことでこれまで学んできた文法事項を確認し、自由に使える能力を養います。 独検受験を取り掛かりとして中級以上（独検2級合格に要求される以下のレベル）のドイツ語力を定着させることを目指します。 ①ドイツ語の文法と語彙についての知識を前提に日常生活に必要な会話や社会生活で出会う文章を理解できる。②長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツ文化論A		ドイツ人は何を食べ、どう暮らし、何を考えてきたのか タキトゥスの記述に見られる古代ゲルマンから、宮廷叙事詩を生んだ騎士文化の花開いた中世、三十年戦争の影を色濃く残すバロック、近代の科学技術の扉を開いた啓蒙期、豊かな芸術と思想を生み出したロマン主義の19世紀前半までのドイツ語圏の様々な文化事象を解説する。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの歴史と文化事象を概観するには、ヨーロッパそのものを視野に入れなければならないし、近世以降は、世界を視野に入れて、ドイツとは何かを問う必要がある。ヨーロッパ文化史、世界文化史の文脈でドイツ文化を見ると新たななにが見えてくるかを提示する。従って第一に、ヨーロッパの歴史の流れを理解する。そして第二に、その流れの中にドイツ語圏の文化を位置づける。この二つの作業を通じて、受講者はドイツとは何かという問を考察してゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツ文化論B		ドイツ人は何を食べ、どう暮らし、何を考えてきたのか 文化爛熟の19世紀末、ナショナリズムと20世紀の二度の世界大戦、そして東西への分断と統一を経験した今日までのドイツとドイツ語圏の歴史を概観し、そこに生まれた芸術作品を中心に紹介する。芸術作品の鑑賞を通じてドイツ語圏の豊かな文化を照らし出す。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの歴史と文化事象を概観するには、ヨーロッパそのものを視野に入れなければならないし、近世以降は、世界を視野に入れて、ドイツとは何かを問う必要がある。ヨーロッパ文化史、世界文化史の文脈でドイツ文化を見ると新たななにが見えてくるかを提示する。従って第一に、ヨーロッパの歴史の流れを理解する。そして第二に、その流れの中にドイツ語圏の文化を位置づける。この二つの作業を通じて、受講者はドイツとは何かという問を考察してゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツ文化論C		ヨーロッパのなかのドイツ語圏-生活文化の比較と考察— ヨーロッパ古代から現代までの衣食住についてドイツ語圏とその他の地域の特徴を比較しながら、ドイツ語圏特有のありさまを把握する。服装の意味や、食卓の変化、建築様式の変遷などを、文学や絵画や音楽などの文化事象を手がかりに考察する。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの文化史という観点から、ヨーロッパそのものを視野に入れ、ドイツ語圏とは何かを問う。ヨーロッパ文化史、世界文化史の文脈のなかにドイツ語圏の文化を位置付けることによって見えてくる影響関係と特異性を取り上げる。主に生活文化という視点から考察を進めてゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツ文化論D		ヨーロッパのなかのドイツ語圏-言語文化の比較と考察— ヨーロッパ古代から現代までの言語文化についてドイツ語圏とその他の地域の特徴を比較しながら、ドイツ語圏特有のありさまを把握する。文字の歴史や、音声の変化、文学の誕生と存在意義などを考察する。絵画や音楽などの芸術や生活文化にかかわるメタテキストとしての批評をも手がかりとして考察する。 地理的に見てヨーロッパの中央に位置するドイツの文化史という観点から、ヨーロッパそのものを視野に入れ、ドイツ語圏とは何かを問う。ヨーロッパ文化史、世界文化史の文脈のなかにドイツ語圏の文化を位置付けることによって見えてくる影響関係と特異性を取り上げる。主に言語文化という視点から考察を進めてゆく。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	日本古典文学A		日本の平安時代の古典文学、具体的には『竹取物語』『伊勢物語』を読む。日本の平安時代の古典文学を読み、物語文学の読み方や考え方、また古典文学の常識を学ぶことにより、平安文学という異文化を理解することを目的とする。また、基礎的な語彙力を養成することも目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	日本古典文学B		日本の平安時代の古典文学、具体的には『源氏物語』若菜上・若菜下を読む。古典文学の最高傑作『源氏物語』の中でも、特にドラマチックとされる若菜上・若菜下を読み、そこから物語文学の読み方や考え方、また古典文学の常識を学ぶ。平安文学という異文化を理解することを目的とする。また、日本の文学史の知識を習得する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	欧米の文化・文学		イギリスの中世文学作品の解説を通して、それらがイギリス国民意識の成長にいかに関与したかを探っていきます。 第1回で、授業の構成等について説明した後、第2回から第6回までは、「アーサー王物語」の歴史的背景と物語の継承について概説します。 続いて、第7回から第11回までは、「ロビン=フッド物語」の歴史的背景と物語の継承について解説します。第12回から第15回までは、中世に生まれたこれらの伝承文学が、どのようにしてイギリスの国民文学に発展し、国民のアイデンティティ形成に影響を及ぼしたかを考察していきます。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	ドイツ文学A		本講義は、読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から2作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいます。作品の引用箇所は履修者の皆さんで順番に音読してもらいます。 今回取り上げるのは次の2作品です。 ・ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ『若きウェルテルの悩み』 ・ベルンハルト・シュリンク『朗読者』 異文化への興味を高め、読書を身近なものとして感じる体験をしてもらいたいです。	
				ドイツ文学B		本講義は、読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から2作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいます。作品の引用箇所は履修者の皆さんで順番に音読してもらいます。 今回取り上げるのは次の2作品です。 ・ヨハンナ・シュビリ『ハイジ』 ・ミヒャエル・エンデ『モモ』 異文化への興味を高め、読書を身近なものとして感じる体験をしてもらいたいです。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	芸術論		さまざまな美術作品や資料を見ながら、支配・被支配、差別・被差別の問題について考えます。同性愛者、黒人、娼婦、ユダヤ人、乞食、疫病者たちは社会の中でどのような位置に置かれてきたのかを、彼ら・彼女らのイメージを通してさぐります。宗教や性に対する人々の考えや、「他者化」するということを学ぶとともに、社会の中で周縁におかれた人々の図像を通して、ヨーロッパ社会の権力や中心を相対化することを試みます。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	音楽史・音楽論		生きている時代の文化や社会構造、政治的背景に翻弄される人間の感性の痕跡を、その時々音楽から読み解いていく。それぞれの時代に聴かれた音楽を多面的に理解することで、近現代史における多様な社会の側面を理解する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	日本語学		上古から近現代まで日本語がどのように変化してきたかについて、音韻・文字・表記・語彙・文法などの側面から見ていきます。当時の言語資料を知るために、簡単な文学史の復習と作品講読を取り入れ、当時の文章に触れながら言葉の変化を理解することを目指します。 奈良時代、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代前期・後期、明治以降ごとに、それぞれの時代背景と言葉の変化が大きく関わっていることを認識し、いくつかの古典作品の講読を通して、各時代の日本語の様相を理解します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	コミュニケーション論		本科目は、総合的なコミュニケーション能力の向上につながる基本的な知識や技能を修得するための講義を行います。基礎理論、言語、非言語コミュニケーション、対人的コミュニケーションから異文化コミュニケーションまでを包括的に取り扱います。 現代社会において最も重要なスキルであるコミュニケーションについて学問的な知識を身につけるために、さまざまな観点からコミュニケーションの概念について理解します。 ※全ての授業を共同で実施 (287 米満潔・294 古賀 崇朗／1～15回) (共同)	共同
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	Critical Thinking for the Modern Age		This course introduces students to key aspects of critical thinking essential for navigating today's world, including logical reasoning, media literacy, ethical decision-making, and problem-solving. Students will analyze real-world case studies from both Japanese society and the wider world. Through interactive discussions, presentations, and written assignments, they will refine their ability to think critically and apply these skills to contemporary issues. The primary aim of this course is to cultivate a mindset of critical inquiry and rational thinking. By engaging with real-world examples and practical exercises, students will enhance their ability to question information, evaluate evidence, and articulate well-founded arguments. Ultimately, the course seeks to equip students with the skills necessary to make informed decisions, contribute meaningfully to discussions, and adapt to an ever-evolving global landscape. このコースでは、論理的推論、メディア・リテラシー、倫理的意思決定、問題解決など、現代社会を生き抜くために不可欠なクリティカル・シンキングの重要な側面を紹介します。受講生は、日本社会および世界における実際のケーススタディを分析します。双方向のディスカッション、プレゼンテーション、レポート課題を通して、批判的に考える力を磨き、これらのスキルを現代の問題に応用していきます。このコースの第一の目的は、批判的探究心と合理的思考を養うことである。実際の事例や実践的な演習に取り組むことで、情報を疑い、証拠を評価し、根拠のある議論を明確にする能力を高めます。最終的には、十分な情報に基づいた意思決定を行い、議論に有意義に貢献し、進化し続けるグローバルな状況に適応するために必要なスキルを身につけることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	Cultural Metaphors		This course will consist of lectures, discussions, note-taking activities, critical thinking activities and writing activities about the values of various cultures around the world. During the course, students will be expected to take notes and actively participate in discussions. Regular attendance and participation are very important. This class will let the students develop a framework for understanding and interpreting the cultural of other societies and help them grow as members of a global society. このコースは、世界中のさまざまな文化の価値観についての講義、ディスカッション、ノートテイキング活動、批判的思考活動、ライティング活動で構成されます。コース期間中、受講生はノートを取り、ディスカッションに積極的に参加することが求められます。定期的な出席と参加は非常に重要です。この授業を通して、他国の文化を理解・解釈するための枠組みを身につけ、グローバル社会の一員として成長することを目指します。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	哲学・倫理学		哲学は、前提条件をつけずに、あらゆる事柄をとことん最後まで考え抜くところに、その特徴があります。哲学が、様々な学問が前提にしている知識や概念（自然、生命、歴史、経済、法、道徳）を自明視せずに、それらの根拠を更に問おうとするのは、哲学的思惟の本質に属しているといえます。 ところで、予備知識がなくても素手でものを考えることができる点に哲学の一つの醍醐味がありますが、とはいえ、哲学を理解するうえで、論理的にものを考えるトレーニングを積むことや、哲学の古典を読解する能力を身につけることや、哲学史の流れを把握することも重要です。 本講義では、いくつかのテーマに沿って、現代日本の哲学者の主張を紹介しながら、そのテーマに関する哲学思想のエッセンスについて概説します。授業の後半では倫理思想に関する話題も取り上げます。	隔年
		文化の分野	歴史と文化	考古学		考古学の方法等の概要について講義形式で学習する。 考古学的な成果が歴史学に占める比重は、次第に高まっている。その歴史的な意義を的確に判断するためには、考古学の方法等についての知識が不可欠である。本講義では考古学の方法、理論等の現状について、日本各地はもとより他国の例もみながら概観することにした。具体的には、考古学の対象範囲と講義の概要、考古学の成り立ちと展開、考古学の資料、考古学の方法、考古学と古環境、考古学からの食生活の復元、などの講義を行う。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	日本史		本講義では、日本史上の政治的変遷を中心にその基礎的内容の解説を行うが、特に各時代の政治・経済・文化等の様々な社会システムの中核施設だった「城」と「城下町」の発達史を通じて、最新の調査・分析成果を交えながら日本社会の変化の実像を学習してもらう。 日本史を考え、より深く理解するためには様々な媒体（古文書、古記録、絵画史料、遺跡、遺物…等々）からのアプローチが欠かせない。一つのテーマを追究するために、多面的な事象や情報を駆使しながら考える習慣を身に付けていく。そして、社会人として必要な文化的素養の習得と充実に繋げる。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	東洋史		中国の歴史を、古代から現代まで概説する。各時代において重要な役割を担った人物にも光を当て、また、その歴史に様々な形で影響を与えてきた儒教・仏教・道教についても解説する。中国と日本との関係についても適宜紹介する。日本をはじめ東アジアに多大な影響を与えてきた中国の歴史を学ぶことで、隣国中国について学び、佐賀大学学士力に示された「3-（1）多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力」を身につける。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	西洋史		近現代ヨーロッパ（フランス）の歴史をさまざまなトピックに分けて学んでいく。現代社会には教育、家族、宗教、移民、言語、政治などの分野において、さまざまな社会問題が存在する。しかし、これらの問題は現代に突然発生したものではなく、その起源と本質を知るためには19世紀にまで遡らなければならない。これらの社会問題の起源・本質を知るために19世紀のヨーロッパの歴史を考察する。また、同時代の日本の歴史を比較検討することで、近現代の歴史についてグローバルに学んでいく。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	人類学		人類学は大きく分けて2つある。一つは、ヒトの文化的特徴や社会的営みを研究対象にする文化人類学、もう一つは、霊長類全般（ヒト包括したサル仲間）を含め、身体的特徴や遺伝的情報など生物学的特徴を研究対象にする自然人類学である。この講義では、自然人類学を学んでいく。特に、どのような動物・霊長類からヒトが進化して現在に至るのか、さらには日本列島のヒト・地域集団は、どのような集団から分かれて現在のものとなったのか、形態学的特徴と遺伝的情報の2つの側面から探っていく。 （オムニバス方式／全15回） （243 菊池泰弘／7回） 人類学の歴史、現生霊長類、現生類人猿についての講義 （293 川久保善智／7回） 原人、旧人、新人、縄文人、弥生人、復顔についての講義 （290 大野憲五/1回） 発掘の方法や研究についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	スポーツウェルネスの世界		ゴルフ、ボウリングというポピュラーなスポーツを題材とし、主にスライドを用いてこれらの競技が成立するに至った時代背景、ルール変遷の歴史的経緯、著しい技術革新がもたらした道具の進化など、主に歴史的・文化的側面からスポットを当てつつ解説する。 WHOによって提示された“ウェルネス（wellness）”とは、いわゆる「健康」の枠組みを超えた多元的な健康観であり、各人が自身の価値観や人生観に基づき、目的としてではなく、より良く生きるための手段として健康をとらえることを指す。当該講義は、学生が歴史的・文化的視点から競技としてのゴルフとボウリングの成熟過程を学ぶことで、社会を形成する市民として必要なスポーツ文化に対する理解を深めることを目的とし、さらにウェルネスの概念との接続によって、生涯スポーツの実践につながる布石と成すことを期待したい。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	近代サッカーの成立と進歩		この授業科目は、単にサッカーをする授業ではない。近代サッカーの理論を講義から理解すると共に、その理論を基とした技術・戦術の理解と体得を目指す科目である。 近年、大きく発展したサッカーの理論を元にした技術・戦術を体得してもらうために、毎回の授業では近代サッカーの理論について理解すると共に、演習として学んだ技術・戦術をゲーム等の中で表現してもらう。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	サッカーの歴史と技法		サッカーを取り巻くあらゆる諸相を取り上げ、様々な観点からサッカー競技の課題研究・分析する科目である。主にグループワークが中心となるが、それぞれが関心のあるテーマでプレゼンテーションを行いながら、サッカー競技全般を取り巻く諸相について見識を深め理解する。 スポーツとしてのサッカーの技術的な問題に加え、その背景にある成り立ち、歴史、文化、規則等と関連させながら深く学ぶことで、サッカーに関する知識を文化的側面まで理解、発展させる素養を築いてもらうことを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	柔道の歴史と技法		本講義は、柔道未経験者を対象にして柔道の歴史背景や文化、理論、哲学等と関連させながら初歩的な技術を学ぶ科目です。技術の理解・習得には多くの時間を要しますので、多くの時間を稽古の時間に充てます。基本的には試合はしませんので、争うことが苦手な人でも問題ない内容になっています。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	哲学の世界		本授業では、哲学的な「心身問題」を取り上げます。前半は、近代哲学の父と言われるR.デカルトが考えた心身二元論（デカルトの神話）の理解です。後半は、古代ギリシヤや西洋中世の魂論を取り上げます。 哲学は常識批判ともいわれます。あたり前のことがあたり前ではないことに気づくとき、私たちの日常が再度活性化されます。それを体験していただくことが第一目的です。哲学者たちが私たちを取り巻く世界をどう説明しようとしたのかを一緒に見ていきましょう。映像資料も交え、分かり易い授業を心がけます。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	地域史		この授業のサブタイトルは「チャレンジ佐賀学」である。 「佐賀学」とは、地域学の一つとして、佐賀の文化や歴史、文化的伝統や風土、自然や環境などを総合的に捉えることにより、新しい研究分野と教育の創造を目指そうとするものである。佐賀は古来より、大陸文化流入の通路、いわば知のシルクロードであり、とりわけ江戸時代末期から明治維新にかけて、政治、教育、科学等の各分野の我が国社会改革の原動力の一つとなった。 本講義では佐賀学の入門・基礎編として、①それらの革新性と保守性（限界）などについて、②維新に貢献した人物に焦点をあて、③ネット授業の利点をいかして、視覚的に時間と空間を超えて探求する。 佐賀学にチャレンジし、チャレンジ精神にあふれて新たならしい世代と社会を切り開いた佐賀人たちと気持ちを一つにして、自分たちのチャレンジ精神を育ててもらいたい。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	宗教学		「生きる助けともなれば、苦悩の元凶ともなる宗教。人類の誕生以来存在し続けてきた宗教。人間はなぜ宗教という営みをするのか？ 何が宗教を形作ってきたのか？ 現代社会の宗教はどのような状況にあるのか？」（教科書の帯文句より） 最新の研究成果に基づく教科書を用いて、生と死や悪といった宗教哲学的な問題からスピリチュアリティや聖地巡礼ツーリズムなどの現代社会の宗教現象まで、現代において宗教を理解するために必要な知識を概説します。世界や日本の伝統宗教の基礎知識を確認する機会も設けます。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	水中文化遺産学		わが国の海・河川・湖沼には、古代以来の物流や人的交流の歴史を証明する多様な水没文化財（水中歴史遺産・水中遺跡）が数多く存在するが、その内容については陸上の歴史文化遺産に比べて一般的な認知度が低い。 本講義では、その性格と概要を解説し、これまでの調査・保存・研究の状況を紹介しつつ、陸上を舞台とする歴史文化の世界に対して、水域から見た「海洋国・日本」の歴史の特徴を教示する。 東シナ海と玄海灘に接する九州・沖縄地方は、古来、日本と東アジア諸国との交流史上の窓口であり続けた。そのため国際的注目を浴びる水中遺跡の分布地帯となっており、我が国の海中考古学調査の先進地域でもある。そのような恵まれた歴史文化的環境下に集う本学の学生に、水中の文化遺産学・海事史学の基本と概要を学んでもらいたい。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	運動科学の世界		運動は健康に直結する重要な役割を担う。本講義では運動の根底となるバランス能力に焦点を当てて、姿勢制御システムの時代背景や歴史的経緯、エビデンスに基づく情報など歴史的側面について解説する。 また、運動に伴う身体機能を多角的視点から学ぶ機会を提供する。 健康を維持するためには運動が非常に効果的な手段となり得る。運動によって生じる身体的変化をエビデンスに基づいて把握するために行う。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文化の分野 特別講義	九州・沖縄学Ⅰ		九州・沖縄地区の国立大学が連携して実施する「九州・沖縄学」の歴史文化編である。受講生は各大学が提供するトピックの中から7つを選択し、九州・沖縄地区の歴史と文化の背景を知るとともに、各県、各地域の魅力と特色について学ぶ。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	経済学		高等学校では地歴教科を選択していた方が多いと思われますが、公民教科の政治・経済を選択した方はどれだけいるでしょうか。また、「経済学」という学問の存在さえ知らなかった方もいるかもしれません。新聞等で「経済」という言葉をよく耳にしますが、その意味を問われて答えることができますか？特に学問である「経済学」で用いられる専門用語はその漢字から意味を読み取ることができないことが少なくありません。そこで、「経済学」に必要な基礎的概念について、日常的に報道される経済統計データから探っていきたいと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	会計学		本講義は、税理士法人諸井会計の提供講義です。企業の経営状況を示す鏡であろう会計学の基礎と会計の社会における役割について学習します。 会計とは何か、会計によって何が分かるのか、会計の仕組みはどうなっているのか、会計は社会においてどのような役割をしているのかを学びます。また、会計情報が企業経営を知る上でどのように役立つかを理解します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	経営学		本講義では企業(組織)運営に焦点を当て、経営戦略およびマーケティング戦略に関する基本原理について事例を交えながら体系的に習得することを目指します。 昨今、我々を取り巻く環境は大きく変化していると言われています。よく耳にするIoT、FinTech、コーポレートガバナンスという言葉も、この変化を捉えた1つの例であるといえます。 この変化に対応する手段の1つとして「経営学」の手法や知見に注目が集まり、様々な書籍や雑誌を目にすることが多くなっています。 しかしこのような「経営学」に関する情報は増えている一方で、その情報量に圧倒されて学習を諦めた方や、何を読めばよいかと途方に暮れている方もいるのではないのでしょうか。 本講義では「経営学」の分析対象や基本知識を中心に引き上げ、「経営学」に対する理解や関心を少しでも深められるようにアシストしたいと考えています。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	法律学		地球温暖化、環境汚染、高齢化に伴う老後問題、少子化による労働力不足、雇用形態の変化、貧富の格差、民族・男女等による差別、新しい財産権の登場など現代社会には様々な問題が十分に解決されないまま存在する。いま社会で何が起こっているのか。原因は何か。どうすれば解決できるかについて、法の観点から広く概観する。 (オムニバス方式／全15回) (34 中山泰道／4回) 授業ガイダンス、民法についての講義 (15 内山真由美／2回) 刑法についての講義 (6 平部康子／2回) 社会保障法についての講義 (3 早川智津子／2回) 労働法についての講義 (241 樫澤秀木／1回) 環境法についての講義 (23 孫友容／2回) 知的財産法についての講義 (35 井上亜紀／1回) 憲法についての講義 (37 児玉弘／1回) 行政法についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	政治学		私たちは、現在気候危機や少子化、格差や貧困の拡大など深刻な課題に直面しています。戦後に築いてきた社会や経済が揺らぎ、政治のあり方が問われています。本授業では、戦後の日本政治を振り返り、そして、現在と未来の社会や政治を考えてみたいと思います。それと同時に、政治と金をめぐる政治の混乱など最新の政治に関する知識や情報を身に付けてほしいと思います。そのことで、主権者であるみなさんが政治に関心をもち、日本政治について考え、行動するヒントを得ることができればと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	日本国憲法		日本国憲法は私たち個人にとって、普段、あまり意識されない法律です。ところが、憲法の背後にあるさまざまな原理（国民主権や基本的人権の尊重、平和主義など）は、私たちが生きている現代社会に実にさまざまな問題を投げかけています。この講義では、できるかぎり具体的な憲法上の事件・争いを検討しながら、憲法の基本的知識としくみについて解説します。実際に憲法が国家の中で用いられている現状を見ながら、政治権力や死刑制度、あるいは福祉のあり方など社会の様々な問題に触れながら、私たちの価値観をできるだけ柔軟にすることが可能な多様な立場を日本国憲法から学びます。受講者には自分たちが現在生きている社会状況を常に意識しながら、国家や法が引き起こす様々な問題を自分たち自身の問題として捉えるよう求めます。色々な立場を考えながら自らの立場について論理的・客観的に考えるという「問題の悩み方」を学習してほしいと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	現代社会の法と政治		アメリカで1999年から約7年間放送され、人気を博したテレビドラマ・シリーズ『ザ・ホワイトハウス』（原題：The West Wing）を素材としながら、現代アメリカ政治のいくつかのトピック（論点・争点）について担当教員が講ずる。民主党／共和党の二大政党制、黒人（アフリカ系）などに対する人種差別や、妊娠中絶・同性愛・銃規制などをめぐる価値観の対立、死刑制度の動向、連邦最高裁判事指名の仕組み、核兵器・原子力政策などを取り上げて、日本の現状や制度と比較をまじえながら解説する予定である。題材とする上記ドラマについては、適宜に内容の説明や一部の上映を行なう。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	地理学		地理学における主要なテーマである景観と環境について考える。特に、人間が作った文化景観（Cultural Landscape）や二次的な生態系である里山や里地の環境について、グローバルに考え、ローカルな実践への糸口を見出すことを目的とする。地理的環境論、環境と文化的景観の諸相、環境と文化的景観の保全・活用について講義を行います。景観や環境と人間との関係について理解し、それらを保全する意味について理解できるようになることを目指します。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	Introduction to Sociology		In-depth class and group discussions about difficult issues in today's society.To enhance student's English speaking and vocabulary though thoughtful discussions about issues in society and how best to address them. 今日の社会における難しい問題について、クラスやグループで徹底的にディスカッションします。社会における問題や、それらに対処する最善の方法について思慮深く議論することで、学生の英語力と語彙力を高めます。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育と人生		「心（の）理」「物（の）理」「生（の）理」を基盤に、人の発達と人生について考える。自分自身が人生を肯定し、かつ、他者を時には教育あるいは指導し、（親、職業としては医師、看護師あるいは教師として）まずは思いやりを持って寄り添うことができる人になって欲しい。 本科目では、医療、福祉・介護、学校における教育活動などに応用されている心理的・社会的（精神的）活動の基礎理論（特に、「個の心」あるいは「社会との接点」に影響するさまざまな要素）を紹介し、考えてもらうことを目的としています。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学A		医療において活用されている心理学を中心とした講義を行う。医療者に求められる対象理解の一助として心理学に関する基本的な考え方の習得を目指す。 (オムニバス形式／全15回) (216 恵明子／8回) 心理学の歴史。代表的な心理学者。心理学に関連する代表的な理論、モデル、枠組み。社会における心理学。発達段階と心理学。認知と心理学。パーソナリティと心理学。災害における心理学に関する講義 (245 久野櫻希子／7回) 臨床心理学。心理検査。心理尺度。医療における心理学的アプローチやカウンセリングなどについての講義	オムニバス

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学B		心理学Bは、副題を「人間と社会の心理学」とする。 本講義では、認知と認識の心理学、対人関係の社会心理学、メンタルヘルスの心理学を講ずる。 錯視と錯覚、認知と認識、ゲシュタルト、好意の成り立ち、同調と服従、協調と責任の拡散、印象形成、メンタルヘルス、ストレス、うつ、過労死と突然死等について展望する。 講義及び視聴覚資料の視聴を中心に進める。 なお、遠隔授業においては著作権の関係上、視聴覚資料の提示は大幅に割愛する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	健康科学A		生涯にわたって、健康に関する自己管理能力は必要不可欠である。健康管理を適切に行うには様々な知識が必要となる。この講義では、心身の健康に関する様々な科学的な知識や体得すべき生活習慣について学び、健康の保持増進、健康的なライフスタイルの確立についての理解を深める。 この講義は医師としての実務経験を有している教員が、健康についての実践的な教育を行う科目である。 心身の健康や運動に関する知識の向上を目標とする。加えて、学生が自分自身の健康についても興味、関心を持ち、身近な健康に関しての事項（飲酒、喫煙、感染症、生活習慣病等）についての理解をさらに深めることをめざす。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	健康科学B		一般的な病気について学習する。 病気になったときのために、日本の医療事情を知ってもらう。健康に関わる情報を取得するスキルを身につけることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (274 福留健司／14回) イントロダクション、命を守る身のこなし方、生活習慣病にならないために、誰のためのメタボ検診？、さまよえる血圧、発がんリスク、なぜアレルギーは増えたのか、脳梗塞、心筋梗塞、エコノミー症候群、沈黙の臓器、サイレントキラー、認知症との付き合い方、なぜ、うつ病が増えているのか、心のストレス、体のストレス、細胞のストレス、日本の医療は、素晴らしい？ (138 山下佳雄／1回) 知らないと損をする口腔ケア	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	スポーツと健康		本授業は、これまで学生が体育の授業等で経験してきたスポーツ題材にルール機能と役割、さらにルールを使い熟するための思考方法や動作等の習得方法について実際の実技経験を通して理解してもらう科目です。そのため、多くの時間を運動の時間に充てます。毎回の授業の前半では準備体操などの具体的な運動や動作の指示もしますが、後半はチーム毎に分かれ教員が提示するテーマの範囲内で学生同士が考えた練習と試合を行う予定です。授業の最終回後には授業内容を「振り返りシート」に整理してもらいます。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	Citizenship Education		This course is focused on studying some of the most important issues facing the world today. Through studying a variety of issues that face the world, and Japan. By studying such topical content in English, students will evaluate their own role as individuals and as members of society. The course will support and enable learners to critically evaluate and understand the impact of their choices and how they can live and work in responsible ways to ensure that our home, planet earth, can thrive and remain habitable for future generations. このコースは、今日の世界が直面している最も重要な問題を学ぶことに重点を置いている。世界、そして日本が直面する様々な問題を学ぶことを通して、日本、そして世界が直面する様々な問題を理解する。このような時事的な内容を英語で学ぶことにより、学習者は個人として、また社会の一員としての自分自身の役割を評価することになります。このコースは、学習者が自分の選択が及ぼす影響を批判的に評価し、理解し、私たちの故郷である地球が繁栄し、未来の世代のために住み続けられるようにするために、どのように責任ある方法で生活し、働くことができるかをサポートし、理解できるようにします。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	Life in the Global World		The course examines what has constituted globalization in the past, what it is for us today, and what globalization means for our lives economically, politically, culturally, and ecologically. The intention is to develop knowledge and understanding of the issues that a globalized economy means for our lives in the 21st century. By the end of the course, students will: - gain a clearer understanding of globalization and its economic, political, cultural and ecological effects; - expand knowledge and understandings of what it means to live as a global citizen このコースでは、過去においてグローバリゼーションとは何であったのか、現在の私たちにとってグローバリゼーションとは何であるのか、そしてグローバリゼーションが経済的、政治的、文化的、環境的に私たちの生活にとって何を意味するのかを考察します。その目的は、グローバル化した経済が21世紀の私たちの生活にとって何を意味するかについての知識と理解を深めることです。コース終了時には、受講生は以下のことを修得することを目指します。 - グローバリゼーションとその経済的、政治的、文化的、生態学的影響についてより明確に理解する。 - 地球市民として生きるとはということかについての知識と理解を深める。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	情報メディアと倫理		近年のインターネットの普及によって、現代社会は様々な場面でデジタル化された情報を活用するユビキタス情報社会へと向かおうとしている。このようなユビキタス情報社会の基盤を形成していくためには、情報技術に関する知識だけでなく、情報倫理、道徳規律、法律の知識といったものが必要となる。この授業では、情報社会に適合できる人間育成を目的とし、情報化社会における倫理観、その中での行動規範、知的所有権、プライバシーの尊重といった考えを身に付けて貰うことを目的とする。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心の病と癒しのプロセス		うつ病や統合失調症、アディクション、不登校、発達障害、人間関係の問題などの心の病や心の問題について、共感的な理解を促すため、できる限り具体的に解説していく。各回、資料を用いる。個人が特定されないようデフォルメされた典型的な事例などを具体例として採り上げながら、心の病や問題に関する基本的な知識や、痛みを抱えた心が回復していくプロセスについて解説する。 心の病や問題に対し、学生各自の理解や心的距離感は異なることとします。授業を通して、様々な心の病や問題に関心をもち、その痛みについて現実感をもってイメージができるようになり、加えて回復のプロセスについても基礎的な知識を獲得できるよう、開講します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心身の発達過程		メンタルヘルスに関連する心身の発達のプロセスについて、発達心理学および臨床心理学の視点から学ぶ。学士力番号1-(1)に相当。 生涯発達という昨今の視点から、心身の成長や変化のプロセスを各年齢区分で整理する。発達に関する正しい知識に基づいた理解の視座が獲得できる。乳幼児期から老年期の様々な発達理論や、心身の適応に関連するモデルを各年代ごとに理解することで、広く発達の概要が理解できる。職業人や家庭人としての今後を見据えた場合、これらは教育のみならず福祉や医療など支援を鑑みた際に有効である。基礎知識をもとに、社会人として必要な、子育て・障害・老い・喪失体験といった、各種の困難を受け止めるための臨床心理学・発達心理学における技を習得する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	情報メディアコミュニケーション		この授業は、（１）メディア（伝達媒体）とは何かについて理解し、メディアを媒介にした情報伝達をコミュニケーションとして理解する。それを踏まえ（２）インターネットを中心としたメディア、（３）VRやMRなどのサイバースペース（電脳空間）の社会、（４）AIやIoTを含むデジタルトランスフォーメーションについて個人やグループで論考する。 履修者が講義を聴くだけでなく、調べて・考えて・議論し・評価し・自己省察（振り返り）をするという学習活動を重視した（履修者が積極的に学習活動を行う必要がある）授業です。 履修者には、人に話をすること、人の話を聞いて・理解して・受け入れてたうえで、ディスカッションすることを求めます。 ※全ての授業を共同で実施 （287 米満潔・294 古賀崇朗／1～15回）（共同）	共同
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	Aspects of Modern Society		An examination of the changes that have happened over the past hundred years and how they have shaped our modern world and how we see ourselves and others. No text will be used in this lesson so class notes will be important. To show how the modern world has developed and to understand different ways of thinking among generations and cultures. Lessons includes: Introduction to modern society and historical background, Human rights, Gender roles and equality, LGBTQ+ rights and acceptance, Environmental awareness and nature conservation, Technological innovation, Mental health awareness, and more. 過去 100 年間に起こった変化と、それらが現代世界をどのように形作ったか、そして私たちが自分自身や他者をどのように見ているかを考察します。このレッスンではテキストは使用しないので、授業ノートが重要になります。 現代世界がどのように発展してきたかを示し、世代や文化による考え方の違いを理解します。 授業内容は以下の通り：現代社会の紹介と歴史的背景、人権、ジェンダーの役割と平等、LGBTQ+の権利と受容、環境意識と自然保護、技術革新、メンタルヘルスへの意識、ほか	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	プレゼンテーション・デザイン		プレゼンテーションとは、相手（聴衆）に情報を伝達し、相手の理解や行動を得るためのものである。我々は、実に様々な場面でプレゼンテーションを行っているが、本科目では主に教育や研究発表、そしてビジネスの場面を想定したプレゼンテーションについて学ぶ。これまでは相手と同じ空間で対面して行われることが多かったプレゼンテーションも、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、オンラインで行う機会が増えるなど、その環境も大きく変化し、それに対応した方法を理解しておく必要がある。本科目では、現代社会に求められる対面やオンラインでのプレゼンテーションにについて学ぶ。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	現代教育学		本科目は全学部の学生対象とし、現代教育の現状と課題、並びに「教育」への自己の適性を見極める機会となる科目である。その中で国内における教職や教員養成のしくみについての基礎的な知識を身に付け、「カリキュラム・マネジメント」の観点から現代教育を分析する。講義に加え、実際に、本学で実施されている「教師へのとびら」に参画し、現職教員や大学生（学部・大学院）と懇談し、さまざまな視点に立つて、教育機関と地域社会の連携を生かした現代教育の在り方について検討・提案を行う。 （オムニバス方式／全15回） （197 林裕子／5回） オリエンテーション、現代教育の仕組みについて、制度・校種別の教育の実態と課題、現代教育における英語学、評価論、教育の学際性、まとめ （184 竜田徹／3回） 学校教育の現状・課題①②、現代教育におけるメディア （197 林裕子・184 竜田徹／1回）（共同） 現代教育における道徳・倫理観 （87 下田芳幸／1回） 学校教育の現状と課題③ （55 嬉正勝／1回） 現代教育における生物学 （174 黒田圭介／1回） 現代教育における地理 （60 岡本託／1回） 現代教育における歴史 （184 竜田徹・81 米田重和／2回）（共同） 学級経営論①②	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学A		現代社会の制度として教育に焦点を当て、教育学における教育の研究課題を俯瞰すると共に、社会における教育の営みを多角的な視点から考え、教育をめぐる諸問題への関心を高める。人間形成と発達、現代社会と子ども、学校と教師、学校経営・管理、国家と人権、宗教と道徳、学校法制、社会変動と教育を主たるテーマとして、教育学者が教育をめぐる人の営みに対して、どのような視座から、何を課題として、いかなる研究を行ってきたのかを解説する。その上で、教育の機能について受講生と共に客観的に解題することをめざす。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学B		現代社会の制度として教育に焦点を当て、教育をめぐる人の営みがどのような教育の仕組みを作り上げ、いかなる問題を生み出してきたのかを、社会学的な視点から考える。学力、入試・就職のような選抜、いじめなど社会病理を主たるテーマとして、教育の仕組みを作り上げる人の営みに関する社会学的な研究の系譜を整理しながら解説する。その上で、教育の機能について受講生と共に客観的に解題することをめざす。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学C		授業では、現在の教育学において多用される”グループワーク”について、その技法と実践を通じて学びます。特に、グループワークなど能動的な学びを支援するために不可欠な”ファシリテーション”の技法と考え方を実践的に習得します。大学生活や就職活動、さらには社会人になってからも活用することができる「ファシリテーション」の考え方と知識・技能を習得後、学びの確認として、教育/人材育成を目的としたワークショップをデザインします。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	ウェルビーイング概論		講義や演習を通して、ウェルビーイングを「身体的・精神的・社会的に良好な状態」としてとらえ、その実現に必要な多角的視点を学ぶ。受講生は、自らのキャリア形成や責任ある大人としての振舞いや生き方を見つめ、前向きに人生と向き合う力を育成する。 (オムニバス方式／全15回) (179 佐藤梨都子／6回) オリエンテーション、ウェルビーイングについての概説 (216 恵明子／6回) 園児と過ごす(演習) (245 久野櫻希子／3回) ライフキャリアについての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学入門		本講義では、心理学領域の代表的な理論や考え方に関する基礎知識を身につけ、人間の行動を支える心の働きを科学的に理解する力を養うことを目的とします。感覚・知覚や発達、神経生理などヒトの身体機能に関する内容も扱い、心理学と医療分野との関連性に着目しながら学修を進めます。科学的根拠に基づく理解を深めるられるよう、解剖・生理など関連領域の知識も活用して臨んでください。 (オムニバス形式／全15回) (216 恵明子／12回) 授業内容の説明、心理学の視点、遺伝と要因、感覚と知覚などの講義 (245 久野櫻希子／3回) 情動と印象・好み、判断と意思決定についての講義	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学実験入門		本講義では、知覚や認知的葛藤、印象や好みについて、ヒトがどのように感じ、判しているかを実験を通して感じるとともに、レポート作成を作成することで、論理的な思考と文章の書き方を身につけられるよう講義・演習を行う。 実験の内容の説明、データ取得、解析、レポート作成を行ってもらいます。データ取得はグループワークでの実施となります。 (オムニバス形式／全15回) (216 恵明子／12回) 授業内容の説明、人の触覚と知覚、認知的葛藤、好みの判定についての講義と演習 (245 久野櫻希子／3回) 印象の判定についての講義と演習	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	体育実技Ⅰ		体育実技Ⅰでは、大人数で行うスポーツ(ソフトボール、バレーボール、サッカー、バスケットボールなど)の中の2種目を学期中の前半と後半で実施します。今年度は前半にソフトボール、後半にバレーボールを行う予定です。スポーツ基本法の第2条第2項では「スポーツは、とりわけ心身の成長の過程にある青少年のスポーツが、体力を向上させ、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成に大きな影響を及ぼすもの」とされています。本授業ではスポーツ基本法の理念を尊重し、特に「公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成」への理解と可能なら実践につなげていきたいと考えています。本授業では試合時間を多く確保しますし、授業外の学習時間を確保いただく必要があります。また、本授業は教職の必修科目としての側面も有することから、学んだことを実社会で活かしていただきたいと思います。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	体育実技Ⅱ		本授業は、少人数で行うスポーツ(前半バドミントン、後半卓球)を題材に、楽しさを作り出すために必要な個人とチームの動き方の習得方法や楽しさを作り出すための環境整備のための視点について実際の実技経験を通して理解してもらう科目です。そのため、多くの時間を運動の時間に充てます。毎回の授業の前半では準備体操などの具体的な運動や動作の指示もしますが、後半はチーム毎に分かれ教員が提示するテーマの範囲内で学生同士が考えた練習と試合を行う予定です。授業の最終回後には授業内容を「振り返りシート」に整理してもらいます。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在		主に新聞を媒体としたジャーナリズムの実践について理解を深めるとともに、その将来についても展望する。 講師は、佐賀新聞社員、報道の最前線にいる記者、紙面のレイアウトを担当する整理部記者をはじめとする編集部門だけでなく、広告、事業、販売のほか、ウェブ・携帯速報、テレビタ刊など新聞社のクロスメディア担当からキャップクラスと若手を中心に選び、それぞれ現場の雰囲気やスライド・紙面・実習等を用いて伝える予定である。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	アジアコミュニティ論		本講義では、ワンアジア財団の寄付により、学内外・海外から14人の素晴らしい講師陳をお招きし、アジアを中心に社会経済、安全、文化等の多様な面で、アジアの「共生・協働」を模索します。現代の世界は、グローバル化が進む中、「地域の平和と繁栄」を理念とした地域共同体の形成を求めています。そのモデルとなっているのがEUです。本講義では、EUの動向を含めて、アジア各国の現状等を検討しながら、地域コミュニティとしての東アジア共同体構想について、その可能性と課題を議論します。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	知的財産学		10年前ぐらいまでは、情報を受信することは簡単にできていたのですが不特定多数への発信はまだ特定の人々に限られておりました。しかし、現在私たちはインターネットを通じてさまざまな情報を一瞬にして世界中の不特定の人々に対し、個人の知的活動の成果を発信することができるようになりました。一方、個人の不注意が大変な事態をひきおこし、かつ後始末が個人の能力を超えてしまう時代になってきました。そこでこの講義では、知的財産のエキスパートであられる振透弁護士をお招きし、知的財産に関する法律をその発生原理から理解し、実務の現場で役立てることを目的としてつくりました。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	環境科学Ⅰ		我が国の環境保全の取組の概要を、“自然”・“社会”・“暮らし”の3つの視点から講義する。 (オムニバス方式／全15回) (238 岡島俊哉／12回) ガイダンス、検定試験の説明。持続可能な社会に向けて、地球を知る ①地球の基礎知識 ②いま地球で起きていること、(地球温暖化と脱炭素社会、エネルギー、生物多様性・自然共生社会、地球環境問題、持続可能な社会に向けたアプローチ)、各主体の役割・行動(各主体の役割・活動とパブリックセクター、企業の環境への取組み、個人の行動、NPO、各主体の連携) (266 市場正良／3回) 環境問題を知る(循環型社会、地域環境問題、化学物質、災害・放射性物質)	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	環境科学Ⅲ		持続可能な社会の形成に向けた一つのテーマである「3R」および「気候変動」に関する理論、手法および取組事例など、将来の社会人として知っておくべき知識等の範囲を紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (238 岡島俊哉／10回) ガイダンス、融合分野(持続可能な社会、公害と環境問題、生物多様性と自然共生)3R分野(ゴミ処理の歴史と概念、3Rとは、3Rの取組み、ごみ処理の現状、有害廃棄物など)、特別講義を担当する (266 市場正良／5回) 気候変動分野(気候変動対策の国際議論、地球温暖化のメカニズムと影響、温室効果ガス排出の実態など)を担当する	オムニバス
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	インストラクショナル・デザイン		教育機関などで行われている授業設計を目的としたインストラクショナル・デザインを講義する。インストラクショナル・デザインを学ぶ上での基礎を学んだ後、ニーズ分析、タスク分析、学習目標分析、ICTの活用、メディア分析などについて学ぶ。講義は全ての回をオンデマンド型のオンライン授業で行う。 インストラクショナル・デザインの基本概念を理解する、学生が自分で自分の学生生活の設計や生涯設計ができるようになることを目指す。 ※全ての授業を共同で実施 (287 米満潔・294 古賀崇朗／1～15回) (共同)	共同
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	現代日本の経済社会問題		本講義は現代日本の経済社会問題を解説し、経済学的背景も加味しながら、社会科学や社会問題に関する基本的リテラシーを養成しようとするものである。今年度はその中で、特に現代日本の経済政策について論じる。 経済政策学は経済諸学の中でも歴史のある分野であるが、最近の社会情勢の急激な変化を織り込んだ対応、発展及び変革が求められる状況にある。 特に2010年代以降の経済政策の展開は、従来の経済理論では解釈が困難な政策展開が行われることが多く、以後経済論壇も世論の経済政策議論も混乱したままである。 しかしながら、実際には多くの問題は既存の経済学の基礎部分と照らし合わせて十分に解釈可能であることが多い。本講義では、最近の日本の経済政策を紹介し、経済学の視点からどう解釈できるかを議論する。さらにそのことを通じて受講者の社会理解を促進、併せて経済学の初歩的な理解も促そうとするものである。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	九州地域の社会と経済Ⅰ		この授業は、九州地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めます。その過程を通じて、地域の課題を発見し、課題解決のために、何をすべきか、自ら考えることを目指しています。本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣の深い方々をゲストスピーカーとしてお招きし、卒業後に多くの人が定着する九州地域への理解を深め、皆さんのキャリア形成等にとってもためになるお話を聞きます。本講義は、卒業後、九州の自治体や地元の企業などに就職し、地域経済の活性化に関わりたいと思う学生に焦点をあて、就業内容や登壇者など選定し、卒業後、即戦力として活躍できることを目指しています。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	九州地域の社会と経済Ⅱ		この授業は、九州地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めます。その過程を通じて、地域の課題を発見し、課題解決のために、何をすべきか、自ら考えることを目指しています。本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣の深い方々をゲストスピーカーとしてお招きし、卒業後に多くの人が定着する九州地域への理解を深め、皆さんのキャリア形成等にとってもためになるお話を聞きます。本講義は、卒業後、九州の自治体や地元の企業などに就職し、地域経済の活性化に関わりたいと思う学生に焦点をあて、就業内容や登壇者など選定し、卒業後、即戦力として活躍できることを目指しています。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	グローバル化と証券投資		本特別講義は各現場で活躍する野村証券グループ・野村資本市場研究所の講師陣により実施される資本市場と証券業務の実際についての講義です。 株式市場、債券市場、外国為替市場についての基礎知識、金融商品と生活設計におけるその活用、これからの産業展望と企業評価の方法など、就職だけでなく、生きていくうえで必要な金融知識を学びます。実際に業務に携わる方の講義を聴き、国際化が進展し変貌しつつある資本市場と証券業務の実際について、実社会の「生きた経済」を学びます。 金融の仕組みについて学び、経済社会についての理解を深めながら、生活設計にも役立てる知識をえることを目指します。	

科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	経営工学からみたマネジメント		経営工学の対象範囲は大変広く、関連する技術は私達の身の回りの様々な場面で用いられています。しかし、他の工学(例えば機械工学など)と異なり、経営工学では直接「モノ(ハード)」を取り扱いません。その代わり、経営をInput/Outputシステムとして捉えた時、システムの構成要素それぞれがスムーズに、全体最適で作用するような「モノゴトの間にある仕組み(ソフト)」を方法論(メソドロジー)として取り扱います。仕組みはシステムの内部に隠れてしまいますので、私達の目には映りづらく縁の下の力持ち的な学問分野であり、ある意味でインタンジブルな工学とも言えます。この授業では経営工学のエッセンスを身近な例を取り上げながらわかりやすく解説していきます。講義が主ですが、理解を助けるために簡単な演習も交えながら進めていきます。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	金融リテラシーと生命保険		本講義は一般社団法人生命保険協会、佐賀財務事務所、日本銀行佐賀事務所により提供されるもので、金融庁が公表している「最低限身に付けるべき金融リテラシー(知識・判断)」4分野15項目をカバーする講義である。はじめに「金融経済の基礎知識」を学び現状を理解した上で、人生設計における「家計管理と資金計画(資産形成)等」と「リスク管理(生命保険)」について、複数の実務家(全て現役の実務家を予定)により具体的かつ多面的に講じられる予定である。とりわけ、公的保障(社会保障制度)の内容について学習し、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している諸課題の理解を深めた上で、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めて行く。また、講座の後半では、成年年齢引き下げの中、様々な金融トラブルが起こっているが、その現状と防止策についても学習する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の分野特別講義	現代のニューススポーツの発展		本授業は、佐賀ブルーナースのミッションである「スポーツの力で地域社会を元気にそして笑顔に」を、バスケットボールに限らず、あらゆるスポーツの力によって実現することを目指す授業科目です。3つのバリュー(「GLOCAL」「TRIPLE “E”」「ONE TEAM」)を価値判断の基準とし、「スポーツを軸に、地域の人々が、佐賀から世界を目指すことができる環境を育む」という姿勢を身につけることを目的とします。誰もが参加できるニューススポーツを媒介に、学生・地域住民・仲間同士が誠実に尊重し合い、一丸となって取り組む姿勢を、実技や協働作業を通じて体験的に学ぶことができるように授業を進めます。採用する競技スポーツのルールを「使い熟す」ための思考方法や運動技術を実践的に身につけ、地域から世界一を目指すための“スポーツ×思考”の方法を学べるように進めます。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		海外交流実習		クラスを選択し、次の①、②を学習する。 ①本学が交流協定を締結している大学等を訪問し、学生との交流、授業見学、自主課題調査、現地視察、海外で活躍する日本人との交流等を行います。 (実習プログラム) 韓国・慶国大学 オーストラリア・ラトロープ大学 インドネシア・マラン大学 ②佐賀大学副専攻プログラム欧米の言語文化専攻一独語コースの選択必修科目であるこの授業では「ドイツの言語と文化IとII」(基本教養科目)、「ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化I-IV」(インターフェース科目)を通してドイツ語の語学力を伸ばすと同時にドイツ語圏の教会や協会関連施設で歴史・文化について学ぶ機会を提供している。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		キャリアデザイン		授業を通して、キャリアデザインについての基本的な知識を習得し、学生一人ひとりのキャリアオーナーシップの獲得を目指す。授業では、多様なキャリアのゲスト(佐賀大学卒業生をはじめ多様な方々)を招聘し、異なる職種におけるキャリア形成と、実践的な能力を身に付けるための学修の計画や行動のモデルを示す。この授業を通じて、自分自身で納得のいくキャリアをデザインしていくことができる人材となることを期待する。キャリアや就職活動に関する様々な情報があふれる現代社会において、情報に惑わされることなく、自分自身の価値観やビジョンを確立し、生涯にわたりキャリアをデザインしていける力を身につける。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		グループワークの技法と実践		授業では、ワークショップを通して、グループでの話し合いや会議等を進行する際に必要なファシリテーションの技法と考え方を実践的に習得します。また、同時に人材育成を目的としたワークショップを自らデザインします。(ワークショップとは、参加者が持つ既知を共有しながら新たな知を想像する場やその手法のことです。そのため、参加者の主体性が非常に重要な要素となります。) 大学生活や就職活動、さらには社会人になってからも活用することができる「ファシリテーション」の考え方と知識・技能を習得後、学びの確認として、人材育成を目的としたワークショップをデザインします。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		チャレンジ・インターンシップA		本学学生に、基礎的なデータサイエンス等に関する企業実務等を経験させることにより、将来の職業選択に向けての準備や新たな学習意欲の喚起を図ることを目的とする。企業と協力し、社会への興味関心を喚起し、ビジネス課題の整理と解決力と基礎力を身に付ける。 受け入れ企業例：一般社団法人地域デザイン総合研究所 各種ビッグデータ、佐賀市中心市街地に設置するIoTセンサーで取得した環境データ、人流データ、オープンデータ等を使い、佐賀市中心市街地を活性化するためのデータ分析を行う。 データ分析結果は、定期的にレポートにまとめ、街なかの事業者等にフィードバックをする。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		チャレンジ・インターンシップB		佐賀大学内に本社をおくIT企業において、社会人基礎力とIT業界の業務内容を理解することを目的とした研修を行う。実際には、企画立案、営業、開発等の一連の業務を座学にて説明を受けたのち、チームごとに分かれて、IoT、AI、ICT等を用いたサービス開発及びプログラミング、調査事業、ビジネスモデル構築といった業務を経験する。IT企業の実務を経験することによって、社会人基礎力、アントレプレiership、知財知識の重要性を理解できる。また、異業種間の協業の重要性と効果を理解でき、一領域にとらわれずに、様々な価値観を繋げるためのコミュニケーション力を習得できるようになることを目指す。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	ライフデザインとセルフ・リーダーシップ		ライフプラン、生きる目的や夢の実現、仕事、恋愛、家族、友情、趣味といった、人間にとって大きなテーマといえるものの重要性を講義形式（視聴覚教材等含む）で学んだ上で、ディスカッションを行い、ワークで自己の考え方を明確にし、ライフプランを構築する。ライフマネジメントを行うためのセルフ・リーダーシップ（セルフ・コーチング）の手法を修得する。 学生が、自らの人生観、生きる目的や夢の実現、家庭と仕事の両立、恋愛と友情等の重要性を知ることにより、自分の生き様を確立し、その生き様を全うするために学生時代の学びや生活が如何に大切かを理解することを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	Online Immersion Program		This online immersion program consists of three components: 1. Pre-program workshiops: these will be held both on the Honjo campus and on Zoom. The workshops will help students tackle for the unique challenges of participating actively and overcoming barriers to communciation related to both language and the online environment. 2. Online immersion program: this will be conducted by Slippery Rock University. 3. Post-program workshop: students provide a final assessment of what they learned. このオンライン イマージョン プログラムは 3 つのコンポーネントで構成されています。 1. 事前ワークショップ：本庄キャンパスとZoomの両方で開催します。このワークショップは、学生が積極的に参加し、言語とオンライン環境の両方に関連するコミュニケーションの障壁を克服するという独特の課題に取り組むのに役立ちます。 2. オンライン イマージョン プログラム：これはスリッパリー ロック大学によって実施されます。 3. プログラム後のワークショップ：学生は学んだことの最終評価を行います。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	Overseas Practicum		Study abroad preparation program To prepare students for a 16 day trip to Slippery Rock University (9 nights) and New York City (6 nights) Limited to 15 students who have met the requirements of interview and placement. This program allows participants to directly experience university classes. It includes a short-term language training of about 10 days, along with a rich academic content unique to partner schools. At the end of the program, a certificate of completion will be awarded. 留学支援プログラム スリッパリーロック大学（9泊）およびニューヨーク（6泊）の計16日間の留学に備える。 面接と選抜の条件を満たした15名限定です。 実際に大学の授業を直に体験するプログラムです。約10日間という短期間での語学研修を始め、豊富な学術的内容を含むプログラムは、提携校ならではのものです。プログラムの最後に修了証書が授与されます。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	データサイエンスBasic I		本講義では、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事などの場で活用できる基礎的素養を身に付け、これらを問題解決や他者との円滑なコミュニケーション等に正しく活用できる人材を育成することを目的として学ぶ。 ビッグデータという言葉に象徴されるように、ビジネス、医療、教育、農業、工業など様々な分野で大量かつ多様なデータが得られるようになってきた。そのため、このデータを新しい資源ととらえ、データに基づいて様々な問題を解決していく能力、「データサイエンス力」を備えた人材があらゆる分野で求められている。本講義を通して、文系理系を問わず、データサイエンスに興味をもってもらいたい。なお、本講義は、高大連携活動の一環として高校生も受講できるように開講する。 ※全ての授業を共同で実施 （116 西郡大・131 皆本晃弥・186 露木隆／1～15回）（共同）	共同
教養教育科目	基本教養科目	総合科目	データサイエンスBasic II		データを読み解くために必要な基本的な統計知識と、データを活用するために必要な基本的な統計手法について解説し、演習課題を通してスキルの定着を図る。 現在、ビッグデータという言葉に象徴されるように、ビジネス、医療、教育、農業、工業など様々な分野で大量かつ多様なデータが得られるようになってきた。そのため、このデータを新しい資源ととらえ、データに基づいて様々な問題を解決していく能力、「データサイエンス力」を備えた人材があらゆる分野で求められている。そこで本講義では、データ活用には欠かせない、基本的な統計手法について学ぶ。なお、本講義は、高大連携活動の一環として高校生も受講できるように開講する。なお、数学Aの『場合の数と確率』及び数学B『統計的な推測』を学習していることが望ましい。 ※全ての授業を共同で実施 （116 西郡大・131 皆本晃弥・186 露木隆／1～15回）（共同）	共同
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	日本事情－自然科学と技術		本講義は、外国人留学生を対象に、日本語をもって行います。講義では、主に新聞や雑誌などの記事を用いて、日本に関係する自然科学と技術について考えます。講義における解説とともに、受講生に発言や討議を求めます。 本講義は、外国人留学生に日本に関連する自然科学や技術についての知識を身につけさせ、自然科学と技術に関する幅広い知識を習得するとともに、科学的素養を基に合理的および論理的に判断する力を養います。日本語による文書と会話を通じて、自然科学と技術に関連するトピックについて意思疎通を行う能力を養成します。	隔年
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	日本事情－文化		この講義は、外国人留学生が日本の歴史と文化を学ぶための授業です。 約2,000年前からの日本の政治や文化の流れを中心とした講義を行います。特に、武士による政治が行われた時代を重点的に取りあげます。授業は日本語で進めます。日本史の講義なので漢字を多く使います。したがって、一定の日本語の読解力が必要になります。 留学先での異文化を学ぶことで、自分の母国の歴史と文化の特徴を、再認識するきっかけにしましょう。	隔年

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目	日本事情－現代社会		日本の教育と社会の関係性に焦点を当て、人間形成と発達、現代社会と子ども、学校と教師、学校経営・管理、国家と人権、宗教と道徳、学校法制、社会変動と教育などを主たるテーマとして、日本の社会事情を解説する。その上で、外国人留学生在が個々にもつ理解を日本の文脈において相対化できるよう、受講生間で教育と社会の関係性についてディスカッションする。 現代社会において大部分が経験する制度の1つである教育に焦点を当て、教育の営みを社会との関係性に照らして多角的な視点から考え、日本社会への理解を深める。	隔年
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境A－I		近年の国際的な緊急課題の一つであるエネルギーと環境問題を取り上げ、最新の現状と展望とともに、その本質および考え方について教授する。また、佐賀大学で行われているエネルギーと環境に関する最先端の研究内容について詳細に概説する。特に、エネルギーの歴史と課題、自然エネルギーの開発の現状、資源リサイクルと社会問題などについて解説する。 (オムニバス方式／全15回) (157 今井康貴／5回) 温暖化ガス排出規制(パリ協定、欧州の取り組み、国内の取り組み)、温暖化予測とモデル検証、再生可能エネルギー転換とその問題についての講義 (44 池上康之／5回) エネルギー問題の概説、海洋温度差発電開発(歴史、複合利用)、再生可能エネルギー開発と地域振興、エネルギー問題の将来 (187 鶴若菜／5回) 自然エネルギー概説、海洋発電概説、波力・風力・潮流発電、その他海洋開発、海洋エネルギーの有効利用と課題	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境A－II		機械設計および機械加工は、自動車を代表とするいわゆる“機械”を生み出す基盤技術となる。本科目では、機械設計・機械加工の基本理論と緒現象について詳述するとともに、近年の環境問題への取り組み、技術動向について説明する。本講義はオムニバス形式となり、各教員の専門分野およびその周辺分野に関する内容を扱う。授業を通じて、機械設計・加工にかかわる技術や機器についての理解を深め、設計生産技術と環境の関わりについての知識を習得するとともに、各教員が与えた課題について調査・検討を行い、小論文・レポートとしてまとめ提出する。 (オムニバス方式／全15回) (119 長谷川裕之／5回) 授業概要説明、機構学の基礎、環境と機構学 (161 大島史洋／5回) 歯車設計・歯切り加工の基礎、環境と歯車設計 (209 馬渡俊文／5回) トライボロジー、環境とトライボロジー	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境B－I		我々の生活を取り巻く様々な「ものづくり」は、機械工学に関わる様々な技術に支えられている。本講義では、その中でも材料および流体と環境の関わりに焦点を当てた講義を実施する。 (オムニバス形式／全15回) (96 只野裕一・95 武富紳也・218 森田繁樹・196 橋本時忠・91 住隆博・180 塩見憲正／1回)(共同) 講義説明(機械工学と環境の関わり) (96 只野裕一／3回) 機械材料と環境の関わり、環境問題を考慮した材料評価 (95 武富紳也／2回) 機械材料の構造と力学特性 (218 森田繁樹／2回) 機械材料の環境影響評価 (196 橋本時忠／3回) 医工学における流体機器の基礎と応用 (91 住隆博／2回) 数値シミュレーションの基礎と応用 (180 塩見憲正／2回) 流れのふしぎに基づく流体工学の基礎と応用	オムニバス・共同(一部)
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	機械工学と環境B－II		熱工学の基礎、伝熱とエネルギー変換、エネルギー利用と様々なエネルギー機器、エネルギー環境問題とその対策技術について講義する。佐賀県および九州におけるエネルギー事情および新エネルギーへの取り組みについても扱う。 (オムニバス形式／全15回) (230 石田賢治／5回) 熱工学の基礎、エネルギー・環境問題とその対策技術 (152 有馬博史／5回) エネルギーの利用と様々なエネルギー機器 (167 仮屋圭史／5回) 伝熱とエネルギー変換	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	エレクトロニクスと環境A－I		電波と電波を用いたアプリケーションを理解する上で必要な基礎知識(波動、電波伝搬、電気回路・電子回路など)、について講義し、電波の応用を考える上での基礎を養う。8週目までは基礎知識(波動、電波伝搬、電気回路・電子回路)、レーダの原理、各種レーダについて説明する。10週目は佐賀県出身の技術者を紹介する。9週目、11週目以降は、現代社会における電波の応用について調査し、調査内容についてプレゼンテーションを行うことにより電波の社会に対する役割を理解し、よりよい社会の実現を考えることができるようにする。	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	エレクトロニクスと環境A－II		電磁工学の基礎について概説するとともに、その関連技術および環境問題との関連について、講義および調査を通じて学習し、電磁工学と環境とのかかわりについて理解させる。環境・資源・エネルギー問題の解決に資する電磁工学の歴史と最近の技術動向について理解を深める。 6回までは電磁工学の基礎、電磁工学と環境の関わりについての講義や、佐賀県における電磁工学の課題及び関連企業の取り組みについて紹介する。後半は、電磁工学に関する菅評問題や対策技術について調査し、発表を行う。	
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	エレクトロニクスと環境B－I		プラズマエレクトロニクスの基礎及びその関連技術および環境問題との関連について解説する。班分けを行い、班毎にプラズマエレクトロニクスに関する環境問題やその対策技術に関するグループ調査を行い、プレゼンテーションを実施させ、プラズマエレクトロニクスと環境との関わりについて理解させる。環境・資源・エネルギー問題の解決に資するプラズマエレクトロニクスの歴史やその知識、最近の技術動向について理解を深める。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	環境コース	エレクトロニクスと環境B－Ⅱ		半導体産業は裾野が広く、電気電子工学のみならず、理工学部すべての分野、さらには経済学等を含めた学部・学問分野にも関係する。本講義では、半導体とは何か、半導体の基礎、応用、半導体産業の動向について概説する。また、オプトエレクトロニクスに関して、太陽電池、発光ダイオードなど各種光デバイスの開発の歴史、材料、動作原理などについても概説する。これらと環境・エネルギー問題との関連についても紹介する。インターフェース科目として、自ら学ぶ専門分野や知識が社会とどのような接点を持つのか把握することも重要であるので、半導体やオプトエレクトロニクスに関連した調査学習を行い、プレゼンにまとめる。これらを通して、電気電子工学（エレクトロニクス）と環境および生活について理解を深める。地域との関わりも学ぶ。	
	インターフェース科目	環境コース	佐賀の環境A－Ⅰ		環境に関連した様々な問題を身の回りの話題から考え、科学技術、地域、経済、政治など社会全体の変化と対応させる。メディアを通して得られる環境に関する知識は断片的であり、時には誤っている場合もあるので、これらを科学的考察に基づいて精査し、相互に関連づける。環境問題についての“正しい”知識を得るための方法を学ぶ。これまでのライフスタイルを「自然と共生する」ことに主眼を置いて考え直す契機とする。 10回（外部講師5名、内部講師のべ5名を予定）のオムニバス講義と体験学習（ゴミ体験隊、自然観察会）、現地見学会、グループ討論で構成される。 （オムニバス方式／15回） （176 児玉宏樹／13回） フォーラム概略説明、環境問題総論、グループ討論会、環境学習会 （175 郡山益実／1回） 沿岸域の環境保全 （199 原口智和／1回） 再生可能エネルギーは「エコ」？	オムニバス
	インターフェース科目	環境コース	佐賀の環境A－Ⅱ		(A) 市民と共に身近な環境問題について調査研究し、佐賀市の環境施策や佐賀大学の環境研究と関連づける。 (B) 一線で活躍する環境活動グループの活動に参加し、その実情を体験し、その意義を知る。 身近な環境問題について自ら解決のために活動し、その中から問題解決のための様々な手法を学ぶ。学生同士や社会人など意見や都合の異なる人間同士の意見を調整、集約し議論や交渉、協働作業を通じ、知識や経験を共有し、活動を行なう社会人としての能力を培う。 ※全ての授業を共同で実施 （114 中村聡・175 郡山益実・176 児玉宏樹・199 原口智和／1～15回）（共同）	共同
	インターフェース科目	環境コース	佐賀の環境B－Ⅰ		佐賀の環境B－Ⅰ（有明海学Ⅰ） 佐賀大学がある佐賀市は、広大な干潟があり、独特の生き物が生息する有明海に面しています。この海の自然とそこに生きる人の暮らし、そして今起きている環境問題について概観します。 原則として対面で講義しますが、第1回はワークショップを含む形式で実施し、第9-10回は実際に干潟を訪れてフィールドワークを行います。フィールドワークは土曜日あるいは日曜日に1日かけて実施します。 （オムニバス方式／全15回） （198 速水祐一／7回） グリーンマップ作り、海水の物性、干潟とエスチュアリー、波と潮汐、内湾の流れほか （175 郡山益実／5回） 有明海底泥の役割、干潟の環境、ガタ土の環境、干潟現地見学 （40 阿南光政／1回） 集水域がもたらす有明海への影響 （69 木村圭／2回） 生物の代謝、有明海の生物生産構造、有明海の水産業	オムニバス
	インターフェース科目	環境コース	佐賀の環境B－Ⅱ		佐賀の環境B－Ⅱ（有明海学Ⅱ） 有明海を対象に、沿岸海域の物理学、生物学等の基礎について講義した後、沿岸海域の環境問題や人と海のかかわりについて講義します。実際の有明海の調査データ等を扱ったアクティブラーニングを含みます。 （オムニバス方式／全15回） （198 速水祐一／6回） 有明海の地形と地史、海の構造と貧酸素、有明海の海洋調査の実際、人による有明海の利用、有明海の干拓と諫早干拓問題、沿岸域の持続的利用に向けた取組 （175 郡山益実／3回） 干潟の物質環境、野鳥や陸生植物、干潟調査と研究例紹介 （40 阿南光政／1回） 泥と濁り （69 木村圭／2回） 植物プランクトンと赤潮、海藻とノリ養殖、有明海の生物とその問題 （164 折田亮／1回） 有明海の動物プランクトン等、有明海の生物とその問題 （69 木村圭・164 折田亮／2回）（共同） 有明海の生物、有明海の生物の問題	オムニバス・共同（一部）
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流Ⅰ－Ⅰ		本授業は、短期留学生との国際共修型授業を通して、異文化理解および実践的な異文化コミュニケーション能力を育成することを目的とする科目である。 授業では、日本語初級レベルの留学生と協働しながら、日本社会および佐賀地域の文化的特徴を改めて見つめ直す。文化の氷山モデルを基盤とし、「見える文化」だけでなく、「見えない文化（価値観、コミュニケーション様式、社会規範など）」に着目し、自文化を相対化する視点を養う。 後半では、混合グループ（日本人学生＋留学生）による「Invisible Culture Project（見えない文化プロジェクト）」を実施し、インタビューやメディア資料を活用しながら文化的特徴を分析し、PowerPointを用いて英語またはやさしい日本語で発表を行う。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流１－Ⅱ		協働、会話・交流を通じて異文化交流を体験する。外国人の留学生に長めの自己紹介（３、４分間、英語で）をしたり、異文化交流に関するトピックで外国人と協働して口頭発表（英語で）をしたり、海外での学位取得を体験した教師の講演を聞いたり、日本の文化・事情（有田焼）を外国人に英語で紹介・説明したり、外国人と一緒に学外研修に行ったりする。 異文化・事情に育った海外の人との交流を通じて、彼らに、自分自身（および一般の日本人）の経験してきた日本の文化や事情を説明し、彼らから彼ら自身（およびさまざまな国の外国人）の経験してきた海外の文化・事情を聞き、理解する。グループ口頭発表はこれを基にして協働して行う。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流２－Ⅰ		この授業では、日常生活で遭遇する倫理的問題（死生観、様々なライフスタイル、学校教育、ソーシャルメディアの使い方、動物と人間の関係など）について異文化交流の観点から考察します。この授業では、文化的背景が違う参加者との対話を通して、現代社会が抱える様々な倫理的問題について考察する機会を提供します。この授業の第一の目的は、留学生と日本の学生が対話や協同作業を通して交流することにあります。文化や倫理に関する多様なテーマを取り上げる予定ですが、日本社会や日本文化の専門的知識を系統立て講義する授業ではありません。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流２－Ⅱ		本授業は、SDGs（持続可能な開発目標）をテーマに、日本人学生と留学生が混成チームを組み、PBL（課題解決型学習）を通じて地域課題に取り組む多文化共修型授業です。佐賀県内の地域課題に対し、留学生の出身国との比較や多様な視点を取り入れながら、教育、環境、観光、多文化共生など、関心のあるテーマを深く考察します。 授業では、文献調査、フィールドワーク、ゲスト講義などを通して課題の実態を把握し、チームごとに具体的な政策提案をプレゼンテーションとしてまとめます。各グループはテーマを設定し、調査結果に基づいた現実的かつ創造的な提案を目指します。 また、授業の一環として、佐賀県内の関連施設へのフィールドワークを予定しています。現地の声に触れ、地域課題を体感的に理解することで、より実践的な学びにつなげます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication 1－Ⅰ		As one of the Interface subjects with the theme of Culture and Coexistence in General Education, this is designed for the English Course, fully conducted in English. The class provides hands-on practices in authentic contexts for students to find values in understanding of other cultures as well as their own and to develop intercultural communicative competence to prepare students to become a global citizen. The class activities require student's high engagement such as discussions, group works, presentations, and written communication. The topics include intercultural communication, communication strategies in English, and connecting the local community to the world and this study to their individual future goals. The end project will reflect on what students have learned throughout the course. Students will have study-abroad like experiences throughout the class as it will be taught by Instructor from a U.S. partner university in a typical method used in U.S. higher education. このクラスは、英語コース向けに設定されており、完全英語で行われます。このクラスでは、学生が自国の文化だけでなく他文化を理解する価値観を見つけ、学生が地球市民になる準備をするための異文化コミュニケーション能力を開発するための、本物の文脈での実践的な練習を提供します。クラス活動では、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、書面によるコミュニケーションなど、学生の高い関与が求められます。トピックには、異文化コミュニケーション、英語でのコミュニケーション戦略、地元コミュニティと世界、そしてこの研究を各自の将来の目標に結び付けることが含まれます。最終プロジェクトでは、学生がコース全体で学んだことを振り返ります。 米国提携大学の講師が米国の高等教育で使用される典型的な方法で授業を行うため、学生は授業全体を通して留学のような体験をすることができます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication 1－Ⅱ		本授業は佐賀県にまつわる土地、物、文化のどれかを国内外に発信する成果物を英語で作ります。その過程でアカデミック英語と異文化コミュニケーションについて学ぶことを目的とします。 佐賀に関する紹介プレゼンテーションを英語で作成することで、次の事項に係る英語力を身に付けます。１）調査、２）交渉、３）発信。調査は、主に国外のデータを調べます。交渉は、国内外の企業や機関へのメール送信を行います。発信は、英語での動画制作が主たる活動です。これらに加えて、授業が終わった後も自律的に学習を続けられるように、SNSを使った英語学習方法についても指導していきます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication 2－Ⅰ		This class will focus on practical experiences with intercultural communication and understanding via virtual exchange activities. Students will discuss their perception of other cultures, discuss topics with people from other cultures, research other cultures and present information about other cultures. This class will be conducted entirely in English. This class will help students develop intercultural communication skills in order to prepare them for participation in global society. Sufficient English language ability - Class is intended for students with an intermediate understanding of English このクラスでは、バーチャルな交流活動を通して、異文化コミュニケーションと異文化理解の実践的な体験に焦点を当てます。異文化に対する認識、異文化の人々とのディスカッション、異文化リサーチ、異文化情報のプレゼンテーションなどを行います。この授業はすべて英語で行われます。 グローバル社会に参加するための異文化コミュニケーション能力を身につけることを意図とします。 十分な英語力 - 中級程度の英語力を有する学生を対象とします。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	Intercultural Communication 2－Ⅱ		This course introduces students to the principles of intercultural communication. It covers themes such as self-introductions, hospitality, social norms, relationships, and communication styles. Students will enhance their English skills through discussions and activities while developing cultural awareness and sensitivity in everyday interactions. The course aims to prepare students to navigate intercultural communication effectively by examining cultural differences in daily life. Students will gain insights into cross-cultural interactions, promoting adaptability, respect, and open-mindedness in a globalized world. このコースは、学生に異文化コミュニケーションの原則を紹介します。自己紹介、ホスピタリティ、社会的規範、関係性、コミュニケーションスタイルなどのテーマを扱います。学生はディスカッションや活動を通じて英語スキルを向上させながら、日常のやり取りにおける文化的な意識と感受性を育成します。このコースは、日常生活における文化の違いを検討することで、学生が異文化コミュニケーションを効果的に行えるように準備することを目的としています。学生は異文化間の交流についての洞察を得ることで、グローバル化した世界において適応力、尊重、そして柔軟な思考を促進します。	
					本授業では、有田を中心に肥前地区の古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、外部からの視点ではなく、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から学ぶ。講義や演習をつうじて陶器や磁器についての知識理解と産業全体の成り立ちについて学ぶ。後期は、実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなうのでその基礎的知識を身につける。 1. 日本陶磁器の産地と流れ 2. 肥前陶磁器の流れ 3. 窯と焼成 4. LP、ブタンガス窯の構造 5. ガス窯の焼成 6. 有田の産業構造 7. 有田の産業構造2 8. 肥前陶磁器の高台削り 9. 「焼き物の表情」他3篇 10. 「急須の後引き」 11. 後引きのない急須の作図 12. 陶磁器製造における欠点及び、対処法 13. 思いを託した土の形－鈴木治 14. 制作の主題について 15. 制作に主題について2 以上は、学生の状況で並び、内容によって変化する。	
					本授業では、有田の窯元での陶磁器産業体験をつうじて、古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、外部からの視点ではなく、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から、職人の仕事を支えるための作業や雑用を行う中で、自ら感じ取る方法を体験的に学ぶ。（場所：有田キャンパス）。実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなう（一窯元に一人が原則）。窯元の通常業務に支障をきたさない範囲でインターンシップを行い労働経験を積むことによって、佐賀の主要産業の一つである陶磁産業のことを深く理解する。 ※全ての授業を共同で実施 （101 田中右紀・143 湯之原淳／1～15回）（共同）	
					本授業は前期「肥前陶磁器産業体験B－Ⅰ」後期「肥前陶磁器産業体験B－Ⅱ」通して行う。 肥前地区の窯業事業者との協働を通して、自己の陶磁器制作を行い、やきものの専門性と表現領域を深める。また肥前地区の窯業の実態を学び、技術や表現の面において思考し、自己の制作に繋げることを目的とする。 プロジェクトの成果物として最終的に展示発表を行う。 また、肥前陶磁器産業への理解や窯業事業者との協働を通して、対外的な対応や関係構築や、自主的な制作を行うことで、制作や展示において全体的なスケジュールが把握・管理できるようになることを目指す。 ※全ての授業を共同で実施 （101 田中右紀・143 湯之原淳・165 甲斐広文・210 三木悦子／1～15回）（共同）	
					本授業は前期「肥前陶磁器産業体験B－Ⅰ」後期「肥前陶磁器産業体験B－Ⅱ」通して行う。 肥前地区の窯業事業者との協働を通して、自己の陶磁器制作を行い、やきものの専門性と表現領域を深める。また肥前地区の窯業の実態を学び、技術や表現の面において思考し、自己の制作に繋げることを目的とする。 プロジェクトの成果物として最終的に展示発表を行う。 また、肥前陶磁器産業への理解や窯業事業者との協働を通して、対外的な対応や関係構築や、自主的な制作を行うことで、制作や展示において全体的なスケジュールが把握・管理できるようになることを目指す。 ※全ての授業を共同で実施 （101 田中右紀・143 湯之原淳・165 甲斐広文・210 三木悦子／1～15回）（共同）	
					基本教養科目「ドイツの言語と文化」でやり残していた初級文法を学びつつ、ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいます。 ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。さらに、実際にドイツ語を身に付けるために対面授業では発音練習と聞き取り練習に力を入れます。 また、キリスト教の基礎知識についても学びます。	
					基本教養科目「ドイツの言語と文化」でやり残していた初級文法を学びつつ、ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読んでいます。 ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏の情報を読みながらドイツ語の文法や内容について学びます。さらに、実際にドイツ語を身に付けるために対面授業では発音練習と聞き取り練習に力を入れます。 また、キリスト教の基礎知識についても学びます。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化２－Ⅰ		ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読み、関連のドイツ映画を見て知識を深めます。 佐賀県内の市町村と姉妹都市の関係にある都市を取り上げ、佐賀とドイツの国際交流の一端を学びます。 ヨーロッパ文化の背景となるキリスト教の基礎を学びます。 ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏のさまざまなテーマを読んでいきます。 さらに、実際にドイツ語を身につけるために対面授業では発音・聞き取り練習に力を入れます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	ドイツ語とドイツ語圏の歴史・文化２－Ⅱ		ドイツ語圏の歴史・文化に関するテーマのテキストを読み、関連のドイツ映画を見て知識を深めます。 佐賀県内の市町村と姉妹都市の関係にある都市を取り上げ、佐賀とドイツの国際交流の一端を学びます。 ヨーロッパ文化の背景となるキリスト教の基礎を学びます。 ドイツ語圏の社会や文化、宗教などの見聞をより深めるために、ドイツ語圏のさまざまなテーマを読んでいきます。 さらに、実際にドイツ語を身につけるために対面授業では発音・聞き取り練習に力を入れます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	芸術と社会Ａ－Ⅰ		絵画や彫刻の歴史から現代美術やデザインの歴史までを幅広く講義し、芸術への理解を深めます。 あわせて芸術理論の基礎を学ぶことで、芸術作品をより深く鑑賞できるような知識を身につけます。 (オムニバス方式／全15回) (151 阿部浩之／3回) 現代のデジタル表現、現代のアートとデザイン (109 徳安和博／4回) 身近にある彫刻（銅像）の制作過程、拡張を続ける彫刻の定義、西洋の彫刻、東洋の彫刻 (105 土屋貴哉／4回) 構造の操作 (188 富田俊明／4回) 西洋画を学ぶ	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	芸術と社会Ａ－Ⅱ		芸術の鑑賞・体験について3人の教員がそれぞれのテーマに基づき講義・見学等を担当。 (必要に応じて現地体験、美術館見学、ゲスト講義等を行う) 佐賀の伝統的な工芸や芸能について施設見学や体験等を通して理解を深める。現代アーティストと社会の関わりについて関係者の話を聞きながら理解を深める。アートを取り巻く現代的事象や研究の射程について、座学の講義を通して知識を獲得し、理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (173 栗林賢／6回) アートと地理学についての講義 (48 石井美恵／4回) 佐賀の無形文化財についての講義 (126 ホートン／5回) 異文化コミュニケーション、芸術と社会について講義を実践	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	芸術と社会Ｂ－Ⅰ		各自の専門分野と芸術の繋がりを考えるための講義および学生発表。 (121 花田伸一／15回) 美・美術・美術館、美の諸相についての講義、各自の専門分野と美についての学生発表 ―― 芸術地域デザイン学部教員によって行われるアクティブラーニング。染色、ドローイング、木工の3分野における作品制作を各5回の授業で経験する。 (オムニバス方式／全15回) (189 鳥谷さやか／5回) 染色を学ぶ (277 堀至以／5回) ドローイングを学ぶ (43 井川健／5回) 木工を学ぶ	オムニバス、クラスを選択して履修
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	芸術と社会Ｂ－Ⅱ		音楽、人権、歴史、建築・都市などのさまざまな領域と芸術の関係性を学ぶことで、これまでに獲得した視野をさらに広げることを目指します。音楽、人権、歴史、建築・都市などの具体的テーマから「芸術と社会」について考えます。 (オムニバス方式／全15回) (152 有馬隆文／5回) 建築と都市：近代の都市デザイン、戦後の都市デザイン、戦後からバブル期までの建築デザイン、現代の建築デザイン (204 藤井康隆／3回) 歴史：中国南京の文化遺産と都市、中国六朝芸術と東アジア、中国江南の風景とミュージアム (144 吉岡剛彦／3回) 人権：性表現とその限界（芸術家猥褻か、ポルノ規制論、限界事例から） (54 今井治人／4回) 音楽：レナード・バーンスタインはどこから来たのか、グレン・グールドでバッハを聞く、社会が求めた音楽カルチャーの変容、社会と音楽	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化１－Ⅰ		－「鎖国」時代の異文化接触－ 「江戸時代は鎖国であった」という先入観から脱却し、異文化接触の観点から、日本の近世史をとらえなおします。 ①日本の近世における異文化接触について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容についてコメント・質問を提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化１－Ⅱ		－映画で学ぶ幕末維新－ 幕末から明治維新までの歴史を、映画やテレビドラマの映像を参考にしながら、分かりやすく解説する。 年代を覚えるだけの歴史教育ではなくて、時代を輝くように生きた偉人たちの“無私”の人間像や、さまざまな時代状況に適合していく各藩の生き方を伝える。 本授業では、佐賀藩が参加したパリ万博、悲劇の藩・会津藩のたどった道、薩摩藩はなぜ雄藩になりえたか？、長州藩の関ヶ原以来の恨みなどのテーマで講義を行います。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化２－Ⅰ		ー佐賀「賢」人の足跡ー 佐賀は多くの賢人を輩出しました。佐賀「賢」人の足跡をたどり、その生きざまについて学びます。 ①地域（佐賀）の賢人について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容について質問やコメントを提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	歴史文化２－Ⅱ		ー地域の文化遺産ー 各自、文献調査とフィールドワークをとおして、地域の文化遺産の歴史背景と意義について発表し、議論を行います。 ①地域（佐賀県）の文化遺産について、調査研究の上、パワーポイントを使って発表してもらう。 ②他の受講生には発表内容についてコメント・質問を提出してもらい、発表者にはそれに答えてもらう。 ③期末にはレポートを提出してもらう。 本授業では、佐賀大学学士力に示された「3(2) 持続的な学習力と社会への参画力」を身につけることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	英語コミュニケーションＡ－Ⅰ		This course is focused on studying some of the most important issues facing the world today. Through studying a variety of issues that face the world, and Japan. By studying such topical content in English, students will evaluate their own role as individuals and as members of society. The course will support and enable learners to critically evaluate and understand the impact of their choices and how they can live and work in responsible ways to ensure that our home, planet earth, can thrive and remain habitable for future generations. このコースは、今日世界が直面している最も重要な問題のいくつかを学ぶことに焦点を当てています。世界と日本が直面するさまざまな問題を学びます。このような時事的な内容を英語で学ぶことで、学生は個人として、また社会の一員としての自分の役割を評価します。このコースは、学習者が自分の選択の影響と、私たちの家である地球が確実に繁栄し、将来の世代にとって住み続けられるようにするために責任ある方法で生活し働く方法を批判的に評価して理解できるようにサポートし、可能にします。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	英語コミュニケーションＡ－Ⅱ		This course is designed to help students develop confidence and fluency in English conversation through engaging, practical, and interactive speaking activities. Using “New Conversations in Class 2” as the core textbook, students will explore real-life topics such as travel, entertainment, family, and future dreams. Each week, students will practice speaking, listening, and critical thinking skills through pair work, group discussions, and role-plays. このコースは、学生が実践的でインタラクティブなスピーキング活動を通じて、英会話に自信と流暢さを身につけることを目的としています。コアテキストとして「New Conversations in Class 2」を使用し、旅行、エンターテインメント、家族、将来の夢などの現実的なトピックを探究します。毎週、学生はペアワーク、グループディスカッション、ロールプレイを通じてスピーキング、リスニング、クリティカルシンキングのスキルを練習します。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	英語コミュニケーションＢ－Ⅰ		This class is focused on improving general communicative competence, by using a textbook, reading & listening practices, writing assignments, class presentations and group discussions. In each class, the contents of the textbook will be explained and students will be required to answer the questions, participate actively in group discussions and check each other’s writing assignments. Face-to-face classes will be conducted weekly. このクラスは、教科書の使用、リーディングとリスニングの練習、ライティング課題、クラスでのプレゼンテーション、グループディスカッションを通じて、一般的なコミュニケーション能力を向上させることに重点を置いています。各授業では、教科書の内容を説明し、質問に答えたり、グループディスカッションに積極的に参加したり、お互いの作文課題を確認したりすることが求められます。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	英語コミュニケーションＢ－Ⅱ		This class will consist of reading, listening, grammar, viewing videos and having discussions about the content of the reading and viewing exercises. The intention of this class is to provide the tools for students to improve their academic skills. The aim of this class is for students to use the skills they acquire in this course to improve not only their English skills, but also to help them improve their communication skills and academic skills in all aspects of their academic career and beyond. このクラスは、読解、リスニング、文法、ビデオ視聴、および読解と視聴の練習内容についてのディスカッションで構成されます。このクラスの目的は、学生が学力を向上させるためのツールを提供することです。このクラスの目的は、学生がこのコースで習得したスキルを使用して、英語スキルだけでなく、学術的キャリアおよびその先のあらゆる面でコミュニケーションスキルと学術スキルを向上させることです。	
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	韓国語・韓国の社会と文化Ⅰ－Ⅰ		本授業では、初級韓国語を修了した学習者を対象に、中級レベルの韓国語運用能力の向上を目指すとともに、韓国の映画やドラマを題材に、韓国文化を多角的に理解することを目的とする。授業の前半では、日常的な会話表現を中心とした中級韓国語の学習を行い、語彙力と表現力の強化を図る。後半では、歴史ドラマから現代のラブストーリーまで、さまざまなジャンルの作品を取り上げ、作品に表れる社会的背景や価値観、日本との文化的相違について考察する。授業では、毎回いくつかの映像作品を部分的に視聴し、必要に応じて事前に全編の視聴を課すこともある。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	文化と共生コース	韓国語・韓国の社会と文化 1－Ⅱ		本授業では、前期の授業に引き続き、中級レベルの韓国語運用能力の向上を目指す。 授業の前半では、会話練習に加え、韓国語の歌を教材として用い、文法を体系的に学習する。後半では、日本語で出版・翻訳された「日韓比較」や「韓国論」に関する文献を読み、日本と韓国の関係や相互理解のあり方について考察を深める。授業に臨むにあたっては、韓国語の復習を行うとともに、各回で指定された文献に事前に目を通しておくことが求められる。 日韓の間には多くの社会文化的共通点が見られる一方で、その基層となる社会のあり方には大きな違いも存在する。本授業では、韓国社会や韓国人について多角的な視点から理解を深めるとともに、日韓の類似点・相違点を表面的に比較するととどまらず、その背後にある「同」と「異」が共存する要因や背景についても考察を行う。	
	インターフェース科目	文化と共生コース	韓国語・韓国の社会と文化 2－Ⅰ		今日、BTS、BLACKPINKなどのグループ、韓国文化をモチーフにしたアニメ「K-Pop Demon Hunters」など、韓国文化が世界的に受け入れられています。また、韓国は、GDP面では12位（IMF統計）、軍事面では5位（Global Firepowerによる）となっています。しかし、1960年頃、韓国は他国からの支援なしでは食べ物さえ十分に確保できない、世界の最貧国でした。どうやって、2020年代には世界に多様な文化を発信している先進国となりえたでしょう。本講義では、韓国語と韓国の社会と文化に焦点を当てながら、韓国の歴史、社会や文化がどのように変化し、現代につながってきているのかを学びます。そして、韓国語の基本的な力を獲得しながら、積極的なコミュニケーションができることを目指します。 本科目は、韓国語の語学学習、専門分野の講義、受講生の関心のあるテーマの調査・発表によって構成されます。	
	インターフェース科目	文化と共生コース	韓国語・韓国の社会と文化 2－Ⅱ		今日、BTS、BLACKPINKなどのグループ、韓国文化をモチーフにしたアニメ「K-Pop Demon Hunters」など、韓国文化が世界的に受け入れられています。また、韓国は、GDP面では12位（IMF統計）、軍事面では5位（Global Firepowerによる）となっています。しかし、1960年頃、韓国は他国からの支援なしでは食べ物さえ十分に確保できない、世界の最貧国でした。どうやって、2020年代には世界に多様な文化を発信している先進国となりえたでしょう。本講義では、韓国語と韓国の社会と文化に焦点を当てながら、韓国の歴史、社会や文化がどのように変化し、現代につながってきているのかを学びます。そして、韓国語の基本的な力を獲得しながら、積極的なコミュニケーションができることを目指します。 本科目は、韓国語の語学学習、専門分野の講義、受講生の関心のあるテーマの調査・発表によって構成されます。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学A－Ⅰ		人類の生活を支える材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を講義し、新しい材料が新たに生み出す世界を考察させる。 その中でも、有機機能性材料の科学について講義をおこなう。 未来の有機材料について、グループワークならびに発表会を実施している。 ※この授業科目は、民間企業で有機機能材料について研究していた経験を持つ教員による、有機機能材料に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 （オムニバス方式／全15回） （94 竹下道範／7回） オリエンテーションと有機機能材料の基礎、液晶と液晶材料、フォトリソグロミック材料、分子認識と超分子化学、双方向授業「こんなものいいな、できたらいいな」 （178 坂口幸一／4回） 機能性有機材料とエレクトロニクス、有機電界発光素子、有機太陽電池、有機トランジスタ・センサー （302 米田宏／2回） 錯体化学の基礎と応用 （292 小山田重蔵／2回） 高分子化学概論、機能性高分子材料	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学A－Ⅱ		身近な無機材料や陶磁器の開発の歴史とその機構ならびに利用を、板書や配布資料やPowerPointファイルを用いて講義し、新しい無機材料が新たに生み出す世界を考察することができる人材の育成を目標とする。特に、陶磁器の歴史・研究開発の講義については、肥前セラミック研究センターの教員による講義を実施する。 ※この授業は、県の研究開発センター（佐賀県窯業技術センター）で企業と共同した陶磁器の研究開発の実務経験を有している教員が、陶磁器の歴史や研究開発に関する実践的な教育を行う科目である。 （オムニバス方式／全15回） （136 矢田光徳／5回） 光触媒材料、医療材料に関する講義 （139 山田泰教／5回） 錯体系無機材料に関する講義 （50 一ノ瀬弘道／5回） 陶磁器の歴史について、陶器・磁器の製造法、構造、特性について、機能性陶磁器の機能発現理由について	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学B－Ⅰ		人類の生活を支える生体機能材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を講義し、新しい生体機能材料が新たに生み出す世界を考察する。 また、学生との議論をおこなうことがある。 ※この授業科目は、民間企業で水質と金属材料の腐食との関係について研究していた経験を持つ教員による、水質と金属材料に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 （オムニバス方式／全15回） （64 川喜田英孝／4回） 工学的な酵素利用、多糖の構造と糖類、生体分子の分離材料 （267 高橋利幸／3回） 水の性質、溶けるということ、宇宙、地球及び生物と水 （58 大渡啓介／3回） 生体模倣の材料、分子間力と超分子、人工生体模倣分子の機能と構造 （56 海野雅司／3回） 生体分子（糖類、タンパク質）、生体分子（DNA）、薬について、薬と生体材料 （108 徳留嘉寛／2回） 佐賀県コスメティック構想と佐賀大学の関わり、化粧品に使用されている科学（技術）	オムニバス

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インター フェース科 目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学B－Ⅱ		人類の生活を支える様々な機能性材料に関する講義と実験を行う。また佐賀地域の特色を考えた化学関連商品についての試案させる。 ※この授業科目は、民間企業でビジネスプランニング（企画書）に関する経験を持つ教員による、ビジネスプランニング（企画書）に関する実務経験を活かした授業内容を含んでいる。 グループに別れ、実験テーマ(イオン液体)を実施する。 材料を用いたビジネスプランを個人または小グループで考え、教員および他の学生に向けて発表を行う。 （オムニバス方式／全15回） （115 成田貴行／12回） オリエンテーション、グループワーク、発表、総評 （159 梅木辰也・205 藤澤知績／3回）（共同） イオン液体実験、BP試作・試行	オムニバス・共同（一部）
					情報技術者として身につけておくべき基礎的知識を講義するとともに、ITパスポート試験（ストラテジ分野およびマネジメント分野）に合格するレベルにスキルアップするための演習を行う。 情報技術者＝SE・プログラマとの誤解があるが、情報系の職業はそれよりもはるかに多様である。また、情報技術は社会的ニーズや企業活動との関連も強い。最近DX（Digital Transformation）の推進が強く求められており、そのための人材育成も重要である。本科目を学ぶことにより、学生は情報系の様々な職業や、IT（情報技術）と企業活動や社会とのつながりを正しく理解するための基礎を身に付けることができる。 ※全ての授業を共同で実施 （240 掛下哲郎・297 前田明子／1～15回）（共同）	共同
教養教育科目	インター フェース科 目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザインA－Ⅱ		職業人が共通に備えておくべき情報技術を講義するとともに、ITパスポート試験に合格するレベルにスキルアップするための演習をおこなう。 なお、この授業は情報系企業の勤務経験を有している教員がその経験をもとにITパスポート試験の有用性を解説します。 本授業の内容は情報処理技術者試験シラバスに従っており、具体的なトピックとしては、情報の基礎理論、ハードウェア、ソフトウェア、マルチメディア、システム構成、ネットワーク、セキュリティ、データベース、アルゴリズムとプログラミングが挙げられる。	
教養教育科目	インター フェース科 目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザインB－Ⅰ		情報技術者として身につけておくべき論理的思考能力、プレゼンテーション能力を講義や演習を通じて養う。 論理的思考による問題解決や、知識や情報を分かりやすく伝えるための技術は、情報技術者としての基本的な要件の一つである。 本授業では、論理的思考能力（ロジカルシンキング）・問題解決・コミュニケーション技術の学習を行うことにより、パーソナルスキルを向上することができる。 （オムニバス方式／全15回） （59 岡崎泰久／6回） ロジカルシンキング（概要および基本となる思考）、Whatツリー、Whyツリー、Howツリーおよびピラミッドストラクチャーの概要と活用方法 （131 皆本晃弥／3回） コミュニケーション（自己紹介、説明・報告）およびプレゼンの組み立て方 （172 木村拓馬／6回） マトリクスおよびプロセスの概要と活用方法、問題解決（問題発見、原因分析、解決手段検討）	オムニバス
教養教育科目	インター フェース科 目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザインB－Ⅱ		「敵を知り己を知らば百戦危うべからず」の格言にもあるように、今後、情報技術研究あるいは情報技術関連業界へ巣立っていく者として身につけておかねばならない様々な周辺知識を修得させる。 なお、この授業では、佐賀県内に本社、支社、事業拠点のある情報・通信関連企業を対象とし、業界研究を実施する。 ・情報技術者倫理 ・情報技術者の多様な進路 ・情報関連業界の現状と情報技術者の責務	
教養教育科目	インター フェース科 目	生活と科学コース	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方A－Ⅰ		本講義は、1年間を通して、起業を目指したビジネスプランを作るための講義である。Ⅰでは、アントレプレナーシップ（起業家精神）、起業の技術～論理的思考、マーケティング理論、アイデアの発散と収束等についてトライする。 また、この講義は、佐賀を中心とした社会人向けビジネススクールを手掛けるNPO鳳雛塾の全面協力のもと、起業に必須のロジカルシンキング、ケースメソッドを活用した企業分析、自ら考える地力をつけるためのキャリア教育を中心にして展開する。	
教養教育科目	インター フェース科 目	生活と科学コース	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方A－Ⅱ		本講義は、1年間を通して、起業を目指したビジネスプランを作るための講義である。 この講義は、佐賀を中心とした社会人向けビジネススクールを手掛けるNPO鳳雛塾の全面協力のもと、起業に必須のロジカルシンキング、ケースメソッドを活用した企業分析、自ら考える地力をつけるためのキャリア教育を中心にして展開する。 Ⅱでは、5名程度のグループを構成してビジネスプランの構築に取り組む。	
教養教育科目	インター フェース科 目	生活と科学コース	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方B－Ⅰ		本講義では、佐賀大学に本店を構える株式会社OPTiMが中心となり、「ITを活用した新しい価値の創出」をテーマに、学生自身の関心や専門分野とテクノロジーを掛け合わせながら、社会に役立つサービスや仕組みを生み出す力を育てる。プログラミングやWeb開発の基礎から応用までを段階的に学びながら、実践的な演習やチームでの企画・開発を通じて、アイデアを具体的なプロダクトへと昇華させるプロセスを体験する。 1年間を通じて、講義・ハンズオン・グループワークを組み合わせた連続的な学習を行い、最終的にはGitやフレームワークなどの開発ツールを活用しながら、ITを軸にした新規事業の企画・実装に挑戦する。学生は、技術だけでなく、課題発見力やチームでの協働力、ユーザー視点でのサービス設計力も養うことができる予定である。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方B－Ⅱ		本授業は、前期に実施された「2年間でできる「がばいベンチャー」B－Ⅰ」講義の後半として位置づけられ、前期で習得したプログラミングやWeb開発の基礎を土台に、より実践的なチーム開発と作品制作に取り組むことを目的とする。Gitを用いたバージョン管理やチームでの協働開発の手法を学びながら、学生自身のアイデアを具体的なWebサービスとして形にしていきます。 講義では、前期内容であるプログラミング基礎やDjangoフレームワークの復習から始まり、Git/GitHubを活用したチーム開発の基礎などを学習する。技術力・企画力・表現力を総合的に高め、最終的にはチームごとに完成度の高いサービスを発表することを目指す。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	食糧生産の科学A－Ⅰ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、作物と家畜の生産、作物育種と栽培環境の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイデアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (106 鄭紹輝／4回) 日本における食用作物の生産事情、佐賀県の農業環境と作物生産、豆類作物の栽培と利用、イモ類雑穀類作物の栽培と利用 (234 上埜喜八／4回) 日本におけるイネの生産、米の特性と利用法、日本における麦類の生産、麦類の生育環境と品種特性 (160 江原史雄／3回) 動物の管理、動物への配慮、アニマルウェルフェア畜産の現在と未来 (141 山中賢一／4回) 動物生産とSDGs、繁殖技術①人工授精、繁殖技術②体外受精、繁殖技術③生殖細胞の凍結保存	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	食糧生産の科学A－Ⅱ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、作物学、育種学、植物生理学、園芸科学の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイデアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (88 鈴木章弘／3回)作物生態生理学（作物とは、作物栽培の実際、微生物共生の作物栽培への応用） (148 渡邊啓史／3回)日本における食糧生産の実情、世界における遺伝子組み換え作物の利用、作物育種の方法と現状 (124 藤田大輔／3回)イネについて、イネ生産の課題（非生物学的ストレス、生物的ストレス） (193 西田翔／3回)土壌の役割と性質、植物の栄養吸収と利用、食糧生産における環境問題 (77 後藤文之／3回)施設園芸学（施設園芸の定義、歴史、施設園芸における植物生理学、オランダの園芸と植物工場）	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	食糧生産の科学B－Ⅰ		食糧生産に関わる諸問題を対象に、園芸科学、植物の病害虫と生態系、作物と家畜の生産、作物育種と栽培環境の観点から、現状の理解、問題点の把握、解決方法のアイデアや実際の社会で行われている取り組みについて理解を深め、日本や世界を取り巻く農業生産や生態系の諸問題について理解を深める。	
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	食糧生産の科学B－Ⅱ		食糧や農作物の生産に関係する動植物や微生物の生態について教授するとともに、それらを生産する際に問題となる病害虫やそれらの防除方法について教授する。 (オムニバス方式／全15回) (145 吉賀豊司／3回) 農薬の安全性、農薬の作用機序、遺伝子組み換え作物による防除 (107 徳田誠／4回) 害虫防除の歴史、害虫防除の実際、生態系と食糧生産、生物多様性と食糧生産 (104 辻田有紀／4回) 花卉園芸作物の分類、花卉園芸作物の生産（用途別にみた生産体系、植物の生態的特徴からみた生産体系）、花卉園芸作物の利用 (71 草場基章／4回) 食糧生産に関係する微生物、食糧生産への微生物の利用、食糧生産で問題となる微生物、食糧生産と微生物	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	ライフサイエンス・フードサイエンスA－Ⅰ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (103 辻田忠志／3回) 食品の機能性を判断する細胞実験、実験体験 (168 川添嘉徳／3回) 海産物・植物・キノコなどの菌類が生産する機能性物質 (128 堀谷正樹／3回) 食品中のタンパク質、食品を消化する酵素、タンパク質と疾患 (255 関清彦／3回) タンパク質・脂質の一般分析、炭水化物（糖質）の分析 (301 吉田和広／3回) 光と色の測定法、植物・海藻の色を決める色素の測定法、植物の非破壊測定技術	オムニバス

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	生活と科学コース	ライフサイエンス・フードサイエンスA－Ⅱ		毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面、機能的側面も持つ。食品が消費者の手元に届くまでにはこれら食品の特性を保持しつつ食中毒等のリスクを低減させる処理がなされる。また、加工食品の開発には市場調査も欠かせない。さらに近年では、食糧枯渇問題を背景に新たな食資源の開発も行われている。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (117 野間誠司／4回) 食品の加熱殺菌と微生物数評価、食品の新しい殺菌技術と品質評価、食品保存技術と品質評価、演習 (122 濱洋一郎／4回) 食中毒の概要、食中毒についてグループワークおよびプレゼンテーション、演習 (225 龍田勝輔／4回) 食資源としての昆虫利用、昆虫食の利点と欠点、昆虫を利用した機能性成分、演習 (298 眞榮田麻友美／3回) 醸造食品の製造と機能性成分、酒類製造と機能性成分、最新の醸造食品の機能性成分に関する研究、演習	オムニバス
					毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (65 川口真一／3回) 食品・サプリメント・化粧品に含まれる有機低分子 (130 光武進／3回) 食品の安全を担保するための規制、HACCPによる食品製造管理、HACCPを自然に生かそう (113 永野幸生／3回) 分子系統解析に関する演習 (69 木村圭／3回) 藻類食品、海苔の食味官能評価、藻類養殖と栄養成分の講義 (155 井上奈穂／3回) 食品機能に関する講義、食品の機能性研究に関する演習、機能性食品に関する発表	オムニバス
					毎日の食事は私たちの生命活動を維持する上で不可欠であるばかりか、日々の生活に潤いを与える嗜好物の側面も持つ。それぞれの食品成分を適切に分析・評価し、消費者に説明することは現代では必須の作業である。加えて、補完的なサプリメントの摂取は、健康維持の側面から、広く受け入れられているが、その機能的側面の詳細な理解は進んでいないように思う。本科目では、これらの事柄について、講義・演習・実習形式で学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (111 永尾晃治／3回) 健康に関する食品表示制度の講義、特別用途食品の機能性に関する演習 (164 折田亮／3回) 魚介類の利活用に関する講義と演習 (92 宗伸明／3回) 食品の分析と調理の科学に関する講義と演習 (78 後藤正利／3回) 発酵食品の製造と分析に関する講義と演習 (80 小林元太／3回) 発酵食品の製造と分析に関する講義と演習	オムニバス
					本授業は、「①チームビルディングのスキル」、「②リーダーシップ理論の知識」、「③課題発見能力」をテーマとして扱う。毎回の授業では、「①チームビルディングを目的とした30分程度のアクティビティ」と「②リーダーシップ理論の知識」あるいは「③課題発見能力」に関する講義およびグループワークを実施する。特に③の事柄は、本授業の中核となる活動である。具体的には、教員からテーマ（問い）の提示→資料収集やディスカッション等のグループ活動→結論や主張を示す資料作成→振り返りという流れで実施する。1つのテーマにつき3コマ程度の時間をかけて、グループの主張や結論を導き出す。全15回の授業中に4つ程度のテーマ（問い）に取り組むことで、後述の開講意図および到達目標に掲げる能力の修得を目指す。 ※全ての授業を共同で実施 (186 露木隆・220 山内一祥・227 浅田隼平／1～15回)（共同）	共同
					本授業では、前期授業で学習した「チームビルディング」「リーダーシップ」「課題発見・設定」に関する知識や技術を活用し、提示された「テーマ」に対する「課題」を特定した上で、その解決のための企画立案およびプレゼンテーションする。本プログラムは、「組織および社会において自己の役割と責任を認識し、主体的にリーダーシップを発揮し行動できる人材の輩出」を目指している。本授業では、そのために必要な能力の育成を目的とする。 ※全ての授業を共同で実施 (220 山内一祥・227 浅田隼平／1～15回)（共同）	共同
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	チームビルディングとリーダーシップ2－Ⅰ		特定の佐賀県内企業から提示されたテーマを題材として、テーマに基づいた課題解決のための企画提案を行う。学習者は複数人でチームを形成し、提示されたテーマについて現状分析や課題把握を行った上で、その解決策について企画を行う。一連の学習プロセスには、チューターとして企業から社会人が参画し学びをサポートする。チームで構築した企画については、プレゼンテーションを行う。 ※全ての授業を共同で実施 (186 露木隆・220 山内一祥・227 浅田隼平／1～15回)（共同）	共同

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	チームビルディングとリーダーシップ2－Ⅱ		本授業ではプログラムの集大成として、リーダーシップとチームビルディングに関するプロジェクトを実施する。プロジェクトの内容等については、佐賀県あるいは佐賀市が抱える問題・課題を解決するものを前提とするが、詳細は受講学生間で議論し決めることとする。授業の進め方は、基本的にはPBL（Project-Based Learning）を基本とし、プロジェクト実施とそれまでのプロセスを学生が主体となって進める。 ※全ての授業を共同で実施 （186 露木隆・220 山内一祥・227 浅田隼平／1～15回）（共同）	共同
	インターフェース科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシー1－Ⅰ		人が決断を迫られる時、何らかの事実に基づいて望ましい決断をしたと考えることがしばしばある。噂話に耳を傾けることもあれば、信頼している誰かに経験談を語ってもらおうとするかもしれない。統計も事実を知るための一つの方法である。だが、統計が作成され、利用される過程で政治的な仮定が入り込むことや、意図的もしくは無意図的に誤用されることさえある。 本プログラムは、統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指「リサーチ・リテラシー」のフェーズⅠとして、統計データの読み込みと統計データの作成を行う。担当教員は、統計の活用に関するさまざまな議論を提示し、統計データの適切な読み込みができるよう支援する。履修者は担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、各自の問題意識を明らかにし、グループワークを通して興味・関心に即した統計データを実際に作成する。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシー1－Ⅱ		人が決断を迫られる時、何らかの事実に基づいて望ましい決断をしたと考えることがしばしばある。噂話に耳を傾けることもあれば、信頼している誰かに経験談を語ってもらおうとするかもしれない。統計も事実を知るための一つの方法である。だが、統計が作成され、利用される過程で政治的な仮定が入り込むことや、意図的もしくは無意図的に誤用されることさえある。 本プログラムは、統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指「リサーチ・リテラシー」のフェーズⅡとして、統計データの読み込みに加え、統計データの処理に必要となる検定と解析を学ぶ。担当教員は、統計的な有意性検定や解析技法の基礎につて、演習を交えて講義し、統計的な知識と技法の修得を支援する。履修者はグループワークを通して統計データの処理を実際に試みる。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシー2－Ⅰ		統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について、共同作業やプレゼンテーションを交えて検討する。21世紀に入り既に20年を経過した現代の日本社会が直面している課題は、少子化や個人・企業・政府による経済活動、財政から、地震や河川の氾濫などの災害、DNA解析まで、膨大な領域に及んでいる。「リサーチ・リテラシー2－Ⅰ」では、人の心理や教育、社会政策に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な作成と読み込みができるよう支援する。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシー2－Ⅱ		統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について、共同作業やプレゼンテーションを交えて検討する。21世紀に入り既に20年を経過した現代の日本社会が直面している課題は、少子化やそれに伴う教育の諸問題、個人・企業・政府による経済活動、財政から、地震や河川の氾濫などの災害、DNA解析まで、膨大な領域に及んでいる。「リサーチ・リテラシー2－Ⅱ」では、人文・社会科学、自然科学が扱う社会的な諸課題に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な読み込みができるよう支援する。 （オムニバス方式／全15回） （215 村山詩帆／9回） オリエンテーション、尺度の基本的な考え方、性格、態度、教育・社会党系とカテゴリーカルデータなどについての講義 （33 中村博和／3回） 経済統計データでみる経済、時系列解析の基本、時系列モデル分析の初歩についての講義 （199 原口智和／3回） 生物・環境統計の基本的な考え方及び応用と事例紹介、複数要因効果を検出するための多変量解析についての講義	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅰ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅰ」においては、企画立案に必要な基礎知識や企画書作成のためのプロセスについて講義した後、大学における1つの問題解決をテーマに企画書の作成をしてもらいます。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅱ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、イベントづくりのための基礎的な知識を講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー1－Ⅱ」においては、2つの企業から依頼される案件を題材に提案をプレゼンにまとめる方法について講義で学び、実際にスライドの作成やプレゼン動画の作成を行います。 加えて、春休み期間中にはスポーツイベントのボランティア体験をしてもらいます。 ※全ての授業を共同で実施 （207 町田正直・220 山内一祥／1～15回）（共同）	共同

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダー 2－Ⅰ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー 2－Ⅰ」においては、さが桜マラソンの反省とチームワークやリーダーシップの知識等をベースに「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を作成してもらう。その後、2班に別れ地元企業等からスポーツイベントの作り方などについて学び、その知識を元に企画立案してもらう。 ※全ての授業を共同で実施 (207 町田正直・250 坂元康成／1～15回) (共同)	共同
	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダー 2－Ⅱ		「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、イベント作りの基礎的な考え方、地方自治体や地域企業のスポーツイベントに関する考え方、チームワークやリーダーシップの基礎的な知識を書籍や講義から学んでもらいます。さらに、それらから得られた知識を元に「また関わりたいと思えるスポーツイベント」を目指して、学生が立案したスポーツに関わるイベントを実際に運営してもらいます。これらの経験を通して、ボランティアとともにスポーツイベントを成功に導ける知識や態度を身につける事を目標に展開します。 「スポーツイベントとボランティアリーダー 2－Ⅱ」では「スポーツイベントとボランティアリーダー 2－Ⅰ」で立案した企画を「また関わりたいと思えるスポーツイベント」になるように実施する事を通して、スポーツボランティアリーダーとして求められる能力の獲得に向けて行動してもらいます。 ※全ての授業を共同で実施 (207 町田正直・250 坂元康成／1～15回) (共同)	共同
	インターフェース科目	人間と社会コース	課題解決のためのプロジェクトデザイナーⅠ		本授業におけるプロジェクトデザインとは、「ある特定の問題を分析し、その原因や取り組むべき課題を明らかにするとともに、課題を解決するための計画をたてること」を指す。本授業では、5名前後の学生チームを作り、教員が提示するテーマ（問い）に取り組むことで、プロジェクトデザインの知識やスキル、チームで協働するためのスキル・マインドを学ぶ。 毎回の授業では、「①チームビルディングを目的としたグループワーク」と「②プロジェクトデザインに関する講義およびグループワーク」を実施する。具体的には、教員からテーマ（問い）の提示→資料収集やディスカッション等のグループ活動→結論や主張を示す資料作成→振り返りという流れで実施する。学生間でのディスカッションやチーム活動が授業の中心となるため、履修にあたっては、これらの活動に積極的に参加する前提であることが望ましい。	
	インターフェース科目	人間と社会コース	課題解決のためのプロジェクトデザイナーⅡ		本授業におけるプロジェクトデザインとは、「ある特定の問題を分析し、その原因や取り組むべき課題を明らかにするとともに、課題を解決するための計画をたてること」を指す。本授業では、前期授業（Ⅰ）で学習した「プロジェクトデザイン」及び「チームビルディング」に関する知識・スキルを活用し、提示されたテーマに対する「課題」を特定したうえで、その解決のための企画立案及びプレゼンテーションを行う。本授業におけるテーマは、佐賀県内企業の協力のもと提示する。履修学生は、実際に佐賀県内企業が抱える問題を解決するための企画立案に取り組む。 Ⅰの授業に引き続き、学生間でのディスカッションやチーム活動が授業の中心となるため、履修にあたっては、これらの活動に積極的に参加する前提であることが望ましい。	
	インターフェース科目	人間と社会コース	教育から学ぶインターフェース論Ⅰ		副題を「インターフェースの基礎技法」と題し、教育学部に所属する12名の教員の研究成果をもとに、「インターフェース」の言葉が含有する広範囲な意味について様々な角度から明らかにしていく。 (オムニバス方式／全15回) (54 今井治人／3回) ガイダンス、総論、音楽の限界で出会うもの (97 達富洋二／1回) ここからはじまるコミュニケーション (217 Moxon Jonathan／1回) 英語を学ぶ理由 (66 川中子正／1回) 現実問題への数学の応用について (41 荒巻治美／1回) 音楽と人間 (224 吉村圭／1回) イギリス児童文学に映し出される社会問題 (72 栗山裕至／1回) 美術から得られるものとは (235 大林将呉／1回) 「問い」や「思い」を生み出す数学的事象との出会い (154 石川美也子／1回) 音楽の系譜 (202 日高茂暢／1回) 映画で学ぶ障害心理学と特別支援教育 (150 足立佳菜／1回) ダイバーシティ時代の道徳 (114 中村聡／2回) 里山の生物多様性～宮崎駿の創作活動①②	オムニバス

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インター フェース科 目	人間と社会コース	教育から学ぶインターフェース論－Ⅱ		副題を「身体と空間」と題し、教育学部に所属する12名の先生方の研究成果をもとに、インターフェースの概念について多彩かつ広範な領域から探求する。 (オムニバス方式／全15回) (54 今井治人／3回) ガイダンス、総論、表現する身体 (224 吉村圭／1回) イギリス文学と映像化作品からみる社会通念の変化 (195 橋永貴弘／1回) 折り紙とハサミで数学をしよう (55 嬉正勝／1回) ヒトの視覚と空間認知 (84 澤島智明／1回) 住まいと生活 (62 小野文慈／1回) もの・人を安全に運ぶ科学を考える (166 萱島知子／1回) 食と健康 (177 小松美和子／1回) 衣服のかたち (174 黒田圭介／2回) 自然災害と地理学、地域おこしと没場所化 (286 小村朋代／1回) 発声のためのボディ・マッピング (144 吉岡剛彦／1回) 身体・ジェンダー・自己決定 (191 名倉一美／1回) 日本の「子育て支援」の現状	オムニバス
					本プログラムでは、レクリエーション支援の理論を、学校や地域、企業・団体等における教育実践場面に活用し、個人や組織のチカラを主体的に元気にしていくことができるレクリエーション人材（高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を備えたアクティブな人材）の輩出を目指しており、「教育レクリエーション支援の探究Ⅰ・Ⅱ」という2つの授業を通して、レクリエーションの理念と価値、レクリエーション支援の理論の理解やレクリエーション支援の方法について学びます。 本授業は、講義と演習、実技によるアクティブラーニング型形式の授業となります。さらに、レクリエーション活動やグループワークの体験が学習の主となる展開方法となりますので、積極的に他者と関わることを求められます。 加えて、本授業では実習（フィールドワーク）として学外授業4回分の「レクリエーション事業参加体験」を行います。	
					本プログラムでは、レクリエーション支援の理論を、学校や地域、企業・団体等における教育実践場面に活用し、個人や組織のチカラを主体的に元気にしていくことができるレクリエーション人材（高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を備えたアクティブな人材）の輩出を目指している。本授業では、「信頼関係づくりの理論とその方法（ホスピタリティ）」「良好な集団づくりの理論とその方法（アイスブレイキング）」を中心に取り組みます。加えて、実際に行われているレクリエーション事業に「学外授業」として参加することでレクリエーション支援についての理解や本授業で学んだ内容の理解を深めてもらいます。毎回の授業後には「授業リフレクション」としてその授業を振り返っての感想や自己評価などの振り返りをオンラインツールを用いて収集します。授業の最終回後にはすべての授業内容を振り返る「総括リフレクション」を行います。	
					わが国は、江戸時代に西洋医学と日本漢方医学とが出会い、明治期以降近代医学が形成されてきた。授業内容は、江戸時代に日本漢方医学や西洋医学がどのように影響しあって、現代にどのように影響しているかを明らかにする。とくに医師及び人々の人体内部を見る目がどのように発達し、解剖学から生理学、病理学、自然科学へと学問の発達を見たこと、我が国近代医学の形成に佐賀藩がどのように関わったか、西洋医学の発達との関連などを、現代の医療の問題とリンクさせて理解することを目的に講義をする。	
					医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいったったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	
					健康を維持・増進するための身体活動や運動、食事（飲酒を含む）に関する科学的エビデンスを学び、生涯にわたり健康的なライフスタイルを日常的に実践できるようになることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (194 西田裕一郎／6回) オリエンテーション、健康寿命、肥満と運動、生活習慣病の予防と身体活動、運動による楽しい健康づくり（スロージョギング、ビックルボール）、講義・スポーツ実技まとめ (268 射場裕美子／2回) 生活習慣病の予防のための食事、ライフステージ別の栄養 (111 永尾晃治／2回) 栄養の概念と五大栄養素、エネルギーの摂取と消費のバランス (155 井上奈穂／2回) 食品の機能性、健康に資する食品の活用（保健機能食品とは？） (291 岡田貴裕／1回) 糖尿病と食事 (208 松本明子／1回) 飲酒、ALDH2遺伝子と健康 (250 坂元康成／1回) 運動による楽しい健康づくり（ボールゲーム）	
教養教育科目	インター フェース科 目	医療・福祉と社会コース	食と健康－Ⅱ		医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいったったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	ライフサイクルからみた医療－Ⅰ		人生100年時代といわれる現代社会を健康に活躍していくことが重要な課題となっている。これに関して提示した資料を題材としてグループ討論と発表を行うことにより、課題を解決するために多角的視点で考察する能力を養う。 (オムニバス方式／全15回) (206 藤本裕二／5回) 科目ガイダンス、Teams操作の把握、メンタルヘルスの課題提示・グループ討論・発表を行う、総括 (83 坂田資尚／4回) 予防医学の課題提示・グループ討論・発表を行う (289 大坪美由紀／3回) 子育て支援の課題提示・グループ討論・発表を行う (300 山田春奈／3回) ワーク・ライフ・バランスの課題提示・グループ討論・発表を行う	オムニバス
	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	ライフサイクルからみた医療－Ⅱ		医療人とは何か、プロフェッショナルな医療人になるにはどのような準備や能力が必要か、現在の医療の状況、将来の変化、佐賀の医療の現状などを講義で学びつつ、自分のキャリアを考えていく重要性や、その計画を実現させるために必要な準備について学んでいく。また、ロールモデルとして、さまざまな医療領域の実務を経験した医師・看護師・メディカルスタッフが各専門分野の概要を紹介しつつ、なぜ自分が進路決定にいったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力を概説し、それを聴いて、考えることにより医療人のキャリア形成について理解を深めていく。	
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	患者に寄り添う医療－Ⅰ		さまざまな医療現場で働く医療職の教員等が、実際の経験を元に、あらゆる年齢層の患者・家族の行動や、それぞれの心理・社会的、文化的な背景について紹介し、患者に真に寄り添うとはどういうことなのか考えさせる講義である。 ※全ての授業を共同で実施 (149 江村正・295 徳島緑／1～15回) (共同)	共同
教養教育科目	インターフェース科目	医療・福祉と社会コース	患者に寄り添う医療－Ⅱ		高齢化が進む現代社会での医療においては、病気と共存していくための適正な薬物療法が重要となる。この講義では、佐賀大学病院は高度先進医療を担う医療機関であることから、病気や医薬品についての最先端の研究成果や臨床での最新の話題もおり混せて、病気と医薬品の基礎と臨床応用について学ぶ。医学部附属病院などで実際に診療にあたっているトップランナーの医師や薬剤師などがそれぞれの専門の立場から、病気や健康に興味のある学生や医療職を目指す学生にわかりやすく講義する。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化A－Ⅰ		古文書をもちいて江戸時代の佐賀のようすを学び、現代の佐賀に与えている影響を考えます。講義ではパワーポイントとプリントを使って説明し、適宜レポート提出を求めます。 江戸時代の日本にかんする通説的な知識を身につけ、それを元に江戸時代から明治初期にかけての佐賀地域について基本的な知識の取得を目指します。古文書的重要性や、鍋島直正の政治、龍造寺氏と鍋島氏、佐賀の多様性、佐賀藩の人口、疫病と佐賀などについての講義を行います。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化A－Ⅱ		佐賀地域の古代～近世初頭にかけての歴史を語る多様な史料（古文書、古絵図、出土遺物、石造物など）の中身と意味を解説し、佐賀の歴史の具体的変遷を学ぶ。 特に、佐賀が舞台となった豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）を通じて政治史・外交史を深く知るため、国指定特別史跡「名護屋城跡」でのフィールドスタディを予定している。 古文書の読み方や基礎知識、様々な史料の使い方や特性を学ぶとともに、佐賀の代表的な歴史的事象について理解を深める。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化B－Ⅰ		地域の将来を考え、創造する社会人には、現代の文化・社会に組み込まれた歴史性に関する実践を伴う認識が必要です。 本科目では佐賀および有明海沿岸地域の文化資源・歴史遺産を題材に、各自が地域文化を通して現代と未来を見る視野と思考方法を知ることがを目的とします。地域の歴史・文化やそれに関する有形・無形の資料を知り、現代との差異と連続性を捉えた上で、将来の地域を担う人材としての思考、行動ができるようになることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化B－Ⅱ		江戸時代のものを中心にしつつ、古代から近代に至るまでの、佐賀地域を取り上げたり、佐賀の作者が書いたりした作品を読みます。授業では、社会的背景に注目しながら、その作品の性格を考えていきます。 肥前国風土記、天草軍記、佐賀怪猫伝、葉隠など佐賀をめぐる古典について、基礎的な理解を身に着けることを目指します。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会A－Ⅰ		少子化が進行し、地方から大都会へと若者が流出、農村では耕作放棄地が増加し、地域社会の人口が減少したため、需要も減少して地域経済が衰退していく。こうした問題は、21世紀日本の地域経済と社会に限った話ではない。実は、18世紀の江戸日本も、同様の問題に悩まされていた。だが19世紀前半になると、少子化は止まり、人口も経済も成長に転じる。その背景には、幕府や藩による各種の政策があった。本講義では、地域経済と社会が抱える問題を、18世紀から21世紀の現代までについて、人材育成や経済政策、国際経済との連関などの視点から、解説していく。 また、数名のグループに分かれ、本講義内容を参考にしつつ、地域活性化の方法について、考えてもらう。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会A－Ⅱ		一つの国に産業構造があるように、特定の地域にも産業構造がある。そのため地域は産業の盛衰の影響を免れない。本講義では産業構造の変遷が地域経済に与える影響について、いくつかの代表的な産業に焦点を当て、佐賀県内の事例も取りあげて説明する。またグループに分かれ、地域分析の課題にも取り組んでもらう。本講義では、地域と産業の関わり合いについて理解し、またそれらをもとに地域分析を行うための基礎を身につけることを目指す。	
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会B－Ⅰ		地域経済と商業は密接に関連している。地域の成長力は、その地域の小売企業の成長力を規定している。ただ現代では小売企業が地域経済の成長に貢献する場合もある。また地域の小売商業を守ることは地域の消費者のためでもある。しかしすべての地域の小売業が成長しているわけではなく、むしろ多くの地域で昔ながらの小売企業の衰退が見られる。本講義では講義形式とグループでの研究発表を、小売業と地域の関係性を表す事例について行っていくことにする。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会 B－II		現代社会では、実にさまざまな国や地方自治体／地方公共団体による行政活動が行われており、それらは、われわれ市民の日常生活に深く関係しています。 たとえば、雇用をめぐるのは、労働関係法令や国の制度による施策に加えて、地方自治体等により地域の実情に応じた雇用に係る施策が行われています。 本授業では、とくに雇用に着目して、法律、国の制度、地域の実情に対応した施策などを取り上げていきます。 これら法律、国及び地方自治体等の施策の考察を通して、日々見聞きする国や地方自治体／地方公共団体に関わるニュース等について、なにが問題になっているのかを適切に把握するとともに、主体的に検討し、自らの意見を有することができる視座の獲得を目指します。 授業では、基本的な事項をわかりやすく説明することを何よりも心がけますが、アクチュアルな問題や最近の裁判例なども随時取り上げたいと思います。外部講師による講演を適宜取り入れます。	
					SDGsの全体像、および個別目標毎のターゲットやインディケーターについて学ぶ。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すためにグローバルな目標（ターゲット・インディケーター）を佐賀県等を事例にローカライズし、身近な課題解決型の講義とする。 （オムニバス方式／全15回） （228 五十嵐勉／9回）ガイダンス、SDGs概論（SDGs思考）、特別講義、まとめ （199 原口智和／2回）SDGs各論（陸の豊かさ）、まとめ （5 SALIYA DE SILVA／2回）SDGs各論（貧困、ジェンダー平等）、まとめ （126 HOUGHTON STEPHANIE ANN／2回）SDGs各論（健康と福祉）、まとめ	オムニバス
					SDGsの個別目標毎（関連する目標のターゲットを含む）のグループワークを実施する。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すために、学外での体験型学習や現地見学等のフィールドワーク、企業・団体等での短期のインターンシップ、データの収集・分析などを通して、身近な課題解決型の講義とする。行政（佐賀市）一団体（佐賀SDGs官民連携円卓フォーラム）一企業（リコージャパン佐賀支店等）との協働によって学習する。 ※全ての授業を共同で実施 （126 HOUGHTON STEPHANIE ANN・199 原口智和・228 五十嵐勉／1～15回）（共同）	共同
					SDGs目標11（持続可能なまちづくり）のターゲットやインディケーターについて学ぶ。特に、SDGsの自分事化による行動変革を促すためにグローバルな目標（ターゲット・インディケーター）を、佐賀県等を事例にローカライズし、身近な課題解決型の講義とする。 （オムニバス方式／全15回） （129 三島伸雄／4回） 近年の地方創生の課題と地域社会の胎動、歴史的環境を用いた地方創生の取り組み事例、特別講義 （125 藤村美徳／4回） 農業と雇用、農業の教育力、農業の福祉力、特別講義 （102 辻一成／4回） 有明平野の農村の社会構造、中山間地の過疎化と関係人口、特別講義 （142 山西博幸／3回） 都市防災、特別講義	オムニバス
教養教育科目	インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀SDGsグローバルアクション2－II		各教員が提示する課題に対応して、グループに分かれ、それらの課題に応じた講義ならびに議論を行い、発表資料を作成する。 具体的なグループでの作業として、グループ別のレクチャー、現地調査、対象地の課題に関するPPTを作成させ、中間発表を行う。その後、中間発表を踏まえた議論、対象地のSDGs課題解決の方向性や具体的方法を議論する。中間発表を行い、テーマの再整理、資料を作成し最終発表をおこなう。 ※全ての授業を共同で実施 （102 辻一成・125 藤村美徳・129 三島伸雄・142 山西博幸／1～15回）（共同）	共同
教養教育科目	インターフェース科目	共通	インターフェース演習		「インターフェース演習」は、インターフェースプログラムの教育内容をさらに深めるために、必要に応じて、インターフェースプログラムの担当教員が開講します。	
専門教育科目	基本科目		基本ミクロ経済学	○	本講義では、ミクロ経済学の基本理論を体系的に修得する。講義の前半では、需要と供給の基本原理想から始まり、消費者の効用最大化行動および企業の利潤最大化行動を、グラフや数式モデルを用いて詳細に検討する。後半では、これら個別の行動が市場均衡においていかに資源配分の効率性（パレート効率性）を実現するかを、余剰分析の手法を用いて学習する。さらに、ボックス・ダイアグラムで表される「効率と公正」、外部性に代表される「市場の失敗」の問題を扱い、公共政策の必要性や企業の社会的責任についても経済学的視点から考察する。全体を通して、ミクロ経済学の基本理論によって、現実の経済現象をより深く理解するという視点から講義は進められる。	
専門教育科目	基本科目		基本マクロ経済学	○	本講義の目的は、受講者が経済理論の基礎となるマクロ経済学の標準的なフレームワークを習得し、一国の経済活動の規模や金利などがどのように決定されるのか、また財政政策や金融政策が経済にいかなる効果をもたらすかについて、理解できるようになることである。講義では、まず経済規模の指標であるGDPと三面等価の原則を理解するところから始めて、続いてマクロ経済の各需要項目の大きさを決定する消費関数、投資関数について学び、貨幣市場における需給と利子率の決定に関する学習へと進む。最後に、IS曲線・LM曲線の導出方法と、財政政策・金融政策による各曲線のシフトについて学習し、経済政策の効果を理論的に理解できるようになることが、最終的な到達目標となる。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	基本科目	基本統計学	○	統計学の基本的な「見方・考え方」を身に付けるため、観測データの集約方法を解説し、複数の変量間の関連性を、回帰や相関といった概念を用いて考察し、統計学の次の目標である推測理論について、その基礎となる確率と確率分布および推定・検定の考え方の導入部を講義する。	講義時間 20時間 演習時間 10時間
	基本科目	基本簿記会計	○	簿記とは「帳簿記入」の略で、世界の様々な企業や法人が公開する「財務諸表（会計書類）」を作成するための技術であり手段である。当該講義は簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳方法、報告書作成方法を身につけるための講義となる。具体的には日商簿記検定3級資格取得のための講義と問題演習を行う。日商簿記検定2級や職業的資格となる公認会計士や税理士、国家公務員国税専門官などを目指す学生には、とても重要な基礎学習となりえる。また資格取得に止まらず、将来の就職活動で役立つ企業の財務諸表を考察する力を養う。	
専門教育科目	基本科目	基本経営学	○	経営学では何らかの経済活動を行う「組織」を研究する。本講義では、そのなかでも「企業」組織を主な対象として、企業経営の全体像を講義する。経営学のスタンダードなテキストと教員で補足的に作成したプリントに沿って授業を進める。ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源のマネジメントの基礎理論を体系的に習得し、ビジネスで最低限必要な知識を身に着けることを目標とする。	
専門教育科目	基本科目	基本法学	○	本講義の目的は、法学の基礎的な知識（法源、法の機能、法の分類など）を得て、裁判の仕組み（民事裁判、刑事裁判）を知ることで、法や裁判に関心を持ち、社会における法の重要性を理解することである。この目的を達成するため、法学の概要を説明することに加えて、適宜、映画鑑賞や裁判傍聴（民事裁判及び刑事裁判）などを行う。その他、校則問題を取り上げるなどして、日本の法文化について考える。日本の裁判制度については、主に、民事裁判と行政裁判、刑事裁判と裁判員裁判、三審制を取り上げる。また、過去の事件を複数取り上げることで、法の解釈について学ぶ。	
専門教育科目	基本科目	基本経済数学	○	本講義は、経済学の発展的な学習および応用的な分析のために必須となる数学的基礎の体系的習得を目的とする。高校数学の知識を基盤とし、初等代数学、数列、指数関数、対数関数、微分、最適化、確率を段階的に解説する。授業は対面形式で実施し、講義に加えて演習を適宜交え、理論的理解と計算能力の涵養を図る。そして、基礎事項の整理と計算演習に加えて、ミクロ・マクロ経済学における需要供給分析、均衡計算、最適化問題等、経済学的事象への応用についても適宜解説を行う。学修達成度は、小テスト、課題、期末試験等により総合的に評価する。	講義時間 20時間 演習時間 10時間
専門教育科目	基礎科目	ミクロ経済学	○	消費者や企業など、経済を構成する個々の意思決定主体の合理的行動の分析にもとづいて、経済社会を考察するため、それらの最適行動を踏まえた上での、政策評価や政策決定について入門で学んだ内容をより発展させ、基本的に数式と図で講義する。	
専門教育科目	基礎科目	マクロ経済学	○	本講義では、経済全体の動きを理論的に分析し、特に経済成長と国際マクロ経済の二つを中核として考察する。経済成長の分野では、ソロー成長モデルなどを用い、資本蓄積、人口動態、技術進歩といった要因が、どのように長期的な経済成長に影響を及ぼすかを理解する。国際マクロ経済の分野では、為替レートの決定メカニズム、国際的な資本移動、経常収支の理論を学ぶ。さらに、これらの理論的背景に基づき、開放経済体制下における金融政策および財政政策の効果について深く検討する。講義全体を通じ、理論と現実のデータを結びつける訓練を行い、現実のマクロ経済問題への応用力を養うことを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	プロジェクトマネジメント	○	企業の戦略や政府の政策といった社会課題の解決を目標とした種々のプロジェクトを成功に導くための管理手法に関して、その基礎理論を学習する。基礎理論をもとに、データサイエンスを駆使した戦略・政策を実行するためには、どのようなスキルが必要なのかを学ぶことで、データサイエンス教育の見取り図を得る。 （オムニバス方式／全15回） （8 亀山嘉大／5回） 経済学分野でのデータサイエンス教育の基礎とその応用を学ぶ。 （1 羽石寛志／5回） 経営学分野でのデータサイエンス教育の基礎とその応用を学ぶ。 （6 平部康子／5回） 法学分野でのデータサイエンス教育の基礎と社会のデータを扱う上での法を学ぶ。	オムニバス
専門教育科目	基礎科目	マーケティング戦略	○	本講義では、マーケティング戦略に関する基礎的な知識を体系的に習得することを目的とする。具体的には、マーケティングとは何か、その基礎理論および分析手法などについての理解を深めるため、実際のケースをとりあげながら解説する。	
専門教育科目	基礎科目	日本経済論		本講義の目的は、受講者が日本経済の特徴と現在直面している諸問題について基礎知識を身につけ、関心を育めるようになることである。講義に際しては、日本特有の諸制度が多く、社会・経済問題の背景に存在するという、制度的観点を重視する。そのため、企業・労働・社会保障・財政・金融・貿易といった領域ごとに、日本の制度的特色を、国際比較も交えた最新のデータを示しながら解説する。また、それらの制度が形成されてきた過程も理解できるようにするために、戦後日本の経済史についても、併せて講義する。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目	経済学史		本講義は、経済学の学說的展開を体系的に概観し、現代経済学の理論的基盤の理解および資本主義の多面的な把握を深めることを目的とする。重商主義、古典派、新古典派、マルクス経済学、ケインズ主義、そしてフリードマンに代表されるシカゴ学派に至るまで、主要経済学派の成立背景、理論構造、政策的含意を順次解説する。あわせてウェーバーおよびシュンペーターによる社会学的視点を導入し、資本主義の構造と変容を歴史的文脈の中で捉える。授業は対面形式で実施し、講義を中心に進めつつ、古典資料の読解と討議を適宜行うことで、ミクロ・マクロ経済学的理解と思想的洞察の統合を図る。	
	基礎科目	社会情報論		現代社会における情報の役割と経済的・社会的影響を学ぶ。アルビン・トフラーの「第3の波」が示すように、人類は農業社会、産業社会を経て、情報が中心となる社会へと移行した。本講義では、情報化社会の構造変化やデータ活用、SNSの影響などを取り上げる。知識を得るだけでなく、自ら情報を分析し、考え、発信する力を重視する。討論やレポートを通じて主体的に思考し、情報社会における課題を自分の言葉で表現する力を養うことを目的とする。	
	基礎科目	民法総則		民法の基本的な概念と原則を定める民法の総則部分について、民法の歴史と特徴に触れた上で、法律行為、代理といった民法の基礎概念や法律行為の効力否定原因などに関する重要な規範を判例とともに説明する。これによって、民法の基本的ルールとその運用の実態を把握するだけではなく、他分野の法律との区別を理解し、現代社会の日常生活または将来の職務に関わりうる法規範を常に意識することができることを目指す。	
専門教育科目	データサイエンス科目	データサイエンス入門	○	本講義では、データサイエンスの基礎としてデータ分析の基本的な知識と統計解析ソフトを使った実践的な分析手法を修得する。講義の目標は次の通りである。 1．平均値などの代表値の限界を理解し、データの可視化の役割を理解できること 2．統計解析ソフトを使って、データの特徴と2変数間の関連性をとらえられること 3．統計解析ソフトを使って、複数の変数から他の1変数を予測できること 講義の計画は次の通りである。 1．ガイダンス、統計解析ソフトの準備 2．インターネットからの統計データの取得と可視化 3．実数と比率の見方、時系列データの見方、グラフの使い分け方 4．相関分析 5．回帰分析	
	データサイエンス科目	社会調査論	○	本講義では、現代社会を科学的に理解するための社会調査の理論と方法を学ぶ。質問紙調査やインタビュー（面接法）、観察法など、社会現象を定量的・定性的（質的）に捉えるための基本的な手法を取り上げ、体系的に理解する。また、調査設計やサンプリング、倫理的配慮など、社会調査を実施する際に必要となる実践的知識も習得する。社会の動向を的確に把握し、経済・ビジネス・地域社会の課題解決に応用できる力を養うことを目的とする。	
専門教育科目	データサイエンス科目	経済データ分析実践	○	担当教員の過去の研究成果をもとに、どのような発想でリサーチデザインを行い、どのようなデータとどのような分析手法によって、データ分析を行って論文まとめたのかを教授する。その際、どのように種々の課題を克服し、分析結果をどのように解釈したら良いのかもあわせて教授する。 (オムニバス方式／全15回) (8 亀山嘉大／3回) 都市経済・交通経済とテレワークの関係のデータ分析の研究成果をもとに計量分析のリサーチデザインの立て方と分析手続きを学ぶ。 (18 田村一軌／3回) 地理情報システムを使った商圏のデータ分析の研究成果をもとに計量分析のリサーチデザインの立て方と分析手続きを学ぶ。 (14 野方大輔／3回) 経営財務と女性役員の関係にかかるデータ分析の研究成果をもとに計量分析のリサーチデザインの立て方と分析手続きを学ぶ。 (22 篠崎伸也／3回) ペイアウト政策とコーポレートガバナンスの関係にかかるデータ分析の研究成果をもとに計量分析のリサーチデザインの立て方と分析手続きを学ぶ。 (15 内山真由美／3回) ペット同伴サービスと航空法の関係にかかるデータ分析の研究成果をもとに計量分析のリサーチデザインの立て方と分析手続きを学ぶ。	オムニバス
専門教育科目	データサイエンス科目	経済・統計数学		経済学と統計学を数理的に学ぶときに必要となる解析学と線形代数をあつかう。解析については多変数関数の微分を中心に多変数関数の連鎖率と制約つき極値問題の解法の理解を目標にする。線形代数については、行列論に関して固有値がもつ意味の理解を目標とする。また線形空間の基本的事項や数値計算でのアルゴリズムにも言及する。	
専門教育科目	データサイエンス科目	数理統計学		統計的推測手法を確率論にもとづき解説する。確率の数理に関しては、大数の法則、中心極限定理、ベイズの定理の証明も含める。統計的推測については、標本分布の導出を解説したうえで、統計的推定と統計的仮説検定を説明する。統計的推定ではベイズ推定の初歩を仮説検定では2群の比較だけでなく3群以上の比較もあつかう。またノンパラメトリック検定についても解説をおこなう。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	データサイエンス科目	会計学		会計学は財務会計・管理会計・公会計に大別することができる。本講義では、会計学全般の基本的枠組み、及びそれら会計学と簿記との関係を理解することを目標とする。また簿記についても学習を深め、日商簿記2級商業簿記を対象として、基本的取引に対する仕訳など基本的知識の習得を目標とする。	
	データサイエンス科目	統計学演習		確率論と統計学の数理的問題を解くことによって理論の理解を深めると同時に数理能力を高めることを第一の目標として授業をおこなう。また確率統計の理論について数値シミュレーションをおこなうことを通じてプログラミング能力を高めることにあわせて確率統計的な事象に対する理解を向上させる。	
	データサイエンス科目	計量経済学		本講義では、現実の経済データを適用して経済分析を行ったり、あるいは経済理論を検証するために必要な計量経済学の基礎理論の修得を目標とする。計量経済学は、経済学の理論に基づく経済理論モデルを統計学の手法を用いて、現実の経済データから経済現象や経済政策等の効果を数値的に分析することで経済理論モデルの妥当性の有無を検証することを目的とする。	
	社会課題演習	社会課題演習	○	複数クラスに分けて、1年次前期の大学入門科目Ⅰや基本6科目で学んだ知識をもとに、より専門的な知識や技法の習得に向けて、本講義では、本学部の特徴である経済学×法学、経営学×法学、経済学×経営学といった分野融合のもと、実践的な視点から、現実が生じている社会課題を学習し、社会科学全般に対する問題意識を涵養する。同時に、学習した社会課題の題材をもとに、どのようなことを知り、どのようなことが課題と感じ、どのように解決したら良いと思うかを自らの口語表現で伝える能力と技術を涵養する。	講義時間：22時間 演習時間：8時間
専門教育科目	データドリブン科目	空間情報システム		空間情報は我々の暮らしを支える社会基盤のひとつであり、特に社会課題の発見とその解決への調査・分析に活用することが期待されている。この講義では、近年活発に開発されている各種のウェブアプリを利用し、空間情報の特質を理解するとともに空間情報を地域分析に応用するための考え方を身につける。講義は3つの段階に分けられる。まず、空間情報に関する基本知識と空間情報の可視化手法を学ぶ。次に、実際のデータを用いた演習によって、空間情報を地域分析に応用する手法を学ぶ。さらに発展的な分析例を紹介し、空間情報の今後の活用可能性について考える。	
専門教育科目	データドリブン科目	マーケティングリサーチ		マーケティング・リサーチの方法論をテーマとし、マーケティング活動と消費者行動の分析や研究、マーケティング活動における戦略的有効性の質を向上させるための方法論に関する考察や、マーケティング・リサーチが個別戦略にどのように投影され、活用されるかという問題に関する理解を深め、理論的知識が実際のマーケティング戦略において顕在化される諸プロセスを模擬体験しつつ、戦略的思考能力の向上を図るための講義を行う。	
専門教育科目	データドリブン科目	管理会計論		管理会計論の講義では、企業内部の意思決定や業績評価に役立つ情報を提供するための方法と考え方を学ぶ。まず、財務会計との違いを確認し、管理会計が将来志向・内部利用者向けである点を理解する。次に、原価管理、予算管理、業績評価、意思決定会計が中心テーマとなり、CVP分析、差異分析、標準原価、直接原価と固定費の扱い、セグメント別業績評価などを扱う。また、KPI設定や戦略的管理会計としてバランスト・スコアカード、ABCなどの手法も取り上げる。これらを通じて、企業がより効率的かつ戦略的に経営判断を行うための枠組みを理解することが目的である。	
専門教育科目	データドリブン科目	財務会計論		会計学は、企業活動をわかりやすく整理して情報として描き出すことが可能である。現在では企業の経済活動が多方面にわたり複雑化しているため、企業情報をより良く理解するためには会計学の知識が必要となる。本講義では、そのような会計学の基本的考え方とプロセスを中心に講義形式で学習していく。講義を通して受講生の興味ある企業に対して、会計学の視点からより深い理解を得ることが本講義の目標である。	
専門教育科目	データドリブン科目	行動経済学		人間が必ずしも合理的に判断しないという前提に立ち、経済行動を心理学的視点から解明する。限定合理性、プロスペクト理論、ヒューリスティクスとバイアス、ナッジなどの主要概念を扱い、意思決定がどのように歪められ、どのように誘導され得るのかを学ぶ。実験結果や社会的事例をもとに、消費行動、政策設計、企業戦略に応用される実践的知見を理解することを目的とする。講義では、学生自身が行動の背景を分析し、考察をまとめる演習にも取り組み、経済学的思考と人間理解を統合した視点を養う。	
専門教育科目	データドリブン科目	労働経済学		本科目では、労働市場に関する基本的な理論と実証分析の方法を体系的に学ぶ。労働需要・労働供給の決定要因、賃金格差の要因、教育や技能形成の役割、最低賃金などの政策効果について理解を深めるとともに、日本の統計データをを用いた分析事例を通じて、現実の労働問題を数量的に捉える視点を養う。また、データ分析ソフトを用いた基礎的なデータ分析演習を行い、経済データの整理・可視化・回帰分析の基礎を習得する。これらを通じて、理論とデータの両面から労働問題を考察する力を身につける。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目		データドリブン科目	国際貿易論	本講義では、国と国の間で行われる財やサービスの取引、すなわち「国際貿易」について、理論と実証の両面から多角的に学ぶ。第1に、貿易が生じる根本的な理由と、それがもたらす利益について、リカードの比較優位理論やヘクシャー＝オリーン・モデルといった基礎理論を通じて深く理解する。第2に、関税や補助金などの貿易政策、および自由貿易協定（FTA）や地域経済統合が、各国の経済にどのような影響を与えるのかを具体的に分析する。第3に、グローバル・バリューチェーンの進展、環境問題との関わり、デジタル貿易の拡大といった、現代の国際経済が直面する重要な課題にも焦点を当てる。これらの学習を通じて、複雑に絡み合う国際経済の相互依存構造を多面的に考察する力を養うことを目指す。	
		データドリブン科目	地域経済分析	ミクロ経済学に基づき、都市・地域で起こる様々な経済事象が生じるメカニズムを講義する。都市内・都市間それぞれの経済活動の空間分布を論じる種々の理論モデルを概観し、各経済モデルの含意を踏まえながら、統計データを活用して、特定の都市・地域の経済活動で生じているメカニズムの妥当性を定量的に検証する。	
専門教育科目		データドリブン科目	ファイナンス論	本講義では、経済学の一分野である「ファイナンス」に関する基本的な知識を提供する。具体的には、①金融市場の役割や種類、②金融市場における参加者（企業、金融機関、投資家、金融商品取引所）の役割や種類、③取引される金融商品（有価証券やデリバティブ）の特徴や種類について説明する。また金融商品のうち株式や債券に焦点を当て、④これらの商品がもたらす金銭的なリターンに加え、⑤ポートフォリオの組成によって生まれる金銭的なリターンやリスクの算定方法について理論的な説明を加える。そのうえで実際の株価・金利・財務データを用いて、先述した金銭的リターンやリスクの算定方法を確認し、知識の定着を図る。	
専門教育科目		データドリブン科目	ロジスティクスマネジメント	物流活動を最適化し企業価値を高めるための理論と実践を学ぶ。調達、在庫管理、輸送、倉庫管理、情報システムなどの要素を統合的に管理し、コスト削減とサービス向上を両立させる方法を探る。さらに、グローバルサプライチェーン、環境配慮型物流（グリーンロジスティクス）、デジタル化やAIの活用など、最新動向にも触れ、戦略的な意思決定能力を養うことを目的とする。	
専門教育科目		データドリブン科目	原価計算論	原価計算論の講義では、企業が製品やサービスを提供する際に発生する原価を、正確かつ体系的に把握する方法を学ぶ。材料費・労務費・経費からなる製造原価の構成を理解し、個別原価計算・総合原価計算などの計算方式を用いて原価を算定する。また、標準原価計算による差異分析や、直接原価計算による意思決定支援など、管理会計的な活用方法も扱う。これらを通じて、コスト把握、価格設定、経営管理に役立つ知識を身につけることが目的である。	
専門教育科目		データドリブン科目	公益事業論	企業行動や市場構造、産業パフォーマンスをデータに基づいて分析するための理論と手法を学ぶ。産業組織論の基礎概念（市場支配力、参入障壁、価格戦略、寡占モデルなど）を踏まえつつ、実証研究で用いられる計量経済学のアプローチを紹介する。具体的には、需要推定、構造推計、競争政策評価などを取り上げ、現実の市場データから企業の戦略的行動を読み解く力を養う。演習では、データ分析や文献レビューを通じて、理論と実証の結びつきを理解し、政策立案や企業戦略に応用できる実践的分析力を身につけることを目的とする。	
専門教育科目		データドリブン科目	政策シミュレーション	現代社会が抱える種々の課題を分析対象として、政策の立案に至る過程をミクロ経済学やマクロ経済学の理論に基づき理解する。その上で、政策指標であるなんらかの変数を動かすことで、部分均衡や一般均衡に対して、どのような影響や結果が生じるのかをシミュレーションによって明らかにする実践体験を得る。	
専門教育科目		データドリブン科目	政策評価分析	国や地方自治体が策定し実施する政策を取り上げて、データサイエンスに基づく政策評価の手法を学習する。政策評価分析の理論的な背景を講義した上で、Excelや統計パッケージソフトRを活用してサンプルデータに基づく演習を行う。費用便益分析をはじめとした種々の政策評価の演習を通じて、政策評価を実践的に理解する。	講義時間：20時間 演習時間：10時間
専門教育科目		データドリブン科目	経営財務論	現代企業はさまざまな経営課題を抱えており、特にカネに関わる問題は複雑化している。そこで、資本調達、投資、ペイアウトといった企業の財務活動の基本原理、応用理論を講義する。財務理論をもとに、企業価値を最大化するためにどのような意思決定が必要か、現代企業の直面する課題に対していかなる財務的な意思決定が有効かをビジネスの場で議論できるようになることを目標とする。	
専門教育科目		データドリブン科目	オペレーションズリサーチ	オペレーションズ・リサーチ（以下OR）は、複雑な意思決定や資源配分の最適化を数学的にモデリングする学問領域であり、現代の経済・経営教育において欠かすことのできない分野である。本講義では、ORのなかでも基本である数理計画、そのなかでも汎用性の高いモデルである線形計画と混合整数計画の数理モデルを中心に紹介する。それと並行して、OR理論の適用された事例も紹介し、当該学問領域の実社会との親和性も確認する。	
専門教育科目		データドリブン科目	自治体行財政分析	地方自治体の財政に関して、実務的な視点から、会計や組織など基本的な財政制度のあり方を学習する。その上で、実際のデータを活用しながら、地方自治体の歳入にかかる種々の財源（国との関係を含む）を学習し、歳出にかかる予算編成手法を学ぶとともに、データ分析を通じて地域活性化の効果を検証する。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	金融論		金融市場の基本的な概念、銀行券や貨幣を勉強し、また日本銀行の機能と役割や国際通貨システムの形成から現代に至る前の諸制度について講義する。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	財政学		本講義での財政学の位置づけは、現在眼の前で動いている財政問題に関わる社会課題への認識を遅延なくアップデートしつつ、かつそれを教科としての財政学の蓄積の学習と両立させ、後者との関連の上で学生に現実の理解を促すことにある。内容としては租税制度、公共財供給、市場の失敗への手当、所得再分配と社会政策、裁量的財政政策、長期経済成長を考慮した経済政策と財政との関連などである。また公共選択・政治経済学的背景を基盤に財政、特に予算制度を考察する。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	公共経済学		公共経済学は、経済学の公共部門への幅広い応用であると同時に、特に財政学の理論的背景を提供するものである。公共経済学は市場の失敗と政府の失敗の両方を研究領域とするが、本講義では特に政府の失敗に重点を置いて議論を展開する。公共選択から現代の政治経済学へと発展した歴史的経緯を踏まえた学術史的発展を理解の背景とし、今日重視される情報の非対称性（契約理論）やゲーム理論に基づく諸議論を展開する。また近年の行動経済学的展開にも一部触れる。政治家・官僚・利益団体の行動、投票者や民主主義過程の限界、権力分立や立憲的ルールといった古典的な諸議論から、更に今日の現代政治経済学的な背景を通じた諸議論（選挙制度の選択、政治的予算循環、改革遅延の経済学等）までも展開し、最終的には現在のポピュリズム社会への問いへとつなげていく。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	産業組織論		産業組織論の基礎理論（市場構造、市場行動等）についての理解を深めることを目的とするとともに、価格差別化競争、M&A、規制、取引関係など 世の中で多く観測される企業間の相互依存関係に関する経済理論を解説し、ミクロ経済学・ゲーム理論を応用することによって、独占禁止法やその他の競争政策が、各産業に与える影響について理解し、望ましい産業政策について考察する。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	都市経済学		都市経済学の主要な課題の1つである土地利用のメカニズムを取り上げ、ミクロ経済学に基づく都市経済学の理論を教授する。特に、余剰分析を活用した分析によって、法制度が土地市場を歪め、社会厚生に損失を発生させている土地利用の実態を学習する。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	環境経済学		本講義では、経済活動と環境問題の相互関係について、経済学的な手法を用いて分析する。第1に、環境問題が「外部性」や「公共財」といった概念によって「市場の失敗」として生じるメカニズムを理解する。第2に、その解決策として、環境税や排出権取引制度などの主要な政策手段を取り上げ、効率性と公平性の観点から比較検討する。第3に、持続可能な発展、再生可能エネルギーの導入、企業の環境戦略、気候変動をめぐる国際交渉といった、現実的かつ重要な課題についても考察する。本講義を通じ、理論と実証の両面から、実効性のある政策的含意を導き出す能力を養うことを目指す。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	開発経済学		開発経済学の性質や発展途上国の多様な構造と共通な特徴、同諸国が直面している諸問題、経済発展とは何か、経済政策の役割、今までの経験、現代の経済発展に関する重大な課題などに関する基本的な知識、また、同諸国の貧困、不平等、人口増加、人的資本、都市化、農業の変容、および環境に注目することにより、どのように持続可能な経済・社会発展過程を経験したかどうかを理論的かつ実証的に検討するための講義を行う。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	農政経済論		講義形式でおこなう本講義は、農業の特殊性－人間・自然・環境・生活の結合部に位置し、市場メカニズムや資本主義になじまない限界的側面を有すなど他の産業とは異なることを踏まえつつ、世界の食料事情と食料の戦略的意味、主要国の価格・所得政策とグローバリゼーション下における農業政策の統一化、農産物をめぐる自由貿易体制の功罪などについて、見識を深め考察する。受講生は本講義を通じて、農業の特殊性、世界における食料の捉え方、価格・所得政策の意義と展開、農産物をめぐる自由貿易体制の展開について、どうあるべきかを自ら考えることができるようになることが本講義の目標である。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	日本農業論		講義形式でおこなう本講義は、日本農業を対象に、戦後農政の展開とともに農業者はどのように変容してきたのか、また農業者だけではなく集落営農や農業参入した企業などの担い手の展開や課題について考察する。さらに、農業者の生活・農業生産の空間である農村地域は、戦後の高度成長とともにどのように変化してきたのか、そこでの課題を踏まえ現在どのようにして地域を守ろうとしているのか、農業生産・農村生活の現場の実践実態について、見識を深め考察する。受講生は本講義を通じて、戦後における日本農業の担い手の展開と課題、農村経済・農村社会の変容と現場での実践実態を学ぶことで、今後の日本の農業、農村経済・農村社会がどうあるべきかについて、自ら考えることができるようになることが本講義の目標である。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目		プロジェクトデザイン科目	Asian Economics	The rapid economic growth observed in many Asian countries is progressively shifting the growth center of the world economy from North to South. Asia, home to approximately 60% of the world’ s population, exerts a significant influence on the international economy. However, this growth is accompanied by substantial resource consumption, which poses serious challenges to the global environment. Despite these developments, critical economic and social issues-such as poverty, unemployment, and inequality-remain unresolved across much of the region. These challenges are further intensified by geopolitical tensions, natural disasters, and the accelerating forces of globalization. In light of these complex dynamics, the primary objective of this lecture is to elucidate the prospective transformation of the Asian economy in the 21st century through both theoretical and empirical analyses of the region’ s economic development. 多くのアジア諸国における急速な経済成長は、世界経済の成長の中心を北から南へと徐々に移行させています。世界人口の約6割を占めるアジアは、国際経済に大きな影響力を持っています。しかし、この成長は膨大な資源消費を伴い、地球環境に深刻な問題をもたらしています。こうした発展にもかかわらず、貧困、失業、不平等といった深刻な経済・社会問題は、依然としてアジア地域の大部分で未解決のままです。これらの問題は、地政学的緊張、自然災害、そして加速するグローバル化の力によってさらに深刻化しています。こうした複雑なダイナミクスを踏まえ、本講義の主目的は、21世紀におけるアジア経済の将来的な変容を、アジア地域の経済発展に関する理論と実証の両面から明らかにすることです。	
		プロジェクトデザイン科目	日本経済史	授業形態は、講義形式である。 到達目標は、日本経済史の学修を通して、食料危機・燃料危機といった難問を、我々の先人達が、どのように回避してきたかを理解し、説明できるようになることである。 授業計画等の概要は、下記の通り。 日本の歴史を諸外国の歴史と比較した場合、最大の特徴は、繁栄と安定を享受した平和な時代が、長期間に渡って持続した点にある。いくさに明け暮れた戦国時代も、実は人口が増加しており、諸外国の戦乱期に見られる人口崩壊現象は生じていなかった。だが江戸時代は、人口爆発、環境破壊、気候変動、食料・燃料需給の逼迫等の難問を、現在の世界と同様に抱えていた。では江戸幕府は、こうした難問をいかに解決し、人口崩壊を回避したのか。本講義では、こうした問題を中心に考察する。	
専門教育科目		プロジェクトデザイン科目	アジア経済史	授業形態は、講義形式である。 到達目標は、アジア経済史の学修を通して、経済成長の史実と理論を修得し、現在のアジアの経済社会が、どのような経緯によって形成されたのかを、説明できるようになることである。 授業計画等の概要は、下記の通り。 近世以前の欧州ーアジア間貿易は、欧州は貿易赤字で、アジアは黒字であった。つまり、欧州は経済的後進地域であった。だが、英国産業革命以降、両者の経済的地位は逆転する。では、なぜ英国で産業革命が発生したのか。最も重要な要因が、大衆需要の増加である。なぜなら、産業革命の基軸産業は機械綿紡績業だが、綿製品は大衆衣料だからである。18世紀後半に、米国独立革命、フランス革命、寛政改革等により、大衆軽税国家路線が定着した欧米諸国と日本は、大衆需要の増加により産業革命を達成し、20世紀には工業国家へと成長した。一方、清朝中国は、白蓮教徒の乱を鎮圧後、重税国家化し衰退した。このように、20世紀の世界経済は、18世紀後半の主要各国の政策に、形成の契機がある。	
		プロジェクトデザイン科目	企業論	本講義では、経済社会を支える主体の1つである企業について経済学や経営学の観点から理論的に考察するとともに、現代の企業が抱えている諸問題に焦点を当て、企業に関する基本的な知識を提供していく。具体的には①営利法人と非営利法人の種類と特徴、②公企業の種類と民営化、③コーポレートガバナンス（企業統治）とCSRおよびSDGs、④企業再編（M&A、会社分割、持株会社化）、⑤戦略的提携、⑥独占と寡占、⑦中小企業とベンチャービジネス、⑧グローバル化を取り扱い、適宜実際の事例を取り上げながら理論的に説明を加える。	
専門教育科目		プロジェクトデザイン科目	経営情報論	企業経営における情報の活用と価値創造の仕組みを学ぶ。経済活動の高度情報化が進む中で、経営資源としての情報の位置づけや、組織における知識の共有と創造の重要性を考察する。特に野中郁次郎のSECIモデル（共同化・表出化・連結化・内面化）を取り上げ、知識がどのように組織内で循環し、イノベーションを生み出すのかを具体的事例とともに理解する。講義では、企業データや事例分析を通じて、情報を戦略的に活用し、変化する経営環境に対応できる実践的思考力を身につけることを目的とする。	
専門教育科目		プロジェクトデザイン科目	経営戦略論	企業が持続的な競争優位を確立するための思考枠組みと分析手法を学ぶ。古典的戦略論から現代のビジネスモデル論まで幅広く扱い、外部環境分析（PEST・5フォース）、内部資源分析（RBV）、競争戦略、成長戦略、イノベーション戦略などを体系的に理解する。事例研究やディスカッションを通じて、企業の意味決定を戦略的に捉える力を養い、自ら戦略を構築・評価する応用能力の獲得を目指す。	
専門教育科目		プロジェクトデザイン科目	経営管理論	企業をとりまく経営環境を理解しながら、主に企業家の立場からの経営管理に関する理論および方法を講義する。そこでは、優れた企業の企業家は、どのような要件を兼ね備えているのか、様々なステークホルダーに対する使命観や貢献意欲といった経営理念を持ちながら、どのように経営目標の達成に向けて、戦略・戦術を組み、マネジメントサイクルを回していくのか、さらに、人材育成や組織の活性化、マーケティングの手法等についても理解を深めていく。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	経営組織論		企業組織の構造と行動を理論的・実証的に理解する。組織構造、モチベーション理論、リーダーシップ、組織文化、意思決定プロセス、組織間関係など主要テーマを取り上げ、組織がどのように設計され、どのように機能するのかを考察する。国内外の企業事例を用い、環境変化に対応する組織デザインのあり方や働き方改革、イノベーションを促す仕組みについて検討する。学生は組織現象を多角的に捉え、実務に応用できる分析力を身につけることを目的とする。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	経営労務論		企業の経営資源は、ヒト・モノ・カネ・情報から構成されている。経営労務論ではこのなかでヒト資源、すなわち人的資源のマネジメントを学習する。人的資源は、他の諸資源と異なり、生身の感情を持った人間なので、その管理に困難をとまなう。本講義では生身の人間の特徴を踏まえて、雇用管理、人材育成、評価・報酬制度体系、福利厚生、労使関係制度といった労務管理の諸制度を紹介し、現代にいたるまでどのように多様化してきたのかを紹介する。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	マーケティングコミュニケーション		本講義では、消費者行動とマーケティング・コミュニケーションに関わる基本的な考え方について学ぶと共に、市場環境における多種多様な環境変数に関連するトピックについて消費者心理・消費者行動を中心テーマとして捉えつつ考察を行うことで、与えられた環境や状況に応じたコミュニケーション戦略の立案過程に関する理解を深めていくための解説及び講義を行う。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	ブランド戦略論		本講義ではマーケティングの重要な位置を占めているブランド戦略をとりあげ集中的に考察することで、マーケティング活動の広がりやその特性をより深く理解することを目的とする。具体的にはブランドを中心としたマーケティングの考え方およびその戦略課題ついて理解を深めることを目的とする。また、小売のブランド戦略、地域ブランド戦略とその有効活用方法など今日の主要テーマについても検討を加える。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	知的財産法		知的財産法制度全般の歴史と趣旨に触れた上で、著作権法、特許法、商標法、不正競争防止法といった主要な個別法の原則・原理、重要な法規範、主な争点、法改正の動向を判例等とともに学ぶことによって、基礎的な知的財産観を育てるだけではなく、解釈論上または立法論上の議論の余地があるところも正確に把握し、日常生活または将来の職務に関わりうる知的財産法の規範を常に意識することができることを目指す。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	物権法		民法科目の1つであり、民法第2編物権の概説を行う。「物権総則」、「占有権」、「所有権」、用益物権である「地上権」、「永小作権」、「地役権」、及び担保物権として「留置権」、「先取特権」、「質権」、「抵当権」を講義対象とする。公示制度を踏まえたうえで、法が社会制度における役割と機能に留意し、法文の解釈を中心に授業をすすめる。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	債権法		現代の取引社会は契約社会であるといわれる。契約（合意）を基礎に種々の財貨（物又はサービス）の移転が正当化されている。財貨の移転は強制力を有する債権（規範）に支えられている。本講義では、債権の基本的構造・効果、および債権の発生原因である契約に関する基礎的なルール（民法「第3編債権」）の概説を行う。財産権としての債権が民法典において果たす意義を整理したうえで、債権の基本構造につき「第一章債権総則」、債権の発生原因である典型契約について「第二章契約」を講義対象とする。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	刑法総論		本講義の目標は、刑法の基本原則を理解し、犯罪や刑罰に関する基本的な考え方を身につけることである。最初に、罪刑法定主義とその派生原理といった刑法の基本原則を学ぶ。次に、犯罪論について、構成要件論、違法論、責任論の順で体系的に学び、具体的な事例を検討する。最後に、刑罰論について、刑罰の正当化根拠を学び、刑罰制度の在り方を検討する。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	刑法各論		本講義の目的は、刑法総論で学んだ刑法の基本原則、犯罪一般の成立要件をもとに、刑法典の第2編「罪」に列挙されている個別の犯罪に特有の成立要件や、他の犯罪との違いを明らかにすることである。個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の概要を説明する。講義では、解釈論として論点の多い個人的法益に対する罪を重点的に取り上げる。さまざまな論点に関する判例と学説を理解して、具体的な事例を検討する。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	労働法Ⅰ		労働法の基本的事項及び個別的な労働関係をめぐる法規律（雇用関係法）を中心に各回のテーマで設定した課題（1 労働法総論、2 個別的労働関係法総論、3 就業規則、4 労働憲章・雇用平等、5 雇用関係の成立、6 若者雇用、7 人事、8 賃金、9 労働時間(1)、10 労働時間(2)、11 休暇・ワークライフバランス、12 安全衛生・労災補償、13 職場規律と懲戒、14 雇用関係の終了(1)、15 雇用関係の終了(2)）について労働法を理解することを目的とする講義である。適宜質疑応答を取り入れる。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	労働法Ⅱ		労働法Ⅰで扱わなかった非典型雇用や労働市場法、労働組合と使用者との集団的な労働関係をめぐる法規律（労使関係法）を理解し、各回のテーマで設定した課題（1 非典型雇用(1)、2 非典型雇用(2)、3 労働市場と法、4 集団的労働関係法総論、5 労使関係の当事者、6 労働組合の内部問題、7 団体交渉、8 労働協約、9 争議行為、10 組合活動、11 不当労働行為(1)、12 不当労働行為(2)、13 労働紛争の解決、14 労働法の課題(1)、15 労働法の課題(2)）について、労働法Ⅰと併せて労働法の全体像を把握し、課題を発見することを目的とする講義である。適宜質疑応答を取り入れる。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	社会保障法Ⅰ		この講義では、社会保障法の基本的な考え方を理解し、あわせて立法的課題を考えることをねらいとする。医療保障・年金保険・高齢者福祉、生活保護を扱いながら、社会保障法の当事者・給付事由・給付要件・給付内容・費用負担・権利救済の側面から社会保障法を学ぶ。社会保障の基礎的な制度における法律関係を理解すること、特に市民（受給者・費用負担者）からみる課題を理解することを到達目標とする。	
	プロジェクトデザイン科目	社会保障法Ⅱ		この講義では、社会保障法Ⅰを発展させて、労働災害補償・雇用保険といった労働法と密接に関連する分野、児童福祉・障害者福祉といった民法・行政法とも関連する分野について理解を深めることを目的とする。社会保障法の諸規定の背景を知るとともに、法律関係を他の法律分野との関連を含めて説明できること、特に市民（受給者・費用負担者）からみる課題を説明できること、を到達目標とする。	
	プロジェクトデザイン科目	政治学		本授業は、危機の時代に、戦後の経済や社会について見直し、希望の時代を切り開くために政治が果たす役割について考え、政治についての基本的な知識や情報を身に着けることを目的とする。この授業の到達目標は、授業で身に着けた知識や情報によって受講生が、①現在、私たちが生きている社会や政治について基本的な知識や情報を習得し、②社会に起きている政治的現象に関心をもったり、自分なりの意見がもてたり、③できるなら、主権者として市民として、選挙での投票をはじめ積極的に社会や政治に関わっていけるようになることである。	
	プロジェクトデザイン科目	憲法		本講義の目的は、日本国憲法が定める統治のルールを理解するとともに、憲法上の権利に関する基本的知識を身につけることである。実際の統治のあり方や現実が生じている人権問題について、講義で得た知識に基づき考察できることを目標とする。日本国憲法は、国民の権利の保障を図るため、統治機構の活動に一定のルールを設け、各機関のバランスをとっている。この授業では、憲法の定めるルールの内容及び趣旨について説明した上で、実際の運用について検討する。また、憲法で保障される権利の内容、限界について、基本的な学説や判例を紹介しながら、講義を行う。これにより、テレビや新聞で報道される人権問題について、具体的なイメージを持ち、憲法的な視点から考察する力を身につける。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	行政法総論		本講義では、諸々の行政活動がどのように行われているのか、そして、その行政活動をいかに法的にコントロールするのかを検討することによって、現代日本の行政法（学）のありようを考察する。行政法の基礎的な仕組みや概念を理解し、説明できること、行政活動の諸類型の意義とその法的統制を理解し、説明できること、新聞等で取り上げられる行政に関する法的な諸問題について、行政法（学）の観点から思索し、議論できること、を到達目標とする。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	行政救済法		本講義では、行政法総論で学ぶ様々な行政活動によって市民の権利や利益が侵害された場合に、いかなる法的な救済が与えられるのかを学ぶ。行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法などの法律が規律している法的な救済方法について要件や効果を学ぶことはもちろん、とりわけ解釈論上の議論がある箇所を中心に、判例・学説を概観し、行政活動に対する法的な救済のありようを正確に理解することを目指す。これにより、行政法総論を含む行政法秩序の全体構造を理解することを目的とする。	
専門教育科目	プロジェクトデザイン科目	会社法		本講義の目的は、会社法の基礎を体系的に理解することである。株式会社を中心に、会社の設立や株式、機関、資金調達、組織再編等会社法の基礎を体系的に理解できるように、具体的な事例を交えながら解説を行う。本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての会社法の考え方を修得することを到達目標とする。具体的には次の3つである。①会社法の基本的仕組みを理解できる。②会社法の基本的問題に関して認識できる。③具体的な問題解決に必要な会社法の仕組みと解釈方法を修得できる。	
専門教育科目	演習	プロジェクトマネジメント演習 2 年	○	各学生の指導教員のクラスにて、社会課題の発見とチームによる課題解決の基礎を学ぶ。経済学・経営学・法学の多面的な視点から、地域経済や企業活動、社会制度の現状を分析し、問題の背景を理解することを目的とする。グループワークを通じて、情報収集・企画立案・役割分担など、プロジェクト遂行に必要な初歩的スキルを習得する。学生は主体的な議論を重ねることで、論理的思考力と協働の実践力を身につけ、社会的課題に向き合う基礎力を養う。	
専門教育科目	演習	プロジェクトマネジメント演習 3 年	○	各学生の指導教員のクラスにて、実践的な課題解決を通じて、プロジェクトの計画・実行・評価のプロセスを体系的に学ぶ。経済・経営・法の各ゼミの専門性を生かし、企業・行政・地域社会が抱える問題に対して具体的な提案を行う。学生は、データ分析や現地調査を踏まえ、チームで戦略的な企画を立案・実行する。理論と実践を往還しながら、合意形成力やリーダーシップを育み、現実の社会課題に応答できる実践的思考力を養成する。	
専門教育科目	演習	プロジェクトマネジメント演習 4 年	○	各学生の指導教員のクラスにて、これまでに培った知識と経験を統合し、社会課題の解決を目指す研究・実践プロジェクトを遂行する。経済学・経営学・法学の各アプローチを活かし、自ら設定したテーマに基づき調査・分析・提案を行う。学生は研究成果を卒業論文や発表としてまとめ、理論的裏付けと実践的意義を両立させたアウトプットを目指す。社会に開かれた学びを通じて、課題発見力・分析力・表現力を備えた人材としての成長を促す。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	演習	フィールド演習		プロジェクトマネジメント演習の発展的科目として位置づけられ、外部組織（企業・自治体・NPOなど）との共同研究や調査活動を通じて、実社会の課題解決に取り組むことを目的とする。学生は、経済学・経営学・法学の視点を生かしながら、地域経済や組織運営、制度設計などに関する実践的プロジェクトを企画・実行する。現場でのフィールドワークを重視し、課題発見から成果発表までを一貫して経験することで、理論と実践を結びつける応用力と協働力を養う。なお、本演習はプロジェクトマネジメント演習に連動しており、卒業までに最大4単位の取得が可能である。	
専門教育科目	実践科目	証券市場分析		株式市場、債券市場、外国為替市場についての基礎知識、金融商品と生活設計におけるその活用、これからの産業展望と企業評価の方法など、就職だけでなく、生きていくうえで必要な金融知識を講義する。	
専門教育科目	実践科目	現代の労働		本講義の目的は、現代の労働現場に生じている諸問題と、それらの解決に向けて労働組合やそれに関連する組織が果たしている役割について、その実践に当たっている人々の話を受講者が聴講することによって、理解を深めていくことである。この目的のため、本講座の寄付提供者である連合佐賀を始め、自治労、UAゼンセン、電力総連といった各産別労組、また地方労働委員会や、労働者福祉協議会、労働金庫といった各団体から、外部講師を招いてリレー講義を行い、労働運動が果たしている役割について具体的・実践的な解説を行っていく。	
専門教育科目	実践科目	現代の経営		佐賀県内の経営者および企業を取り巻く経営環境、経営戦略、経営組織の形成、企業文化の醸成、地域社会への貢献などについて各業界の立場から状況を把握するとともに、創業支援や経営及び再生支援について信用保証の観点から講義する。	
専門教育科目	実践科目	PRデザイン		広報やPRの基本を軸に、コミュニケーション・デザイン・企画立案などの視点を統合的に学び、Public Relationsの本質を理解する。広告やPRの質を高める“共感を生む情報設計”を行う力を養い、学生が自ら考えたアイデアを社会に伝わる形で表現できるように講義と演習を通じたワークショップ形式で、デザイン演習・発表を実践的に行う。	講義時間：10時間 演習時間：20時間
専門教育科目	実践科目	実践会計		講義で学習した理論が実務でどのように応用されているか、会社における経理の現状及び課題、税務の仕組み及び会計監査について講義する。具体的には会社内における会計の利用法、業種・組織別の会計、会計事務所の役割について説明する。また、会社内における会計では経営分析を行うため、講義前半では経営分析の基礎を学習し、業種・組織別の会計では業種・組織の経営課題についても学習し、会計課題のみならず経営課題の現状把握により経営学的視点から理解を促す。	隔年
専門教育科目	実践科目	市民と法		本授業は、現代の日本の社会において生じている様々な法的問題に市民がどのように対処すべきかについて講義するものである。私たちが生活する高度に情報化した社会では、消費者被害や特殊詐欺などの犯罪の被害に遭うなど様々なトラブルに巻き込まれる危険がある。そのようなトラブルは法的知識を身につけることで回避できることも多い。また、離婚や相続、クレジット・サラ金、交通事故など日常生活と密接に関連する法的な問題がある。市民と法がどのように関わるのか、ということ幅広い分野から学習することで、受講生が基本的な法分野を幅広く見渡すことができる姿勢と知識を身につけることを目的とする。	
専門教育科目	外国語科目	ビジネス基礎英語		リスニングの基礎コースで、リスニング・ストラテジーの指導を行う。聞き取りを中心に学習するが、ボキャブラリーの増強、口頭・筆記によるコミュニケーションなどの他のスキルも講義する。	
専門教育科目	外国語科目	ビジネス・コミュニケーション英語		ビジネスにおける英語によるコミュニケーションのためのスキルの向上を図るため、ビジネスで必要とされる適切な英語表現を学習し、様々な場面を想定したロールプレイ活動を行う。リスニング問題やライティングの活動も行う。	
専門教育科目	特殊講義	特殊講義		時代の変化や社会的要請に応じて柔軟に開講される発展的科目であり、経済・経営・法の各分野を基盤として、多様なテーマを扱う。国内外の社会課題や新たな経済動向に即した特別講義、実践的ワークショップ、外部専門家による講演などを通じ、理論と実社会を結びつけた学びを提供する。また、国際交流実習を含み、海外の大学や機関との協働学習や現地調査などを行うことで、異文化理解と国際的視野を育む。学生は、学際的かつ実践的な学修を通じて、変化する社会に対応できる柔軟な思考力と行動力を身につけることを目的とする。	